

わたしの^{せいしよ}聖書が^{いちばん}一番！ 11^{かん}巻

^{うたが}疑いから^{しんこう}信仰へ～
^{さま}イエス様の^{あい}愛を^わ分かち^あ合う

～ヨハネによる^{ふくいんしよ}福音書 20 章 - ^{しやう}使徒行伝 ^{しとぎやうでん} 10 章^{しやう}～





もくじ

だい しょう	うたが	しんこう	1		
第1章	疑いから	信仰へ	1		
だい しょう	うみべ	8			
第2章	ふたたび	海辺にて	8		
だい しょう	さま	しょうてん	15		
第3章	イエス様	の昇天	15		
だい しょう	せいれいくだ	23			
第4章	聖霊	下る	23		
だい しょう	あし	ふじゆう	おとこ	30	
第5章	足の	不自由な	男	30	
だい しょう	せいちょう	きょうかい	37		
第6章	成長する	教会	37		
だい しょう	やくそく	44			
第7章	やぶられた	約束	44		
だい しょう	まよなか	ほうもんしゃ	51		
第8章	真夜中の	訪問者	51		
だい しょう	にん	とくべつ	はたら	びと	58
第9章	7人の	特別な	働き人	58	
だい しょう	ちゅうじつ	しつじ	65		
第10章	忠実な	執事	65		
だい しょう	でんどうしゃ	72			
第11章	伝道者	ピリポ	72		
だい しょう	め	79			
第12章	召しに	こたえる	サウロ	79	
だい しょう	さま	あい	わ	あ	86
第13章	イエス様	の愛を	分かち	合う	86

だい しょう 第1章

うたが 疑いから しんこう 信仰へ



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

「もし人が、イエスを神の子と告白すれば、神はその人のうちに
いまし、その人は神のうちにいるのである。」

だい 第1ヨハネ 4:15

にちようび 日曜日

イエス様は生きておられたのです！天使たちは、そのことを知っていました。他世界の住人たちも皆、知っていました。また、サタンと悪天使たちも、そのことを知っていました。そしてサタンは、怒りでふるえていました。なぜなら、イエス様がよみがえられたということは、自分たちが最後には滅ぼされてしまうことを意味するからです。しかも、永遠に滅ぼされるのです。

墓を見張っていたローマの兵士たちも、イエス様が生きておられることを知っていました。そして彼らは、ピラトに知らせるために道を急ぎながらも、途中で会ったすべての人にその事を語ったのでした。

祭司たちも、イエス様が生きておられることを知っていました。そして彼らは、これまで以上に怒り狂っていました。彼らは兵士たちにお金をわたして、イエス様の体を弟子たちが墓から盗み出したとピラトに伝えるように頼んでいました。ところがピラトは、それ



が嘘だということを知っていて、恐ろしさでふるえていました。もっと勇気を出して、イエス様が十字架につけられるのを止めるべきだったと後悔していたのでした。

日曜の朝早くに墓へやってきた女たちも、イエス様が生きておられることを知っていました。

マリヤは、イエス様に会って話もしていました。また、墓のそばにいた天使は、イエス様が生きておられることを弟子たち、特にペテロに伝えるようにと、女たちに告げました。自分が臆病だったことを、ペテロがどれほど後悔しているか、イエス様はよくご存知でした。ペテロは、ほかの弟子たちよりも深く悲しんでいました。イエス様がだれなのかも知らないと言ってしまったからでした。ですからイエス様は、今でもペテロを愛しているということ、どうしても伝えなかったのです。

ところで、日曜日の朝、悲しみながら家に向かって歩いていた、あのふたりの弟子を覚えていませんか？イエス様は、彼らといっしょ



に歩いておられ
ましたね？ふた
りはどうして、そ
のおかたがイエ
ス様であると気
づきましたか？
イエス様が生き
ておられると知った彼らは、すぐにどう
しましたか？

かんが
考えてみよう：イエス様は、その時もま
だ人間であられましたか？はい。なぜふた
りの弟子は、そのおかたがイエス様であ
るとすぐに気づけなかったのでしょうか？イエ
ス様は本物の人間であられましたか、死
なれる前とよみがえられた後では、何かち
がいがありましたか？明日、そのことにつ
いて考えましょう。

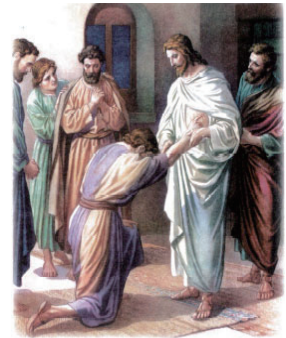
げつようび 月曜日

てんし
天使は、実際に存在しますか？あな
たの保護天使は、ずっとあなたの
そばについていますか？その保護天使は、
目に見えますか？時には天使が、人間の
姿をしてあらわれることもあるのでしょうか？
イエス様は人となられる前にも、時々人間
の姿をしてあらわれ、人々と話されたこと
がありましたか？そういった聖書の記録を
思い出せますか？〔アブラハムのところへ
やってきた3人の旅人、ギデオンやサムソ
ンの物語など〕

人となられたイエス様は、同時に神で
もあられました。しかし、人として楽に生
きるために、神としての力を用いたことは

いちどもありませんでした。そうするのは
公平でないことを、ご存じだったからです。
イエス様は人間であられたと同時に、神
であられました。人間であられるからこそ、
わたしたちの思いを知ることがおできにな
るのです。

サタンはどうかして、イエス様に神と
しての力を使わせようとしていました。サタン
がイエス様を誘惑したときのことを、思い
出せますか？けれどもイエス様がサタンに
したがったことは、ただのいちどもありま
せんでした。彼が神としての力をお用い
になったのは、ほかの人たちを助けるた
めであって、ご自身を助けるためではあり
ませんでした。



よみがえられてか
らのイエス様は、神
としてのすばらしい
力をお用いになりま
したが、やはり、ご
自身のために用いる
ことはありませんでし

た。だれにも見られることなく、扉を通りぬ
けられました。どのようにして、イエス様と
天使たちがさまざまな奇跡を行うのか、わ
たしたちにはわかりませんが、彼らにはそ
のような能力がそなわっているのです。

かんが
考えてみよう：どこにいようと、いつで
も保護天使がいつしよにいてくれることを、
あなたはうれしく思いますか？

かようび 火曜日

にちようびよるいがいでし
日曜日の夜、トマス以外の弟子た
ちは、3日前にかまえさますぎこ
しゆうしよくへやあつ
しの夕食をしたあの部屋に集まり、おびえ
ていました。そのひあさ朝によみがえられた
イエス様は、弟子たちの中でもペテロだけ
にすがたをあらわしておられました。それから
よる夜になって、とつぜん、でし
弟子たちがいたあ
へやの部屋にあらわれたのでした。彼らがどれ
ほどよろこぶか、あなたはそうぞう
想像できますか？

ルカ 24:34.36。

でしおな
ほかの弟子たちと同じく、トマスもイエ
さましふかかなきぼううしな
ス様の死を深く悲しみ、希望を失いかけ
ていました。かれこころ
彼は、心からイエス様を愛
していました。また、ほかのでし
弟子たちとおな
同じように、イエス様が王となり、彼らの敵
をおほらくだしん
を追い払って下さると信じていました。と
ころが、イエスさま
様がよみがえられたことを
きかかれしん
聞いても、彼にはそのことがまるで信じら
れませんでした。

でし
弟子たちはトマスに、イエスさま
様がその
へやの部屋においでになって、自分たちと話をし
たことを告げました。しかし、トマスには
まだ、そのことがしん
信じられません。かれ
彼は、
イエスさま
様が生きておられることを自分の目
でたし
確かめるまでは、しん
信じないと言いました。

ヨハネ 20:25。

「しかも・・・」トマスはおも
「イエスさま
様がほんとう
いに生きておられるのなら、
なぜ自分にもあらわれてくださらなかった
のだらう？」トマスは、すこ
少しやきもちをや
いていました。イエスさま
様がよみがえられ

てから1週間がたっても、まだしん
信じようと
しませんでした。あるばん
晩トマスは、ほか
のでし
弟子たちといっしょに過ごすことにしま
した。それから何が起ったかを、あす
明日、
べんきよう
勉強しましょう。

かんが
考えてみよう：うたが
疑うことは、しん
信じないこ
ととおなじです。もしあなたがほんとう
本当でないこ
とばかり話していたら、ほかの人は
はな
人たちから
しんよう
信用されなくなることでしょう。ですから、
いつでもほんとう
本当のことを話すようにしましよ
う。イエスさま
様はいつでも、しんじつ
真実をお話し
なさいました。そしてやくそく
約束なさったとおり、
よみがえられたのでした。トマスには、イ
エスさま
様をうたが
疑う理由がありましたか？

すいようび 水曜日

あ
るばん
晩、トマスがほかのでし
弟子たちと
いっしょに、あへや
あの部屋にいたとき
のことです。イエスさま
様が生きておられること
をしん
信じていなかったかれ
彼は、まだ悲しみの
うちにありました。するととつぜん、イエ
スさま
様がそのへや
部屋にあらわれたのです。イエ
スさま
様は弟子たちに、何とあいさつなさ
いましたか？また、トマスにはなん
何とおっしゃ
いましたか？ヨハネ 20:26.27。

もちろんイエスさま
様は、ご自分のじぶん
復活の
やくそく
約束を、トマスがうたが
疑っていることをご存知
でした。しかし、そのことであつ
彼を叱りませ
んでした。トマスは、イエスさま
様のまえ
前にひざ
まずきました。イエスさま
様は、自分のおも
思い
をすべてみとお
見通しておられることをさどった
のです。トマスがほかのでし
弟子たちに「イ
エスさま
様のきずあと
傷跡にさわるまで、わたしは決し

「信じない」と言った言葉までもご存知でした。

それからイエス様はトマスに、自分の目で見なければ彼を信じないという態度は、本物の信仰とは言えないことを、気づかせました。それは、私たちも同じです。イエス様が天にもどられた後で、多くの人々が彼を信じるようになるでしょう。しかし、イエス様がご再臨なさるまで、実際にそのお姿を見ることはありません。人々は、聖書を通じてイエス様のことを知るのです。そして彼らは、サタンが敵であることや、イエス様を信じて頼ることによってサタンの手から救われることを経験するでしょう。

考えてみよう: わたしたちは現在、イエス様について学ぶことができますか? はい。イエス様のお姿を見ることはできなくとも、多くの人たちが、イエス様に信頼してしたがう選りを行っています。イエス様が必ず戻ってこられることを知っている私たちは、彼を信じてしたがう必要がありません。

もくようび 木曜日

イエス様がこの世界に来られ、死ななくてはならなかった本当の理由を、弟子たちは理解する必要がありました。彼らは、ローマ人が本当の敵ではないことを知らなくてはなりませんでした。本当の敵はサタンであって、イエス様

だけがわたしたちをサタンから救い出すことのできるお方であることを知る必要がありました。

天国にいたとき、イエス様をねたんだサタンは、イエス様や父なる神様についての、さまざまなる嘘を言い広めました。だれも神様の律法にしたがう必要はない、と話した結果、多くの天使たちがそれを信じてしまいました。とうとう神様は、サタンと悪天使たちに、天国から出て行くように命じなくてはなりませんでした。

サタンがわたしたちの世界にやってきて、アダムとエバを誘惑したときに何が起きたかについては、わたしたちもよく知っていますね。アダムとエバにまんまと嘘を信じこませることのできたサタンは、自分が地球の王になるだろうと確信しました。そして、この世界の人々は永遠に死ぬことになるだろうと、彼は思っていました。たしかに、わたしたちは永遠に死ぬ運命に定められるはずでした。ところが、わたしたちをこよなく愛しておられる父なる神様とみ子イエス様、そして聖霊の神様は、わたしたちを救うすばらしい計画をたてて下さいました。ですから、イエス様に信頼することを選ぶ人たちは皆、その計画のおかげで、永遠に生きることができるのです。

考えてみよう: ヨハネ 2:16-18 をゆっくり読んで、この聖句がわたしたちに何を伝えているのかを考えてみましょう。この聖句は、信じるのも信じないのも、私たちの選



びによることを教えています。イエス様に信頼して、彼に従うなら、わたしたちは安全です。しかし、サタンの嘘を信じる人は、神様の子供になることはできません。だれに対しても、神様が、ご自分を愛し信頼するようにと強制なさることは絶対ありません。あなたは、イエス様を愛して信頼することを選んでよかったですか？



Art: © Amazing Facts. Used by permission

もいいただひとりのお方でした。

ところが、そのイエス様がわたしたちの身代わりとなって死なれたのです。そして、わたしたちがイエス様を愛し、信じ、彼の助けによって十戒にしたがうとき、イエス様はご自身の完全な生涯をわたしたちのものとして下さいます。わたしたちがそれを受け取るのにふさわしくないにもかかわらず、神様は、わたしたちの罪深い生涯ではなく、イエス様のご生涯をごらんになるということです。わたしたちの罪がゆるされるのは、そのためです。罪を犯してしまっても、心から悪かったと思うならば、神様はいつでも、イエス様の完全なご生涯を、わたしたちのものとして下さいます。それは、とても素晴らしいことだと思いませんか？わたしたちへの神様の愛は、想像をはるかにこえていますね。また、わたしたちを助けたいと願っておられる聖霊の思いも、人間の理解をはるかにこえていますね。

きんようび 金曜日

イエス様は、彼が自ら進んで人間となられ、人として生涯をおくり、死なれた理由を、弟子たちに理解してほしいと思われました。すべての人は、サタンの国の国民となるか、それとも神の国の国民となるかを、自分で選ばなくてはなりません。イエス様はそのことを、弟子たちに理解してほしいと思われたのでした。

神の国は、これまで教えられてきたものとはちがっていることを、イエス様は人々に理解させようとなさいました。イエス様がおいでになって、いっしょに天国へつれて行ってもらうときに、わたしたちは完全な者になっていなくてはなりません。しかし、イエス様のほかに、この世界のだれひとりとして完全な人間はいません。すべての人は罪を犯してしまい、永遠の死を受け取るにふさわしい者となっているからです。サタンにただのいちども従わなかった人間は、イエス様だけです。罪を犯したことのないイエス様だけが、死ななくて

考えてみよう：イエス様があなたを愛しておられ、あなたをかならず天国につれていってくださることが、どうしてわかるのかと尋ねられたら、あなたは何と答えますか？

まな もっと学ぼう！

★ヨハネ 20:24-29

★各時代の希望 84章 p. 344-348;



きゅうかんちょう

九官鳥のラージャ

エルシー・ルイス・ローソン

これは、インドに住むある宣教師一家に与えられた、一羽の小さな九官鳥ラージャについての、本当のお話です。神様はラージャを用いて、たくさんの幸せを人々に届けて下さいました。

この物語は、わたしが知っている中でも、一番活発で、生意気で、かわいくて、賢い鳥のお話です。

その鳥は小さな九官鳥で、太陽の日差しがいっぱいの南インドで、お父さん鳥、お母さん鳥といっしょに暮らしていました。おうちには、美しいゴールデン・マハール・ツリーの生い茂った枝の間にうまく隠れるように作られた、とても住み心地のよい巣でした。

お父さん鳥とお母さん鳥は性格が荒々しく、彼らが近くにいるときには、あえて近づこうとする敵はだれもいません。

広い外の世界には恐ろしい危険が待ち受けているということを、お母さん鳥はすぐ、赤ちゃん鳥に教えました。毎朝、お母さん鳥が巣から出かける前には、赤ちゃん鳥に、あまり音を立てないようにすること、また、落ちると危ないので、巣の端の方には近づきすぎないようにと教えました。

すでに太陽がまぶしく輝いていたある

朝、九官鳥のお父さんとお母さんは、おなかをすかせた赤ちゃんたちのためのえさを探しに、巣から飛び立ちました。その日はとても暑くて、赤ちゃん鳥たちは落ちつきがなくなっていました。ほかの兄弟たちよりも元気な1羽の赤ちゃん鳥は、くちばしを巣の横からちょっと出してみることにしました。いたずらをしたわけではないのですよ。ただ、好奇心がとっても、と一つても旺盛な小鳥くんだったのです。「これくらいはいいだろう」と彼は考えました。「ちょっと新鮮な空気を吸うだけだから、巣のはしっこにすわっても、危なくなんかないよな。」お兄ちゃん鳥は、自分でも気づかないうちに、思ったことを行動にうつしてしまっていました。

巣の端で前後にゆらゆら揺れるのが、こんなに楽しいなんて!興奮とスリルが、小さな体をかけめぐりました。「こうすることの何が危ないんだ?」と思いました。

とつぜん、何の前ぶれもなく、つむじ風がふきました。暑い国ではよくあることです。赤ちゃん鳥は巣にしっかりとつかまりました。しかし体が小さすぎて、力があまりありません。そしてすぐに、下の地面に落ちてしまいました。

その日の朝、インド人の少年ふたりが、このゴールデン・マハール・ツリーの

木陰で遊んでいました。

彼らは、小さくて毛もほと

んど生えていない赤ちゃん

鳥が、いきなり自分た

ちの横に落ちてきたので

びっくりしましたが、かわ

いひな鳥を見てうれし

くなりました。少年たち

は小鳥を拾い上げ、注意

ぶかくさわってみました。

幸い、小鳥はまだ生き

ています。ふたりは顔を

見合わせ、目と目で「この小鳥、どうしよ

うか?」と言っているようです。

もし家につれて帰れば、小鳥が死んで

しまうことを少年たちは知っていました。

木の下に置き去りにすれば、まちがいな

く、猫やほかの野生動物に食べられてし

まうでしょう。すると、いい考えが頭に浮

かびました。「そうだ、あの女のお医者

さんにあずけようよ。あの先生なら、うま

く世話してくれるはずだよ。たしか、小さ

くてあたたかそうなガラスの小屋の中で、

生まれたての赤ちゃんたちを育ててなかつ

たっけ?」

そう言うやいなや、彼らは病院へとつ

ながる庭を走って横切りました。うれしい

ことに、事務所には女のお医者さんがい

ました。ふたりは、礼儀正しい態度で、

彼女に贈り物をわたしました。優しい女の

お医者さんは、このプレゼントをよろこん

でくれました。

「さて、新しいお友だちには、何て名前

をつけようかな?」彼女は、少年たちにた



ずねました。

「ラージャにしよう

よ!」と彼らは叫びました。

「ラージャって、王様っ

ていう意味だから、この

小鳥は、僕たちの小さな

王様になるんだ。」

そういうわけでラージャ

は、好奇心が強すぎて親

の言いつけにしたがわな

かったばかりに、とらわ

れの身となって、知らな

い家で、知らない人たちと過ごすことにな

ってしまったのでした。

(つづく)

だい しょう 第2章



子供のための日々の
聖書研究ガイド

うみべ ふたたび海辺にて

あんしょうせいく 暗唱聖句

「神は愛である。愛のうちにいる者は、神におり、
神も彼にいます。」 第1ヨハネ 4:16

にちようび 日曜日

今ではもう、イエス様が生きておられることを、弟子たち全員が知っています。イエス様は彼らに、ガリラヤ湖で会おうとお告げになりました。それで弟子たちは、過越しの祭りが終わってから、そこへ出かけて行きました。何人の弟子たちでしたか？数えてみましょう。ヨハネ 21:1,2。

ガリラヤ湖までの道のりはとても遠かったため、おそらくエルサレムからでは、何日もかかったと思われます。それでも、話すことがたくさんあって、全然たいくつしなかったことでしょう。喜びいさんでガリラヤ湖に向かう、彼らのようすを想像できますか？

イエス様は、世界一の教師でした。その最高の教師の下で、弟子たちは3年以上もの



間、それまで学んだことのなかった教えを受けました。ようやく彼らは、パリサイ人や民の指導者たちの教えがまちがっていることがわかりました。イエス様が、十戒の本当の意味を教えてくださいましたからです。イエス様が死んでよみがえられた今、彼らの考えは、ますます変わってきていました。

弟子たちは、あいかわらず貧しかったのですが、たとえ偉い人には見えなくても、彼らはこれから、世界で最も重要な働きをする人物となるのでした。イエス様が天にお戻りになった後は、彼らがイエス様の福音を伝える者となるのです。人々

が神の国の国民となるための道を、イエス様がどのように開いてくださったかを、まず弟子たちが伝え、それを聞いた人たちがさらにほかの人たちに伝えます。こうしてついにはすべての人が、イエス様かサタンのどちらかを自分で選ぶまで、伝道の働きはつづけ

られるのです。それからイエス様は、ふたたびこの地球にもどってこられます。マタイ 24:14。

かんが **考えてみよう:** ガリラヤ湖へと向かう弟子たちの一団の中に、あなたもいたと想像してみてください。あなただったら、何について彼らと話していたと思いますか？

げつようび 月曜日

弟子のうちの7人が、イエス様にお会いするために、ガリラヤ湖へと向かっていました。そこに着いた彼らは、この場所でなんどもイエス様と過ごしたことを思い出していました。緑の芝におおわれた丘の上で、イエス様が何千人もの人々にお話しなさったことがありました。また、多くの人たちの病気をおいやしになったこともありました。弟子たちは、たった5つのパンと2匹の魚で、5千人以上もの人たちに食べさせた時のことも思い出していました。

また弟子たちは、この湖にとつぜん吹き荒れたあの恐ろしい嵐の中、イエス様が舟の中でぐっすり眠っておられたことも思い出していました。自分たちはここでおぼれ死ぬのだと思ったその時、イエス様がお言葉を発せられただけで、風と雷と稲妻がやみ、波も静まったのでした。

また、イエス様が湖の上を歩かれた、あの嵐の夜のことも思い出していました。イエス様が彼らの舟に足を踏み入れられたとたん、嵐はやみました。あの夜、イエス様のほかに、水の上を歩いた人がい

ましたか？その人は、なぜ沈み始めたのですか？

弟子たちがイエス様を待っている間に、ペテロはいいことを思いつきました。彼らは皆、食べ物と衣服を買うためのお金を必要としていました。ペテロが「魚をとり、漁に出てくる」とほかの弟子たちに言うと、彼らは「わたしたちもいっしょに行かせてくれ」と言いました。その舟いっぱい魚がとれたら、弟子たちが必要な衣服と食料を十分に買うことができるはずでした。

ガリラヤ湖で魚がとれる絶好の時間は、夜でした。ですから、彼らは暗くなる前に、舟と網の用意をしなくてはなりませんでした。

かんが **考えてみよう:** 弟子たちは、イエス様がやさしく愛をもって彼らを見守っておられたことを、知りませんでした。イエス様は、わたしたちのことも愛情をもって見ておられますか？

かようび 火曜日

その夜、弟子たちは舟に乗って、湖へこぎだしました。必要な物を買うためのお金を得るには、できるだけたくさんの魚をとらなくてははいけません。

弟子たちは、大きな網を水の中へおろしました。魚がかかるのを待つ間、彼らは、イエス様がこの湖の上やほとりでなさったことについて話していました。そのイエス様がおられなくなって、これからどうすればよいのだろうか？彼らは途方にくれています。

した。

しばらくたってから網を見てみると、おどろいたことに、網には一匹の魚すらかかっていないのです。もういちど、網をおろして待ちました。またしても、網はからっぽです。一体、どうしたことでしょう？ 彼らは一晩中、網をおろしつづけました。それでも、魚はとれません。とうとう、夜が明け始めました。太陽が昇る時間が、どんどん近づいてきました。弟子たちは、もうこれ以上、漁をつづけてもむだだと思いました。そしてひどくがっかりしながら、からっぽの舟で、岸へともどり始めたのでした。ヨハネ

21:3。

岸へ近づくと、見知らぬ人がひとり、そこに立っているのが見えます。その人が、彼らに声をかけました。4,5 節。

この見知らぬ人は、弟子たちにとってまるでおかしいと思えるような「あること」をするように言いましたが、それでも彼らはしがいました。すると何が起こりましたか？ 6 節。

イエス様は、網を舟の右側におろすようにとおっしゃいました。それは、イエス様の立っておられる岸に最も近い側でし



た。弟子たちが、イエス様との親しい関係を保ち、彼に頼りつづけるならば、これからも心配をする必要はな



くなるのでした。

とつぜんヨハネが、「あれは、イエス様だ」と言いました。みんながいっせいに、あの見知らぬ人に目を向けます。たしかにイエス様でした。ペテロは、うれしさのあまり舟からとびおり、全速力で岸へと向かいました。ほかの弟子たちもつづきます。彼らのひいている網は、魚でいっぱいになり、船にひきあげることができないほどでした。7,8 節。

かんがえてみよう：イエス様は、ご自分がどれほど力強いおかたであるかを、弟子たちに思い出させようとしておられたと思いますか？ わたしたちも、たとえどんなことが起こったとしても、そのことをおぼえているべきでしょうか？

すいようび 水曜日

あのからっぽだった弟子たちの網が、魚でいっぱいになっています。彼らは、イエス様から、漁師をやめて彼の特別な働き人になるようにと、初めて声をかけられたときのことを思い出したことでしよう。あの時も、一晩中漁をしたのに一匹も魚がとれず、身も心も疲れきっていました。するとイエス様が、もういちど網をおろすように言われ、同じような奇跡が起きたのでした。あの時も、網は魚でいっぱいになりました。以来、イエス様はずっと弟子たちを養ってこられ、この日も彼らの必要にこたえてくださったの

でした。

弟子たちが舟を岸へ引き上げると、彼らの目にあるものが映りました。それは、きっと弟子たちをおどろかせたことでしょう。網がからっぽだったように、彼らのおなかもからっぽで、イエス様はそのこともよくご存じでした。そして彼は、何とおっしゃいましたか？ヨハネ 21:9-14。



すべてがあまりにもすばらしくて、弟子たちは、言うべきことも思いつきませんでした。心から慕っているイエス様が、彼らへの愛を、ふたたび示して下さったのでした。

考えてみよう：自分はイエス様を決して見捨てないと得意げに言ったことを、ペテロは覚えていたと思いますか？それなのにペテロは、何度、イエス様のことを知らないと言いましたか？彼は自分のしたことに、心を痛めていたと思いますか？

もくようび 木曜日

朝食のあと、イエス様はペテロのほうに向き直り、ある質問をなさいました。どんな質問でしたか？ペテロは何と答えましたか？ヨハネ 21:15。

イエス様のおっしゃった「わたしの小羊を養いなさい」とは、どういう意味なのでしょう？イエス様が話しておられたのは、動物のことですか、それとも人間のことでか？「小羊」とは、子供を意味するの

でしょうか、それとも大人のことでしょうか？

イエス様が話しておられたのは、子供たちがイエス様を愛し、信頼し、彼にしたがうことを身につけられるように手助けを下さい、ということでした。おそらく弟子たちは、子供たちをつれてイエス様のもとへやって来た母親たちを、自分たちが追い出したことを思い出してははずです。子供たちがどれほど大切な存在であるかを、彼は弟子たちに知ってほしかったのでした。子供たちを注意ぶかく育ててくなくてはならないことを、弟子たちは学ぶ必要がありました。またイエス様は、神の国に入るための学びを始めたばかりの大人たちに対しても、特別に気をつけて接するようにとお話しなさいました。しばらくたってから、もういちどペテロに、先ほどと全く同じ質問をなさいました。ペテロは何と答えましたか？また、イエス様は何とおっしゃいましたか？ここでイエス様が話しておられたのは、子供たちのことですか、それとも大人たちのことですか？16節。

ペテロは以前のように、自信満々でしたか？いいえ。イエス様のことを知らないと言った夜から、ペテロはすっかり変えられていました。あの夜、彼はゲッセマネの園に走ってもどり、イエス様が涙を流して祈られたのと同じ場所ではげしく泣きました。

しばらくたってから、イエス様は、また

もペテロに同じ質問をなさいました。ペテロは、悲しくなっていました。17節。

かんが
考えてみよう: ペテロは何回、イエス様のことを知らないと言いましたか? イエス様は何回、ペテロに「私を愛するか?」とおたずねになりましたか? イエス様は何回、彼をご自分の働き人として必要としておられることを、伝えようとなさいましたか?



か貧乏か、また髪の毛や目や肌が何色なのかも、関係ありません。ただひとつ、本当に大切なことは、心をつくしてイエス様を愛することなのです。そうすれば、どんなことが起ころうとも、彼に信頼してしたがうことができるように、イエス様が助け

て下さいます。そして、イエス様のためのよい助け手となるにはどうしたらよいのかも、教えて下さるのです。

かんが
考えてみよう: イエス様の働き人となるには、船や飛行機に乗って、遠いところへ出かけて行かなくてはなりませんか? そんなことはありません。わたしたちはどこにいても、イエス様のよい助け手となることができますか? 弟子たちと共におられたように、イエス様は、わたしたちと共にいて下さいます。そのことが分かったら、うれしい気持ちになりませんか? 家庭においても、またどこであっても、あなたが喜んでお手伝いをするならば、それはイエス様のお手伝いをしているのと同じことですか? あなたがどのようにイエス様のお手伝いをしているか、話してみてください。

きんようび 金曜日

イエス様は何回、ペテロに同じ質問をなさいましたか? それは、どんな質問でしたか?

イエス様を知らないと言ったことをペテロが後悔していることを、イエス様はほかの弟子たちにも知ってほしかったのでした。と同時に、ご自分がペテロを心からゆるしていることも、みんなに知ってほしいと望んでおられました。イエス様はペテロを愛しておられましたし、ペテロもイエス様を愛していました。今はもう、高慢で自信満々のペテロではありません。

このほかにも、イエス様が弟子たちにわからせようとしておられた、とても大切なことがありました。イエス様を愛すること、心からイエス様を愛することが、最も大切なことです。イエス様を心から愛するには、若いとか年老いているとか、そんなことは問題ではありません。お金持ち

また もっと学ぼう!

★ヨハネ 21:1-19

★各時代の希望 85章



はねは 羽が生えてきたラージャ

エルシー・ルイス・ローソン

これは、インドに住むある宣教師一家に与えられた、一羽の小さな九官鳥ラージャについての、本当のお話です。神様はラージャを用いて、たくさんの幸せを人々へ届けて下さいました。

小さな綿毛に体をうずめて、「孵卵器」と呼ばれるガラスの家で過ごすのは、ラージャにとって初めての経験でした。彼には、お母さんが注意したことについて考える時間が、たっぷりありました。あの時、おとなしくしてさえいれば、今頃は、あの美しいゴールデン・マハール・ツリーの生い茂った枝の間にある小さな巣で、兄弟たちと楽しくゆらゆらと揺れていたはずでした。大好きなお母さんの、羽のぬくもりが恋しくてたまりません。家にもどったお父さん鳥とお母さん鳥は、大切な我が子が巣からいなくなっているのを見て、ひどく悲しんでいるにちがいないのです！

しかし、前回もお話したように、ラージャはとても好奇心が旺盛なひな鳥でした。彼はあやまちを犯してしまいました。しかし過ぎたことなので、悔やんでも仕方ありません。もしかすると、いつかまた、お母さんに会えるかもしれません。もしもそ

の願いがかなったら、お母さんにあやまりたいと思ったことでしょう。



何日かたつと、ラージャの恐怖心はほとんどなくなっていました。彼は1日になんとか、小さな管をおして食事をとりました。まわりに危険な敵はいませんし、新しいお友だちも彼のことを気に入ってくれたようです。

ある朝、彼はすばらしい発見をしました。自分の体に生えていたやわらかい産毛が、かたい毛に変わってきています。ラージャは成長していました。

数日後、ラージャはガラスの家から出され、事務所の机におかれました。すてきな鳥かごが用意されていました。今日からは、その鳥かごが彼の家になるのです。

その朝、ラージャはいつもより元気で、なんだかうきうきしていました。そしてふと、自分の羽で飛んでみたくなったのです。彼は起き上がって、羽をいっぱい広げました。うれしさで体全体がゾクゾクします。そして、女のお医者さんに捕まる前に、ラージャは飛んで行ってしまいました。

ラージャは、ヤシの木に飛んでいきまし





た。そして、そのヤシの葉にとまって、下
に広がっている、大きくて広い世界をな
がめていました。

(つづく)

だい しょう 第3章 さま しょうてん イエス様の昇天



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

「あなたがたを離れて天にあげられたこのイエスは、天
に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、
またおいでになるであろう。」使徒行伝 1:11

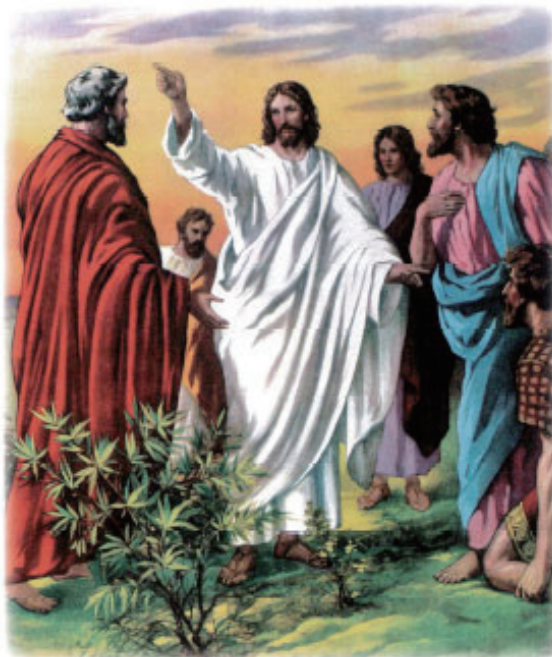
にちようび 日曜日

イエス様がよみがえられた後に残っていた弟子は、12人ではなく11人でした。ユダが、いなくなっていたからです。

イエス様は死なれる前、3日後によみがえるとおっしゃいました。その約束は、イエス様の敵たちでさえ覚えていました。
マタイ 27:63。

それなのに、イエス様の弟子や友人たちのうち、いったい何人の者がその約束を覚えていたでしょう？また、イエス様とガリラヤでお会いする約束を、何人の者が覚えていたのでしょうか？マタイ 26:32。

さて今日は、ある



できごとを振り返ってみましょう。弟子たちが集まっていた部屋の扉は閉められ、鍵がかかっていたにもかかわらず、とつぜんイエス様が部屋の中にあられた、あの夜の出来事です。その時、トマスは部屋にいませんでしたが、あとになってお会いしたことで、彼もイエス様が生きておられることを信じるようになりました。ヨハネ 20:24-29。

過越しの祭りの週には、イエス様を信じる大勢の人々がエルサレムを訪れていました。多くの人々は、ただイエス様とお会いするためだけにそこに来ていました。ですからこれらの人たちは、イエス様が死んでしまったと聞いて悲しみ、ひどく失望していました。しかし、イエス様が弟子たちの部屋

にあらわれたあの夜のあと、彼らはできるだけ多くの友人たちに、イエス様が生きておられることを伝え、またイエス様がガリラヤで自分たちに会うという約束についても話しました。

考えてみよう: イエス様の友人たちが、どんなによろこんだか、想像できますか？そこは、歩いていくにはとても遠いところでしたが、あなただったら、行ってイエス様にお会いし、お話を聞きたいと思ったでしょうか？

げつようび 月曜日

イエス様の弟子たちは、過越しの週が終わるまで、エルサレムに滞在していました。それから彼らとイエス様の友人たちが故郷へ帰ったときに、イエス様は生きておられ、ガリラヤで弟子たちと会うことになっているというニュースを広めたのでした。そのため、イエス様に会ってお話を聞くためにあちらこちらからやってきた人々の数は、少なくとも500人はいました。何年もたってから、使徒パウロはこの時のことを手紙に書いています。第1コリント 15:6。

これらの人たちはいろいろなところから来ていたので、敵には気づかれませんでした。彼らはそれぞれ小さなグループになって集まり、弟子たちはそれらのグループをまわって、イエス様の復活のことを話して聞かせました。中には、イエス様に会ったこともない人々もいましたが、彼らは皆、熱心に耳をかたむけました。



トマスは、イエス様の傷を見てさわってみるまではイエス様のよみがえりを信じない、とかたく心に決めていたことや、イエス様がとつぜん、自分とほかの弟子たちがいる部屋にあらわれたときのことを話しました。それからトマスは、もうイエス様のよみがえりを疑ってはいないと言いました。生きておられるイエス様に会って、話をしたのですから。

また弟子たちは、イエス様がどのようにして、ご自分が真のメシヤであることを聖書からお示しになったかを、人々に話して聞かせました。彼こそが、わたしたちを救うためにこの世界においてになった、真の神の子でした。祭司や民の指導者たちが彼を受け入れなかったのは、本当に悲しいことです！

人々が弟子たちの話に聞き入っていると、とつぜん、イエス様が彼らのいるところにお姿をあらわされました。イエス様は何とおっしゃいましたか？**マタイ 28:18。**

考えてみよう: そこにいた人々の多くは、

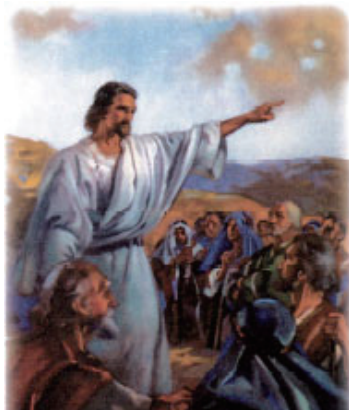
イエス様が力あるお方だと知っていましたか？イエス様の力が示された奇跡のいくつかについて、話してみましよう。

かようび 火曜日

イエス様は山の中腹あたりで、大勢の人たちに話しておられました。彼がとつぜん姿をあらわされた時に、何とおっしゃったか覚えていますか？**マタイ 28:18。**

あらゆる権力とあらゆる権威！これらのすべてがイエス様のものであるということです。素晴らしいですね！人々はこれまで以上に、イエス様が真の人間でありながら、真の神でもあることを悟りました。イエス様は、ご自分が真のメシヤであるというこの福音を、いたるところで伝えるようにと、すでに弟子たちに命じておられました。イエス様の生涯と死の意味をさらに深く理解した彼らは、できるだけ多くの人たちにそのことを伝えたくてたまりませんでした。**ルカ 24:46-49。**

イエス様は、十戒にしたがうことが可能であることを証明なさいました。彼は、真の人間であられました。十戒を破ったことはいちどもありませんでした。イエス様は、ご自身が天の父なる神様の助けを求めたように、わたしたちも彼の助けに身をまかせるならば、神様の律法に従うことができることを示してくださいました。



わたしたちが永遠の死から逃れることができるのは、イエス様がわたしたちの身代わりとなって死んで下さったからです。そして今、もしわたしたちがイエス様を心に住まわせるならば、まもなく、イエス様と共に永遠に生きることができるようになるでしょう。何とすばらしいことでしょう！イエス様は、これほどまでにわたしたちを愛しておられるのですね！

「福音」とは「よき知らせ」という意味です。ガリラヤでイエス様は、彼に会いに来た人々に、全世界へ出て行って福音を伝えるという使命を与えられたのでした。

考えてみよう：わたしたちも、人々に伝えるべき同じ「福音」を持っていますか？あなたやあなたの家族、またあなたの教会がどのように福音を伝えているか、話してみましよう。

すいようび 水曜日

イエス様が復活なさってから40日後、イエス様と弟子たちはエルサレムにもどっていました。弟子たちは、これがイエス様と過ごす最後の時になるとは、夢にも思いませんでした。あなたがその場にいたなら、11人の弟子たちがイエス様のあとについて、エルサレムの門を通るのを目にしたでしょう。人々は、その光景を、目を丸くして見

つめていました。なぜなら、イエス様が十字架につけられて殺されたのを、彼らは知っていたからです。

歩きながら、イエス様は弟子たちに、以前に話したいくつもの大切なことを、もういちどお話しなさいました。ゲッセマネの園へやってくると、イエス様は、そこにしばらく立ち止まっておられました。それから、弟子たちが彼をおいて逃げたあの晩に語られたことを、もういちどお話しなさいました。イエス様のすべてのお言葉に、弟子たちは注意ぶかく耳をかたむけていました。使徒 1:1-3。

やがてこの小さな一団は、イエス様がかつて何度も来られたオリブ山の頂上で足を止めました。そこは、マリヤとマルタとラザロが住む、ベタニヤ村の近くです。弟子たちに優しく語られるイエス様のお顔からは、特別な光が輝き出ているように見えました。

ご自身がここを去られたあとも、弟子たちは自分たちだけでとり残されるのではないことを、イエス様は彼らに知らせようとしておられました。共にいてくれる特別な助け主、すなわち聖霊を送ると、約束なさったのでした。8節。

考えてみよう: わたしたちの中に、つねに聖霊を住ませることは、イエス様をつねに心に住ませるのと同じことです。聖霊をとおしてイエス様がともにいてくださるのですから、私たちは決して、ひとり



ではないのです。

もくようび 木曜日

オリブ山の上で、イエス様は弟子たちに語っておられました。それから両手を広げて、彼らを祝福なさいました。祝福なさってから、ゆっくり天に向かったのぼり始めました。お別れの時がきたのです。イエス様が天にもどられる時がきたのです。弟子たちは、その光景、目をこらして見つめたことでしょう。できるだけ長く、イエス様を見ていたかったです。しばらくすると、光り輝く天使たちの雲が彼を包みこみ、そのお姿は見えなくなりました。ルカ 24:50,51; 使徒 1:9。

天使たちの雲につつまれてお姿が見えなくなると、弟子たちの耳に、ふたたびイエス様の美しいお声が聞こえてきました。そのお言葉を聞いた彼らの心は、感動でふるえたことでしょう! 「見よ、わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいるのである。」 マタイ 28:20。

それは彼らにとって、まるで夢でも見せられているかのような出来事だったにちがひありません。しかし、夢ではなく本当に起きていました。イエス様は、もうここにはおられません。以前から話しておられたとおり、天国にもどられたのでした。

使徒たちが空を見上げて立っていると、美しい声が語りかけました。急いであたりを見まわすと、そこには、白い衣を着た

ふたりの男の人が立っていました。彼らは天使でした。その天使たちは、弟子たちに何と言いましたか？使徒 1:10,11。

考えてみよう：イエス様が去ってしまったあと、エルサレムへ歩いて帰る弟子たちは、どんな気持ちだったと思いますか？

きんようび 金曜日

イエス様は、天にお帰りになったばかりです。けれども、そのすぐあとにあらわれたふたりの天使は、イエス様がふたたびおいでになることを、弟子たちに確信させてくれました。「このイエス」と、天使たちは言いました。たしかに、イエス様は天にお帰りになりましたが、今でもひとりの人間であられるのです。今でも彼は、弟子たちとともにおられた、あのすばらしいイエス様なのです。彼らとともに食事をし、長い道のりをともに歩き、彼らと同じようにおなかをすかせ、疲れ、そして何度も彼らを助けてくださった、あのイエス様なのです。「このイエス」様が、いつの日か、ふたたびもどって来られるのです。

エルサレムへもどる途中、弟子たちは、ヨハネ 14:1-3 にあるお約束を思い出していたかもしれませんね。

エルサレムにもどった弟子たちといっしょにイエス様がおられないのを見た人々は、彼らが悲しんでいるにちがいないと思っていました。ところが、弟子たちの顔はよろこびにあふれています。約束どおり、イエス様がかならずもどって来られることを知っていたからです。

イエス様は弟子たちに、約束された聖霊が下るまでは、エルサレムで待っているようにとお命じになりました。そこで彼らは、イエス様と過越しの食事をしたあの2階の部屋にもどりました。ただし、何もしないでただ待っていたのではありません。聖霊を待っている間、彼らは何をしていましたか？ルカ 24:49; 使徒 1:12-14。

考えてみよう：わたしたちも、イエス様かもどって来られるのを待っていますか？わたしたちは今でも、あの時イエス様が約束なさった聖霊を持っているのでしょうか？聖霊が共におられることを、弟子たちがどのようにして確信できたのかは、来週お勉強しましょう。

まな もっと学ぼう！

★マタイ 28:16-20

★マルコ 16:14-20

★ルカ 24:44-53

★使徒 1:1-11

★各時代の希望 86章

★患難から栄光へ 3章



しゅじゅつ 手術

エルシー・ルイス・ローソン

これは、インドに住むある宣教師一家に与えられた、一羽の小さな九官鳥ラージャについての、本当のお話です。神様はラージャを用いて、たくさんの幸せを人々へ届けて下さいました。

広くて大きな外の世界に出るのは、ラージャにとって初めての経験です。たくさんの音が聞こえてきて、戸惑ってしまうことがたくさんあります。男の子たちは大声で叫び、手をたたいています。変わった生き物がえさを求めてうろついていますし、ラージャよりも大きな鳥が、ラージャめがけて飛んできては大きな恐ろしい声を出したりします。ラージャは、こんな世界が好きではありませんでした。結局、あのガラスの家はそう悪い場所ではなかったのだと思いました。ラージャは、自分と遊んでくれた少年たちのことを考えていました。

木から木へ飛び移りながら、新しい家を見つけようとしたのですが、見つかりません。気がつくやうに、燃えるように熱い砂の海に太陽が沈んでいくところでした。そしてすぐに、夜の闇におおわれました。ラージャは、腹ぺこです。「ホー」というフクロウの鳴き声におどろいて、身をすくめま

した。ここは、ガラスの家でずっと大事に育てられた赤ちゃん鳥が来るような場所ではありませんでした。

心の中の何かが、安全な場所をさがすようにうながしました。ラージャはすぐに、自分の知っているただひとつの安全な場所へ、そう。あの病院へと飛んで行きました。

小さなお友だちが窓越しに羽ばたいているのを見つけて、女のお医者さんは大喜びしました。ラージャも、狂ったよう

によるこんでいます。ここはボクの部屋だ、と言わんばかりに、胸をはって部屋中を歩いています。やっぱり、慣れ親しんだこの場所のすべてが大好きです。自分の家は、ここなのです。ここでは安全でいられます。住み慣れたこのすてきなかごにもどると、ラージャはすぐに落ち着きをとりました。

ラージャのかごは、ちょうどお医者さんの事務所の外にある、ベランダの屋根からつり下げられていました。ラージャは、病院で行われていることは、何にでも興味をもちました。かわいそうに、どうしてこの小さい赤ちゃんたちは泣いているのかな？どうしておじいちゃんやおばあちゃんたちは、あんなにひどい咳をするのか



な？子供たちはどうして、ボクの動きを見て笑うのかな？子供たちがボクに「サラーム（こんにちは）、ラージャ」って言うけど、どういう意味なんだろう？彼らがボクに教えようとしている、変な言葉はいったい何なんだ？こういった、たくさんの疑問がラージャの頭をよぎったにちがいありません。

自分が「こんにちは、坊やたち」と言えることに気づいた日は、ラージャにとって特別な日となりました。彼は短い期間で、タミル語の言葉をいくつか言えるようになりました。タミル語というのは、学ぶのがとてもむずかしい言語です。話すときは、口の中に小石がいっぱいつまっているように聞こえます。それでもラージャは、たくさんの言葉を言えるようになるまで、一生けん命練習しました。それから彼は、人間の赤ちゃんが泣く声や、お年寄りの咳、子供たちの楽しそうに笑う声を真似るようになりました。このようにラージャは、とても楽しい日々を過ごしていました。

外の世界を冒険してから数日たったころ、ラージャは看護師につれられて、女のお医者さんの部屋の机にのせられました。机の上におかれている物にちらりと目をやると、ラージャは恐怖で震えあがってしまいました。目の前には、鋭い輝きを放つナイフと、1本のはさみがおかれています。

ラージャは、「いったい、ボクはここで何をされるんだろう？」と思いました。

お医者さんはラージャを手にとり、恐怖をなだめようとしています。そしてとても優しく、ラージャの口を開けました。ラー

ジャが鳴き声をあげる間もなく、彼女は、彼の舌の下に小さな切れ目を入れました。もちろん痛くはありませんでしたが、気持ちいいわけでもありませんでした。

気がつくと、自慢の美しい羽も切られていました。そのあと、かごへと優しく運ばれていきました。

ラージャは、大いにご機嫌ななめでした。かごの端まで反り返って歩き、羽に頭をうずめて、ほかからのなぐさめを断固として拒否しています。子供たちはいろいろと試してみたのですが、その日は一日中、ラージャに話をさせることはできませんでした。

次の日の朝、ラージャはいつものようにぱっちり早い時間に目を覚ましました。やはり、生まれながらの物まね芸人であるラージャは、かごのまわりにいる子供たちの楽しそうなおしゃべりに、つつい反応してしまいました。

それから数日後、おどろいたことに、かごの扉が開かれました。これでもう、彼は自由の身です。自分の好きなように、出かけても、帰って来てもよいのです。その日、かごの中と外をわがもの顔で歩き回るラージャを見て、子供たちは大笑いしていました。

ところで、ラージャはすごいことに気がつきました。彼は、タミル語の中でもかなりむずかしい言葉を、今では楽に言えるようになっていたのです。言えるようになるまで、何度も何度もくりかえしたからです。

それはそれですごいことなのですが、

残念ながら、ラージャは話せるようになったことで、とても高慢になってしまいました。あとになってその高慢さが仇となり、ラージャは面倒なことに巻きこまれてしまいます。

(つづく)

だい しょう 第4章

せいれいくだ 聖霊下る



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

「悔^く改^{あらた}めなさい。そしてあなたがたひとりびとりが罪^{つみ}のゆるしを得るために、イエス・キリストの名によって、バプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊^{せいれい}の賜物^{たまもの}を受けよう。」使徒行伝 2:38

にちようび 日曜日

もしあなたが、危険^{きけん}な国^{くに}、つまりあなたを傷^{きず}つけようとする恐ろしい敵^{てき}がいるような、安全^{あんぜん}でない場所^{ばしょ}に住んでいたら、どんな気持ちでしょう？ そんな中^{なか}、もしもあなたの両親^{りょうしん}から、あなたをおいてどこか遠い国^{とく}へ行^いかなければならないと言^いわれたら、どう感じるでしょう？ あるいは、あなたをその恐ろしい敵^{てき}から守^{まも}ってくれる人がだれもいないことを両親^{りょうしん}から告^つげられたら、どう思うでしょう？ もしあなたが、お父^{とう}さんとお母^{かあ}さんにもう二度^{にど}と会^あえなくなることを知^したら、どんな気持ちになるでしょう？ 怖^{こわ}くなるでしょう？ 悲^{かな}しくなるでしょう？

もちろん、恐^{おそ}らくそのようなことは、あなたの身

に起^おこらないでしょう。けれども、イエス様^{さま}が亡^なくなられたとき、弟子^{でし}たちはそれと似たような気持ちでした。

ただし、もしあなたのお父^{とう}さんやお母^{かあ}さんが長い旅^{なが}に出^たなければならぬとして、その間^{あいだ}もあなたは敵^{てき}の手^てから安全^{あんぜん}に守^{まも}られるとしたら、どうでしょう？ そして、とても強^{つよ}くてたよりになる親戚^{しんせき}のひとが来て、両親^{りょうしん}が留守^{るす}の間^{あいだ}、あなたのこと^{こと}を養^{やしな}い、守^{まも}ってくれるとしたらどうでしょう？ 実^{じつ}は、あなたの両親^{りょうしん}が長い旅^{なが}に出^いているのは、あるすばらしい国^{くに}に、とてもすてきな

家^{いえ}を建^たてるためだったとしたら？ そしていつの日^ひか、あなたを迎^{むか}えにきて、家族^{かぞく}そろって安心^{あんしん}して幸^{しあわ}せに、しかも永遠^{えいえん}に暮^くらす約^{やく}束^{そく}をしてくれたなら、もう怖^{こわ}いことなどありませんか？ かえってうれしく思^{おも}うでしょう？

イエス様^{さま}がよみがえ



り、天にお帰りになったときの弟子たちの気持ちは、それに似ていました。ルカ 24:50-53。

考えてみよう: イエス様が天にお帰りになった日、あなたがそこにいた弟子のひとりだったとしましょう。あなたの心はなぜ、喜びでいっぱいになるのでしょうか？

げつようび 月曜日

イエス様が亡くなられたとき、弟子たちは、もう二度とイエス様に会うことはできないと思っていました。ところが、イエス様が生きておられることを知ったとき、すべてが変わりました。イエス様は天にお帰りになりましたが、ふたたびもどって来られると約束なさいました。

エルサレムにもどった弟子たちを見た人々は、彼らがイエス様といっしょでないのがわかりました。それなのに、弟子たちのようすは、まるで悲しそうではありません。むしろ、よろこんでいるようです。それが、とてもふしぎに思われました。それは、イエス様がもどって来られるという約束を知らなかったからです。また人々は、一人ひとりずつ共にいて下さるすばらしい助け主を、イエス様が送って下さるといふ約束も知りませんでした。ヨハネ 14:16,17。

人間となられたイエス様は、神様であられると同時に、これからもずっと人間であります。人間の体をもつイエス様は、私たちみんなのそばについていることはできませんが、助け主である聖霊には、そ

れができるのです。ですからイエス様の弟子であれば、その人は決してひとりになることはありません。これほどすばらしいことが、ほかにあるでしょうか！ヨハネ 16:7。

イエス様がこの世界におられるかぎり、彼にしたがう人たちは、イエス様にずっといっしょにいてもらいたいと思ったはずです。しかしまもなく、彼の信者は世界中に広がることになります。そうすると、イエス様は人間ですから、世界中に散らばった信者の一人ひとりといっしょにいることはできません。心に聖霊を住ませることによってのみ、わたしたちはイエス様にしたがうことができ、彼の働き人となることのできるのです。エゼキエル 36:27。

イエス様は弟子たちに、特別な力を与えて下さる聖霊をどこで待つようにとおっしゃいましたか？ルカ 24:49。

考えてみよう: イエス様は、わたしたちが決してひとりぼっちにならないように、たしかな道をそなえて下さいましたか？

かようび 火曜日

弟子たちは、イエス様が亡くなられる前に過越しの夕食を共にした、あの2階の部屋へもどりました。そこは、イエス様が十字架で殺されたあと、あの残酷な祭司や民の指導者たちを恐れて、身をひそめていた場所でもあります。また、イエス様がよみがえられたその日に、弟子たちをたずねられた場所でもありました。イスカリオテのユダだけが、そこにはいま

せんでした。使徒 1:12-14。

弟子たちは、聖霊をとおしてイエス様からの特別な力を受けるのを待つ間、彼のなされた数々の奇跡や、語られたお言葉を思いめぐらしていました。もっと注意して聞いておけばよかったと、どんなにか悔やんだことでしょうか!また、これらのお話がなされたその時に、神の国のことや、彼が王の王であられることを信じておけばよかったと、どんなにか悔やんだことでしょうか!

弟子たちは、互いに言い争ったときに、イエス様が悲しんでおられたことも思い出しました。互いに、ひどくねたま合っていたときもそうです。今や彼らは、イエス様にゆるしを求め、互いにゆるし合いました。聖霊を心にお迎えできるように、心が清められることを願っていました。

考えてみよう: 弟子たちが互いに愛し合ったように、わたしたちも愛し合うよう、



イエス様は望んでおられますか?わたしたちが互いに愛し合っていることを、どのように表すことができるでしょうか?お互いへの愛をどのように示したらよいか、何か思いつくことはありませんか?

すいようび 水曜日

弟子たちは、聖霊が下って、彼らを特別な力でみたくてくださるのを待っています。それは、彼らがイエス様のよき伝道者となるために、ぜひとも必要な経験でした。使徒 1:14。

一致するとは、もはや言い争いをしなくなることを意味します。弟子たちはもはや、利己的〔わがまま〕ではありませんでした。自分たちの犯したまちがいを告白して、今では、心から愛し合っています。そして、イエス様の働きに必要な特別な力が与えられるのを、2階の部屋で待ちつづけていました。特別な力を授けられるために定められたのは、ペンテコステ〔五旬節〕の日でした。この日、世界のいたるところから、おおぜいのユダヤ人がエルサレムへやって来ていました。当然、あちこちの国からの人たちが話す言葉も様々でした。使徒 2:1,5。

弟子たちが瞑想して祈っていると、とつぜん、はげしい風の吹く音が聞こえました。その風があまりにも強かったので、家全体がゆれたほどです。それから、何か火のようなものが、弟子たち一人ひとりの頭の上で光りました。2,3節。

ただちに聖霊が下り、イエス様が弟子

たちに約束しておられた特別な力を与え
ました。こうして今や、いろんな国々から
来た人々が話す様々な言葉で、イエス様の
ことを伝える準備ができたのです。4節。

目の前で起きているのは、とても信じ
られないことばかりでした。外国から来
た人々は、自分たちの国の言葉を、弟子
たちがいちども学んだことがないのを知っ
ていました。それなのに、様々な国の
言葉を完璧に話しているではありません
か。人々は、「この人たちは、ガリラヤ人
ではないか?」と互いに言いました。「こ
の人たちは、いったいどうしてこれほど多
くの言語を、完璧に話せるのだ?彼らは、
外国語を学んだことがないはずなのに?」

6-8 節。

考えてみよう: 弟子たちが話すことので
きた言語がいくつあったか、教えてみま
しょう。9-11 節。ある子供たちは、二か
国語以上の言語を話すことができますね。
あなたはいくつの国の言葉を話せますか?
あなたは、その話せる言葉を用いて、ほ
かの人たちがイエス様を知ることができる
ためのお手伝いをしてい
ますか?

もくようび 木曜日

弟子たちは群衆
に向かって、イ
エス様のことを話してい
ます。どの国から来た人
にも、彼らの話はわか
るようです。それは、イ



エス様が弟子たちに特別な力を与えてく
ださったからです。人々は、すっかりおど
ろいてしまいました。「いったいどうなって
いるんだ?」まったくふしぎでなりません。
「なぜこのイエスの弟子たちは、急に他国
の言葉を話せるようになったのだろうか?」
使徒 2:11,12。

それは、本当に素晴らしい光景でした。
もしあなたが、ヘブル人にイエス様のこと
を話したいと思ったら、とつぜん、その人
に完璧なヘブル語で話ができるということ
です。素晴らしい奇跡だと思いませんか?

サタンは、今起こっている出来事を、よ
ろこんでいたと思いますか?まさか、そん
なはずはありません。彼は群衆のうちの
何人かに、弟子たちをからかわせました。
その人たちは、弟子たちが酒に酔ってい
るのだと言いました。13 節。

イエス様が殺された夜、ペテロがひど
く臆病になったのは、あなたも覚えていま
すね?しかし、今のペテロは、もう臆病者
ではありません。彼が自分たちをからかう
人たちに言うべきことは、すべて聖霊が教

えて下さいました。弟子
たちは酔っているのでは
ないと、ペテロは言いま
した。イエス様のことを
教える手助けをするため
に、神様が聖霊を送る
約束をしてくださったこと
を、ペテロは思い起こさ
せました。14-18 節。

ペテロは人々に、イエ
ス様の行われた数々の

奇跡は、彼が神の子であることを証明していると言いました。また、イエス様は十字架で殺されたにもかかわらず、生き返って天にお帰りになったことも話しました。22,32,33 節。

考えてみよう: イエス様について教えることができるように、聖霊が弟子たちに力を与えておられましたか？

きんようび 金曜日

ペテロが大胆に群衆に向かって説教しているあいだ、聖霊は聞く人たちの心に語りかけていました。その時人々は、メシヤを殺したのが自分たちであったことに気づき、急に怖くなってしまいました。「わたしたちは、どうしたらよいのですか？」と、彼らはたずねました。するとペテロは、うれしそうにこう答えたのです。使徒 2:38。

人々はずいぶん偉大なる神であるイエス様が人間となられたこと、また神様の力によって、わたしたちもあのすばらしい十戒にしたがうことができるのを、イエス様が証明して下さったことを理解しました。

3年半にわたり、イエス様は幾千万もの人々を教え、お助けになりました。しかし彼が亡くなられたときは、その愛と心づかいがまるで無駄になってしまったかのように思われました。ゲッセマネでは、弟子たちでさえ、イエス様を暴徒たちのもとに残して逃げ去ったからです。

しかし、イエス様のお話を聞いた多くの

人々が、この日、ペテロの話に耳をかたむけていました。人々はイエス様が語られたことを理解し始め、また彼らの多くは、イエス様の語られた王国を信じなかったことを後悔しました。自分たちの考えがちがっていたことに気づいたのです。人々は今、どうしたらイエス様の国の国民になれるかを知りたいと思いました。この日、何人の人たちがバプテスマを受けましたか？ 41 節。

考えてみよう: ご再臨の前には、ペンテコステの日が起こったようなことが起こるとき、イエス様は約束なさいました。あの日、弟子たちに力を与えられた聖霊は、今日も、互いに愛し合い、協力し合えるようにわたしたちを助け、人々の心を動かす力を与えることができます。今日でも、毎日、何千人もの人々がバプテスマを受けています。あなたは、どのようにイエス様のお手伝いをしていますか？

まな もっと学ぼう！

しとぎょうでん
★使徒行伝 1:12-14

かんなん えいこう
★患難から栄光へ p. 29-31



きゃくさま
お客様

エルシー・ルイス・ローソン

これは、インドに住むある宣教師一家に与えられた、一羽の小さな九官鳥ラージャについての、本当のお話です。神様はラージャを用いて、たくさんの幸せを人々へ届けて下さいました。

しばらくの間、ラージャは何の問題もなく過ごしました。彼は、いろいろなことをどんどん覚えていきました。今では、ひっきりなしに大声で売り物の宣伝をしている、ほとんどの行商人を真似ることができました。

そんなある日、ラージャの生活を暗くするような出来事が起こりました。女のお医者さんがラージャと話をする時間は、以前より少なくなっていました。ラージャは、お医者さんが別の生き物を腕に抱いて、それをとてもかわいがり、なでているのを見ました。ラージャは、それにやきもちを焼いたのです。それはそれは、ものすごいやきもちでした。この新しい生き物が、自分の居場所を横どりしたのですから。ラージャは生意気で、気むずかしい、いやな鳥になってしまいました。怒りに燃えたラージャは、チャンスがあれば、お医者さんの足の指をかんだり、顔をめがけて飛び、つついたりしました。ミルクをあげるために赤ちゃんを腕にだくと、ラージャは彼女のひざめがけて飛んで行き、

小さな子にくちばしで一撃を与えようとしてます。それがうまくいかなければ、こんどはくちばしで赤ん坊の服をくわえて、お医者さんのひざから引きずりおろそうとするのです。しかしラージャがどんなにがんばっても、赤ちゃんはますます愛情を受け、一方でラージャは、よけいに叱られ、叩かれるのでした。

この不幸な九官鳥は、1時間くらい部屋のすみにすわりこみ、すねていました。このように、しばらく機嫌の悪かったラージャでしたが、あるいたずらを思いつきました。そしてまたも、その思いつきを実行してしまいます。

ラージャは、赤ちゃんの寝ているベビーベッドをいばった態度で歩き、くちばしで赤ちゃんをえいっとつつきました。かわいそうな赤ちゃんは、恐ろしさで泣き叫びました。すると、ラージャもこわくなってしまいました。彼は部屋のすみに飛んで行って、頭を羽の中に隠し、何が起こるかようすをうかがっていました。

女のお医者さんは、ラージャのしたことを見てかんかに怒りました。最初は、ラージャの悪い行動は直せるもので、たいした事はないと思っていましたが、今や、それがやきもちによるもので、自分の赤ちゃんをラージャといっしょにいさせるのは危険だとわかりました。

ラージャはただちにかごに閉じこめられ、おりこうになるまで入っているように言いつけられました。

ある日わたしと夫は、そのお医者さんから手紙をもらいました。手紙には、彼女の家に来てほしいと書かれていました。

彼女は、わたしたちが教えているすばらしい真理を勉強したかったのです。彼女の家に着いた私たちは、玄関をノックして待ちました。しばらくするとタミル語で、「どなたですか?ご用件は?」という声が聞こえてきました。

わたしたちは自己紹介をし、ここへ来た理由を話しました。すると、家の中からふざけた笑い声が聞こえ、とつぜん静まりかえりました!

そこでわたしたちは、もういちど玄関をノックしました。少したってから、あの声がこう言いました。「ご用件は?お帰りください。」

わたしたちはびっくりして、帰ろうかと思いましたが、主人がもういちど試してみようと言いました。こんどは、先ほどよりも扉を強く、長く、何度もたたいてみました。

「どなたですか?ご用件は?」また、あの声が返ってきます。

3度目には、わたしたちの名前と用件を伝えました。こんどは、先ほどよりもひどくふざけて笑ったかと思えば、咳こみ、しまいには泣き声になりました。それから、しんと静まり返ってしまいました。



女の子のお医者さんが玄関を開けて姿をあらわしたとき、わたしたちはもう少しで帰るところでした。彼女はわたしたちに、「長いこと待っておられましたか?」とたずねました。「はい」とわたしたちは答えました。彼女は2階で赤ちゃんにミルクをあげていたことを説明し、謝りました。そこでわたしは、何度も返事をしてたのがだれだったのかをたずねました。

「今、お見せいたしますわ。どうぞお入り下さい。」お医者さんは笑いながら、答えました。

椅子にすわると、ラージャが呼ばれ、客に「サラーム (こんにちは)」と言うように促されました。彼はやってきて、わたしたちの目の前の床に立ちました。とても人なつっこい声で鳴きながら、羽を大きく広げて、わたしたちの足元で深々とお辞儀をしました。ラージャはこのかわいらしい動作を3度もくり返した後に、胸を張って歩き、そこから去っていきました。わたしたちは、大いに興奮しました。まるで人間のようではありませんか!お医者さんは、ラージャはとても賢い鳥だと話してくれました。わたしたちはラージャを見て、あまりにもおどろいてしまったので、ここを訪ねてきた本来の目的をすっかり忘れてしまうところでした。

(つづく)

だい しょう 第5章

あし ふじゆう おとこ 足の不自由な男



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

「信仰による祈りは、病んでいる人を救い、そして、主はその人を立ちあがらせて下さる。」ヤコブ 5:15

にちようび 日曜日

あるところに、生まれつき足の不自由な男がいました。足首のあたりが悪かったようです。幼いころ、彼はほかの子供たちのように、走り回って遊ぶことができませんでした。そして40歳をすぎた今も、歩くことができずにいました。

イエス様のふしぎな奇跡のことを耳にしたとき、この男はどんな気持ちだったと思いますか？あなただったら、どうでしょう？当然ながら、男はぜひイエス様にお会いし、足首をいやしてもらいたいと願いました。ところが、イエス様がおられた場所は、彼が住んでいるところからは遠くはなれていました。

男は友人たちに、自分をエルサレムの神殿の門まで運んでくれるように頼みました。そこでイエス様とお会いできたら、とおもったのです。ところが、友だちにつれら



れて神殿にやってきたら、残酷な者たちがイエス様を死刑にしてみました。彼の心は、すっかりくじけてしまったにちがいありません！

くる日もくる日も、友人たちは、男を「うるわしの門」と呼ばれる神殿の門へとつれて行きました。男はそこに一日中ずわって、お金や食べ物を人々からめぐんでもらうのでした。そこを通りすぎる人たちのなかに、お金をめぐんでくれる人たちがいたので、友人たちはそのお金で男に食べ物を買ってあげました。

午後の祈りの時間になると、大勢の人がこの足の不自由な男のすわっている門を通り過ぎます。ある日のこと、ペテロとヨハネがこの門を通りました。使徒 3:1。

ペテロとヨハネは神殿へ行く前、人々にイエス様のことを話す機会が与えられるようにと祈っていました。彼らは、自分たちに必要なのは、聖霊だけが与えることのできる力であることを知っていました。「うる

わしの門」を通ったとき、ひとりの貧しい
足の不自由な男が、そこにすわって物乞い
をしているのが目にとまりました。2節。

かんが
考えてみよう: ペテロとヨハネは、物乞
いをしている男の前を早足で通り過ぎまし
たか? さっさと歩き去ったとしたら、それは
なぜだと思えますか? そうしなかったとし
たら、それはなぜだと思えますか?

げつようび 月曜日

○ テロとヨハネが祈りをささげるた
めに神殿へ向かっていると、神殿
の門のところにだれがすわっていました
か? **使徒 3:2**。

足の不自由な男は、ペテロとヨハネに
向かって手をのばしました。自分の前を
通りすぎていく人に対しては、だれにでも
そうしていました。3節。

ペテロとヨハネは、足を止めました。彼
らは男をかわいそうに思いましたが、何
かをあげたくてもお金がありませんでした。
すると聖霊は、お金よりもはるかにす
ばらしいものがあることを、ペテロに思い
出させました。男の注意を引くために、彼
は何と言いましたか? 4節。

男はペテロとヨハネを見上
げました。ふたりが、お金を
めぐんでくれるだろうと思
ったからです。5節。

ペテロがお金をもっていない
と言うと、男はがっかりし
ました。ところが、次にペテ



口の言った言葉が、男にふたたび希望を
いだかせます。6節。

「イエスの名によって」とペテロは言
いました。貧しいあわれな男は、イエス様
に助けをもらうには遅すぎたと思っていま
した。イエス様は死んでしまったと、聞か
されていましてから。しかし、ペテロのこ
とばを聞いて、ふたたび希望がわいてき
たのでした。

ペテロが男の手をとると、男はその手
をしっかりにとぎりました。そして男は、生
まれて初めて立ち上がったのです。足首
はすっかり強くなっています。彼は、いや
されたのです。7節。

かんが
考えてみよう: あなただったら、次に男
がしたのと同じことをしたと思えますか? 8
節。

かようび 火曜日

人々は、生まれてからずっと足が
不自由だった男が、神殿に入って
行くのを見ました。彼らは、男が歩けずに、
門のそばでいつも物乞いをしていたのをよ
く知っていました。ところが、その男が歩
き、とびはねて、神様を賛美
しているではありませんか。
使徒 3:9,10。

いつの間にか、人だかりが
できていました。感謝の気持
ちでいっぱいこの男は、ペ
テロとヨハネを去らせたくあ
りませんでした。11節。



ひとびと
人々は、ペテロとヨハネが奇跡を起こしたと思っていました。そのことに気づいたペテロは、彼らにむかって、この男をいやしたのは自分たちではなく、イ

エス様であったことを話しました。

ペテロは人々に、「皆さん、どうか、ヨハネとわたしが足の不自由な彼をいやしたと思わないでください」と言いました。「わたしたちに、そのような力は全くないのでから。」 12 節。

ペテロはその場で、別の説教を始めました。彼は、神様がイエス様をこの世界に送って下さったことや、そのイエス様が偉大なるメシヤだと信じるのを人々が拒んだことを話しました。彼らはイエス様ではなく、強盗であり殺人者であった悪人バラバをゆるすことを選びました。こうして人々は、自分たちの救い主を殺してしまったのでした。しかしペテロは、神様がイエス様を死からよみがえらせて下さったことを話し、この足の不自由な男のいやしは、実にイエス様の力をおとしてなされたのだと訴えたのです。 13-16 節。

考えてみよう: ペテロとヨハネにとっては、自分たちの力で足の不自由な男をいやしたと人々に思わせるほうが、楽だったので

はありませんか？彼らはなぜ、あえてそう思わせないようにしたのでしょうか？

すいようび 水曜日

神殿でペテロは、よろこんでイエス様のことを話しました。聖霊が、聞く人々の心に語りかけていました。イエス様がなさったことや語られたことを、多くの人々が思い出していました。今や彼らは、イエス様が真の神の子であったことをさとりしました。

多くの人たちがイエス様を信じなかった理由は、彼らが律法学者や祭司、民の指導者たちの言うことを、何でも信頼するように教えこまれていたからです。弟子たちですら、メシヤは敵を追いはらってくださるものと考えていました。彼らは、本当の敵がサタンであることを知りませんでした。ペテロは人々に、何と言いましたか？
使徒 3:17。

その日、ペテロの話を聞くうちに、しいには多くの人々が、自分たちがずっとサタンにしたがっていたことに気づきました。その日以来、彼らはイエス様を信じるようになりました。ペテロは彼らに、何をすべきであると言いましたか？ 19 節。

考えてみよう: イエス様がこの世界にいられたとき、ほとんどの人は、神様と、彼らに対する神様の愛について知っていましたか？いいえ。では、神様のことを知っている信心深い人たちは、多かったですか？はい。神様は、これらの信心深い人々が、人々に対する神様の愛を全世界にのべ伝

えるように望んでおられました。しかし彼らは、本当に神様を愛していたのでしょうか？ 本当の意味で、十戒にしたがっていましたか？いいえ。それどころか、彼らは神のみ子であられるイエス様を殺したのです。そこまで恐ろしいことをしてしまった人でさえも、神様は愛しておられたと思いますか？

もくようび 木曜日

その日ペテロは神殿で、イエス様を殺した人たちでさえも、神様が愛しておられることを話しました。神様はその時もまだ、彼らが他の人々に、神様のことを伝えるように望んでおられたからです。しかしそうするためには、彼らを救うために来られたイエス様が、メシヤであることを信じなくてはなりません。また彼らは、イエス様にたよって、本当の意味で十戒にしたがうための力を得なくてはなりません。使徒 3:25,26。

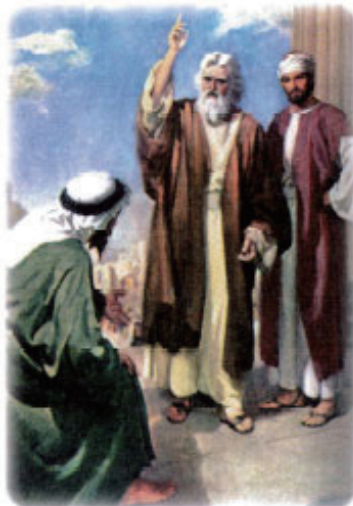
ある人たちは、足の不自由な男がいやされたことと、イエス様のよみがえりについてペテロが説教をしていることを、走って祭司や民の指導者たちに報告しにいったことでしょう。祭司たちは、弟子たちが墓からイエス様の遺体を盗み出したのであって、イエス様が生き返ったわけではないと主張していました。マタイ 28:11-15。

足の不自由な男がイエス様を信じていやされたことを聞

いて、祭司たちはどんな気持ちだったと思いますか？彼らは怒りましたが、同時に怖くなりました。祭司や民の指導者たちは、イエス様がよみがえられたのを知っていました。イエス様が復活なさったことを、よくわかっていたのです。そして、イエス様の力だけが、あの足の不自由な男をいやすことができたことも、よくわかっていた。ところが彼らは、自分たちがまちがっていたことを認めるところか、これまで以上にますます心をかたくなにしました。彼らは何をしましたか？使徒 4:1-3。

何と悲しいことでしょう！イエス様は、これらの悪人たちを愛しておられました。そして、彼らが心を入れかえる機会を、いつも与えておられました。ただし、だれに対しても、ご自分を愛するように強制することは決してありません。

考えてみよう：サタンはあらゆる方法を用いて、人々をイエス様にしたがいませぬように力をつくしてきました。しかしサタンは、選ぶ自由をうばうことができたのでしょうか？いいえ。そしてイエス様を愛し、信頼し、彼にしたがうことを選ぶ人は、ますます増えていったのです。



きんようび 金曜日

牢獄で一夜を明かしたペテロとヨハネは、翌朝、役人らにつれられて、大祭司のいる法廷へ引き出されました。まもなく彼らは、大勢の地位の高い人たちの

まえ た 前に立たされます。かれ 彼らがペテロとヨハネにたずねた最初さいしよの質問しつもんは何でしたか？使徒しと4:5-7。



ペテロとヨハネが立たっていたのは、数週間前すうしゅうかんまえに、イエス様さまが審問しんもん〔裁判さいばんでの質問しつもん〕をうけられたのと同じ場所おな ばしよで、審問する祭司さいしたちもイエス様の裁判さいばんの時ときと同じでした。そこはまさに、臆病おくびょうだったペテロが、三度さんどもイエス様さまを知らないと言いい切きった、あの場所ばしよです。しかし、ペテロはもう臆病者おくびょうものではありません。祭司さいしの質問しつもんに対して、ペテロが大胆だいたんに答こたえるようすが書かかれている8-12節せつを讀よんでみましょう。

これらの祭司さいしや民たみの指導者しどうしやたちには、ペテロとヨハネがこれほどまでに力ちからある言葉ことばで語かたっていることが、まるで信しんじられませんでした。この弟子でしたちはとても貧ましかったため、特別とくべつな教育きょういくを受けたことはいちどもないはずです。ですから指導者しどうしやたちには、イエス様さまがふたりの弟子でしを助たすけて、勇敢ゆうかんに話はなをさせておられることがわかりました。13節せつ。

足の不自由あし ふじゆうだった男おとこがその場ばに立たっていることが、ペテロの話はなすことが真実しんじつだという何なによりの証拠しやうこでした。そこで指導者しどうしやたちは話はなし合あった上うえで、ペテロとヨハネに、イエスについて語かたるのをやめるように命めいじました。15-18節せつ。

弟子でしたちは、民たみの指導者しどうしやたちの言いうことにしたがいいましたか？それからどうなりなりましたか？19-21節せつ。

かんが 考かんがえてみよう：そこで起おこっ

ていることを見みて、サタンはどおもう思おもっていたでしでしょう？ふたりの弟子でしは、イエス様の約さ束そくななざなったとおり、聖霊せいれいが強き力りよくな助たすけ手てであることを、身みをももって知しり始はじめていたと思おもいますか？すでに聖霊せいれいは、どのようちからにその力ちからを示しめしていますしたか？また、わたしたちの住すむこの世界せかいにおおいて、聖霊せいれいはその力ちからをどのようちからにあらわしておられますか？

まな むっと学まなぼう！

しとぎょうでん ★使徒行伝 3:4-1-22

かんなん えいこう しょう ★患難から栄光へ 6章



あたらしいいえ ラージャの新しい家

エルシー・ルイス・ローソン

これは、インドに住むある宣教師一家
に与えられた、一羽の小さな九官鳥ラー
ジャについての、本当のお話です。神様
はラージャを用いて、たくさんの幸せを
人々へ届けて下さいました。

わたしはずっと、このすばらしい鳥
のことばかり考え、話していま
した。こんな鳥は、もちろん今までに、見
たことがありませんでした。わたしができ
るかぎりの「感激をあらわす言葉」をすべ
て言いつくし、息つぎのために話をとめた
ところで、女のお医者さんは
大声で笑い出しました。彼女は
わたしの話を聞きながら、
わたしができればラージャを
欲しいと思っていることに気
づいたようでした。

得意そうに目を輝かせなが
ら、お医者さんはわたしたち
に、ラージャの話を聞かせて
くれました。それから、彼女
に赤ちゃんが生まれてからの、ラージャの
やきもちを焼く性質や、いじわるな行動に
ついて話しました。お医者さんは、赤ちゃ
んに危険がおよぶのではないかと心配し
ているようすでした。今では、ほんの一瞬
でも、赤ちゃんをひとりにするのは危険だ

と言います。
彼女は、いきなり私のほう
を向いて、「ラージャを、も
らってくれないか？」とた
ずねました。



私がラージャを欲しいかですって!この
とつぜんの質問は、わたしが幼かったこ
ろ、いつかアフリカへ旅行して、きれい
なおしゃべりオウムを持って返ることを
夢見ていたことを思い出させました。私の
父はアフリカに行ったことがあって、オウ
ムが話すのを見たり聞いたりしたことがあ
りました。しかし私は今、イン
ドにいます。たしかにこの国
にも、たくさんのオウムがいま
す。でもその中のどれも、わ
たしは気に入りませんでした。
ほとんどが、ただぺちやくちゃ
と、よくわからない鳴き声を
出すだけでした。ところが今、
何年もたった今、夢が現実に
なろうとしていました。言葉を

話す鳥を飼う、という夢です。

やさしく愛情をこめてかごに入れられた
ラージャが、わたしの手にわたされました。
このありがたい贈り物が入ったかごをしっ
かりにぎって、さっさと帰ろうとしたわたし
は、興奮のあまり、玄関の階段からころ



Line Art: From Rajah, Lester Quade

お
げ落ちそうになったほどです。

しばらくして、ラージャは新しい家に着きました。ふたりの子供たち、ベティー・ジュンとアーキー・クレイグは、この新しいペットに大よろこびです。ラージャが話すのを聞いたときの、子供たちのおどろきと興奮は、もう大変なものでした。彼らは何日も、かごのそばに立ったりすわったりして、ラージャの笑い声、咳、泣き声、またタミル語でのおしゃべりを聞きました。ラージャの芸を見た子供たちの笑い声が響きわたると、ラージャも笑います。

ラージャは四六時中、芸をするのに忙しくしていましたが、同時に、新しいことや新しい音も学んでいきました。彼は、ふたりの子供たちの名前を、おどろくほどの速さで覚えました。ふたりが数分の間ラージャを離れると、ラージャは「ベティー!アーキー!」と呼びます。

さらにラージャは、すぐにキミーという、飼い犬の名前も覚えてくれました。飼い主であるわたしたちの声をあまりにもじょうずに真似るので、ラージャが「キミー!キミー!」と呼ぶと、犬のキミーは起き上がって声のするほうへ走って行くのですが、そこでは、ラージャのばかにした笑い声をあびせられるだけです。わたしたちといっしょに住んでいる間、ラージャはずっとこのいたずらをしていました。キミーはうんざりしたと思いますが…。

次に、この鳥が覚えた名前は、「リリー」と「ジョージ」でした。これは、わたしたちの子守りをしているインド人のメイドの、子供たちの名前です。

子供たちが学校に行っている間、ラージャは「アーキー!ベティー!リリー!ジョージ!」と呼びながら、家中を歩いていました。部屋から部屋をわたり歩くのです。子供たちが留守だとわかると、こんどは犬のキミーをさがし出して、からかって時間を過ごすのでした。

(つづく)

だい しょう 第6章

せいちょう きょうかい 成長する教会



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

かれ いの お
「彼らが祈り終わると・・・一同は聖霊に満たされて、
だいたん かみ ことば かた
大胆に神の言葉を語りだした。」
しとぎょうでん
使徒行伝 4:31

にちようび 日曜日

イエス様がこの世界で人々を教え、
いやしておられたころ、彼には12
人の特別な弟子たちがいました。その中
のひとり、イエス様よりもお金を愛して
いました。ユダのことです。でも、お金は
ユダを幸福にしませんでした。イエス様が
亡くなられたおなじ日に、ユダは自ら首を
つって死んでしまいました。

では、何人の弟子が
残ったのでしょうか？ 11
人です。教会は12人
から始まって、成長す
ることになっていまし
た。ですからユダの代
わりに、もうひとり特別
な人物が必要でした。
その人物は、イエス様
と長くいっしょにいて、



かれ ころ あい ひと
彼を心から愛する人でなくてはいけませ
ん。

イエス様は11人の弟子たちに、彼の
ことを他の人々に伝え、彼の力によって
奇跡を行うように望んでおられました。ま
たほかの人たちに、どうやってイエス様の
ために働くかを教えなくてはなりません
でした。

ユダはその特別な弟子のひとりで、ほ
かの弟子たちは彼のことを、イエス様の
素晴らしい働き手にな
る人物だと思っていま
した。しかし、イエス
様はユダの心をご存
じでした。弟子たちは
今、ユダに代わる人物
を選びたかったのです
が、本当にふさわしい
人を選ばなくてはなら
ないと思いました。

そして、イエス様を
心から愛し、彼と多く

の時間をすごしたことがあるふたりの人物にしぼりました。それから熱心に祈った11人に、イエス様は、どちらの者を選ぶべきかをお示しになりました。使徒 1:23-26。

考えてみよう: イエス様は、わたしたちの心をご存じですか? また、わたしたちが彼に仕える最善の方法もご存じですか?

げつようび 月曜日

最初、使徒たちはイエス様から命じられたとおりにエルサレムで伝道し、教えを説きました。彼らの働きは、聖霊の力によって祝福されました。イエス様が今も生きておられ、聖霊をとおして弟子たちと共におられることを知らしめるために、神殿の門でペテロとヨハネにおこなわせた奇跡は何でしたか? あなたは、その物語を話すことができますか? その日、何名の人イエス様を信じるを選びましたか? **使徒 4:4**。

ペテロとヨハネを牢獄に入れた祭司と民の指導者たちは、翌朝、ふたりの弟子に、これ以上イエスについて説教しても教えてもいけないと警告しました。ではペテロとヨハネは、その警告にしたがうと約束しましたか? いいえ。ふたりはもう、何も恐れませんでした。祭司たちに言いわたされてから、ふたりはどこへ行きましたか? **23 節**。

仲間みんなが、ふたりの話にどれほど熱心に聞き入っ



たか、想像できますか? 話し終わると、神様がその偉大な力をあらわして下さったことをみんなで感謝し、賛美しました。彼らは、勇敢でいられるように、また、神様がイエス様のみ名をとおして、これからもすばらしい奇跡を起こしつづけて下さるようにと祈りました。24,29,30 節。

考えてみよう: 聖霊の力によって、弟子たちは、イエス様が亡くなられる前と後でどのように変わりましたか? 聖霊は、わたしたちがイエス様のために勇敢になれるように、助けたいと望んでいますか?

かようび 火曜日

弟子たちは、イエス様について大胆に語る事ができるように、神様に助けを求め、祈っていました。神様が彼らの祈りをお聞きになったしるしとして、何が起きましたか? **使徒 4:31**。

この聖句によれば、そこにいた人々のうち、何名が聖霊にみたまされましたか?

その日、聖霊はふたたび弟子たちの心を見つめ、イエス様にしたがうことを選んだ何千人もの人々の心もみたましました。これらの人々が、聖霊をとおしてイエス様を心に住ませた結果、何が起こりましたか? 3つあげてください。32 節。

まず人々は、「心をひとつに、思いをひとつに」しました。彼らの心は、まるでひとりの人、ひとつの心であるかのように、互いに一致したのです。

2つ目に、全員が、持ち物のすべては神様からの贈り物であることを知りました。神様こそが、世界中のすべてのものの持ち主であります。子供たちが「これはわたしのだよ。返して」と言って、互いにとり合いをしているのを見たことはありませんか？イエス様は子供のころ、同じようなことをしましたか？

3つ目に、すべての持ち物を「共有にしていた」という意味は、彼らが持っているものは何でも、必要とする仲間に分け与えたということです。

かんが 考えてみよう：多くおおの新しいあた信者しんじやたちの、
お互いへの態度について、あなたはどう
お思いますか？イエス様さまがわたしたちの心こころに
住すまれるとき、わたしたちは利己的りこてき〔わが
まま〕になるでしょうか？けんかや言い争
いをするでしょうか？互いに意地悪なこと
を言うでしょうか？自分じぶんの思いどおりになら
ないときは、すねて口をとがらせるでしょ
うか？

すいようび 水曜日

イエス様さまにしたがう多くの人たち
は、ほかの人たちとはちがって
いました。なぜちがっていたのか、かんが
みましょう。いつでもほかの人に親切で、人
の役に立ちたいという性質を、わたしたちは
生まれつきもっていますか？私たちは自然
に、どんな時でもわがまませず、自分
の物を人に分けてあげようとするでしょ
うか？いいえ。わたしたちは生まれつき、そ
のような善を行う気持ちがあるわけでは

ありません。

罪がこの世界に入って以来、わたしたち人間はわがまま、何でも「自分自身のやりかた」とおしたいという性質をもって生まれてきました。そして、イエス様さまがわたしたちの心こころに住すんでくださらないかぎり、その「自分自身のやりかた」はサタンのやりかたなのです。イエス様さまが心こころに住すんでくだされば、わたしたちはイエス様さまに似た者となることができます。しかしイエス様の助けがなければ、そうなることはできません。なぜなら私たちは、生まれつきサタンに似た者だからです。

イエス様さまにしたがっていた人たちは、イエス様さまのようにふるまいました。なぜなら、イエス様さまが彼らの心こころにおられたからです。イエス様さまにしたがう前と後では、そのちがいがだれの目にも明らかでした。

イエス様さまを選んだ人たちが、実に様々な身分や職業、年齢や境遇にわかれていたことを考えてみて下さい。裕福な人、まずひと、老人、若者や幼い子供、そして彼らの両親などです。高い教育を受けた人もいましたし、いちども学校へかよったことのない人もいました。中には祭司や地位の高い人物、たとえばニコデモやアリマタヤのヨセフのような人たちもいました。このふたりが、十字架で亡くなられたイエス様さまのご遺体をひきとったのでした。彼らも今では、イエス様さまにしたがう多くの人たちの中にいました。

かんが 考えてみよう：もしわたしたちがイエス様さまに似た者となったら、まわりの人たちはそのことに気づくでしょうか？わたしたちは、

どのようにふるまうようになりますか？

もくようび 木曜日

この世界におられた間、イエス様は、真理の種を幾千万もの人たちの心に植えつけられました。今になってこれらの人たちは、彼らの教師たちが真理を教えていなかったことを知りました。そして、長い間待ちわびていた偉大なメシヤが、イエス様であったことを知りました。この世界に來られて、わたしたちのために生き、死んで下さったイエス様こそが、人類の救い主だったのです。

約束どおりイエス様は、ほかの人たちに彼のことを伝えるための特別な力を与える聖霊を送ってくださいました。そして聖霊は、神の国について、またイエス様に似た者になることについて理解させるために、何千何万もの人たちを助けておられました。

祭司と民の指導者たちは、イエス様が死ねば、人々は彼のことを忘れてしまうだろうと思っていました。本当にそうになりましたか？いいえ。彼らは弟子たちをおどして、イエス様について話すのをやめさせようとしたのですが、できませんでした。イエス様を愛し、信頼し、彼にしたがうことを選んだ人は、ますます増えるば



かりです。イエス様のことを伝える弟子たちが、勇敢に、大胆に語る事ができるように聖霊が助けていたので、彼らは何も恐れませんでした。使徒 4:33。

考えてみよう：聖霊は今でも、世界中の人々がイエス様について学ぶのを助けておられますか？そのお手伝いをするために、あなたはどんなことをしていますか？

きんようび 金曜日

森の木々には数えきれないほどの葉があります。たとえ同じ木にしている葉でも、ひとつひとつがちがうということ、だれかから聞いたことはありませんか？また雪の結晶は、ふたつとしてまったく同じ形のものはないことを、習ったことがありますか？

この世に、あなたとまったく同じ人がいますか？双子の中には、ひじょうによく似ていて、なかなか見分けがつかない人たちもいますね。それでも、よく似た双子の母親は、ふたりの子を見分けることができ

るのです。世界中をさがしても、まったく同じ人がふたり存在することはありません。ですから私たちは、一人ひとりがとても特別なのです。

イエス様は、みんながまったく同じ人間になるようにとは、望んでおられません

た。ですから、これまで生存した一人ひとりの人間は、皆ほかの人とはちがうのです。目や皮膚の色、または髪の毛の色が同じ人たちはいますね。同じ言葉を話す人たちもいます。けれども、わたしたちは皆、いろいろなところがほかの人とはちがうのです。

互いにちがっている者どうしが、いつでも仲良くできるでしょうか？多くの場合、人によって考え方はちがいます。好きな食べ物もちがうでしょうし、好きなこと、やりたいこともちがうでしょう。そして、わたしたちが皆、生まれつき利己的〔わがまま〕であるために、ほかの人も自分と同じものを好きになるべきだとか、自分のやりたいことをみんなもやるべきだと、つい思ってしまうのです。

聖霊をとおしてイエス様がわたしたちの心におられるなら、互いにちがっていたとしても、愛し合うことができるようになります。弟子たちの話を聞いてイエス様にしたがつた人たちは、まさにそうでした。彼らは互いに助け合い、そして愛し合っていました。

かんが **考えてみよう**：このように教会が成長していくのを見て、サタンはよろこんでいたでしょうか？聖霊がなさっていることを、彼は台無しにしたいと思っていましたか？

まな
もっと学ぼう！

しとぎょうでん
★使徒行伝 1:23-26; 4:23-33;

かんなん えいこう じょうかん
★患難から栄光へ上巻 p. 70-71



ラージャ、テーブルマナーを習う

エルシー・ルイス・ローソン

これは、インドに住むある宣教師一家に与えられた、一羽の小さな九官鳥ラージャについての、本当のお話です。神様はラージャを用いて、たくさんの幸せを人々へ届けて下さいました。



ラージャの食事には、レタスかほうれん草などの青野菜、砕いた豆、果物など、何でもその季節にとれるものを食べさせます。好物はバナナとグアバです。また、いろんな種類の昆虫も好きでした。

インドでは、もし鳥を上手に話せるようにしたければ、青唐辛子を毎日食べさせるべきだと信じられていたので、ラージャのかごにはいつでも、唐辛子をぶら下げていました。ほかにもインド人は、ニンニクにすばらしい薬効成分が含まれていると考えていました。ニンニクは、鳥やニワトリの病気のほとんどに効果のある、万能薬と考えられていました。ですからラージャのかごには、ニンニクも下げられていました。当然、鳥かごがすてきな匂いになるわけではないのですが、唐辛子で話が上手になり、ニンニクで病気を予防できるのなら、においにも耐えることができました。

食事のとき、ラージャは子供たちの横

にすわることになりました。でも、これが一番いいやり方だったとは思っていません。ラージャは自分の近くにおかれたものを、片っぱしから味見していったからです。何とかしなくてはなりません。ラージャを食卓につかせるなら、お行儀よく食べることを学ばせなくてはなりません。

そこで、長いあいだ使われていなかった、古い、背の高い子供用の椅子を、子供たちの間におきました。2枚の皿と、ベティのお人形ティーセットの小皿を、ラージャのお皿にしました。ラージャは、これがとても気に入っていました。

夕食のベルが鳴るとすぐに、ラージャは一直線に背の高い椅子に向かいます。お皿がからになると、ラージャはお皿の端をきどって歩き回ります。そしてはげしい口調で「パン!バター!ココア!」と叫びます。この要求は、食べ物をもって来られるまでずっとつづきます。

くる日も来る日も、ラージャの文句はつづきました。これも、どうかしなくてはいいけません。特に食事のお祈りのあいだは、静かにする習慣を身につけさせなくてはいいけません。それができないのなら、台所で犬といっしょに食べさせるしかありません。

子供たちは、この新しいお友だちに、どうしても食卓にいてほしかったので、ラー

ジャがうまくできるように協力しました。もちろん私たちおとなも、できるだけのことをしました。お祈りが終わるまで、食卓には一切、食べ物のをせませんでした。そしてついに、教えようとしていることを、ラージャは理解するようになりました。以来、食卓で問題が起こることは、一切なくなりました。自分の椅子におかれている盆に止まり、頭を一方にぴんとたててすわります。ラージャの目は、多くの九官鳥に特有の、賢くて生意気そうな目です。お祈りの言葉が終わるやいなや、ラージャは自分の要求をありったけの大声で叫びます。「ボーイ君!パン!バター!ココア!」

「ボーイ君」というのは、わが家で料理を作っている青年のことです。子供たちが何か必要なときに、「ボーイ君、あれとこれを持ってきて」と呼ぶので、ラージャはすぐにその名前を覚え、名前を「ボーイ君」という呼び名が、何か食べ物に関係することもわかるようになりました。

小さい子供たちが好き嫌いをするように、ラージャにも好物と苦手なものがありました。彼が苦手だったもののひとつは、かわいたパンでした。ほかに食べるものがあるときには、かわいたパンに手をつけませんでした。子供たちがラージャをからかいたいときは、かわいたパンを少しラージャのお皿において、ラージャがどうするのかようすを見ます。ラージャは頭を一方にぴんとたてて、パンに目をやります。



Line Art: From Rajah, Lester Quade

それから、パンをつまんでひっくり返します。パンの両面ともかわいていたら、彼はうんざりした声で、「ボーイ君!バター!バター!」と叫びます。すると子供たちは、賢いラージャへのごほうびに、ぶ厚くバターをぬってあげるのです。

ラージャは、ある種の昆虫が大好物でした。羽アリやイナゴ、コオロギは特に気に入りで、食事の終わりはいつでも、大好きな昆虫でしめくりたいと思っていました。アーキー・クレイグは、新鮮な昆虫を網でつかまえて、ポケットに入れていました。こうすれば、ラージャにデザートをあげられますから。

何かの理由で、食事の最後に昆虫が用意されていないときは、アーキー・クレイグの肩に飛んで行き、彼の耳をやさしくつまんで「アーキー、虫!アーキー、虫!」と言います。ペットをよろこばせようと、アーキーはポケットに手を入れて昆虫をとり出し、それをあげるのです。

(つづく)

だいしょう 第7章 やくそく やぶられた約束



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

ただひといつわにく
「正しい人は、偽りを憎む。」
しんげん
箴言 13:5

にちようび 日曜日

エルサレムにあるイエス様の教会は、ますます成長しています。イエス様が聖霊をとおして、弟子たちにすばらしい力をお与えになっているのが、だれめにもわかりました。おどろくべき奇跡が次々になされ、人々はイエス様を愛し、信頼し、彼にしたがう選びをしていました。人々は、十戒の本当の意味を学びました。すると、それまで教えられてきた、人間によって作り上げられたたくさんの規則が、実は神様の規則ではなかったことに気がつきました。彼らは今、心をつくして神様を愛することと、自分を愛するように他人を愛することを学んでいました。

あまりにもたくさんの人がイエス様を信じるようになったので、祭司と民の



指導者たちは怒っていました。そこで彼らは、なんとかして、弟子たちが教えたり説教したりするのをやめさせようと、あらゆる手をつくしました。

多くの人たちが、イエス様への信仰を持ったため苦しみにあいました。ある者たちは、家族を離れなくてはなりませんでした。いったい、どこへ行けばよいのでしょうか？ どうやって、食べ物を手に入れたらよいのでしょうか？

イエス様はこのように人たちに、ほかの信者たちを用いて、家や食べ物をお与えになりました。家や食べ物のある信者

たちは、生きるのに必要なものが不足している人たちと、すべてを分け合いました。中には、助けを必要としている人たちのために使ってもらおうと、弟子たちにお金をわたすものもいました。また、ほかの人を助けるために、土地を売ったお金をささげるものもいまし

た。

かんが
考えてみよう:エルサレムの献身的な
しんじや
信者たちをごらんになって、イエス様はど
おも
う思われたでしょう?

げつようび 月曜日

エルサレムの教会は、ますます
せいちよう
成長していきました。信者たち
は互いに持ち物を分け合い、愛し合い、
このようにしてすべての信者が養われまし
た。お腹をすかせた人は、いなくなりました。
いふく す いえ こま ひと
衣服や住む家がなくて困っている人は、ひとりもいません。みんなが喜んで
すべての物を分け合ったので、イエス様に
たがったために苦しみを受けている人を
たす
助けるためのお金が、十分にありました。

こま ひと
困っている人たちのために、喜んで
自分たちのお金をささげた人たちの中には、
イエス様の信者となったニコデモと
ヨセフもいました。彼らは裕福でした。も
うひとり、ヨセフという名の人は、弟子
たちにとって大きな助けとなり、「バルナ
バ [励ましの子]」と呼ばれたほどでした。
バルナバは、弟子たちをど
のように助けましたか? **使徒**
4:36,37.

ほかにもふたりの信者が、
自分たちの土地を売り、代金
のすべてを多くの新しい信者
たちを援助するためにささげ
ると約束しました。アナニヤ
と妻のサツピラでした。もち
ろん弟子たちは、このふたり



もう で かんしや しと
の申し出に感謝しました。 **使徒 5:1.**

あ す ものがたり
明日は物語のつづきで、アナニヤとサツ
ピラが、自分たちの約束を守ったかどうか
について学びます。

かんが
考えてみよう:いちど約束をしたら、ど
うするべきですか? 約束したのに考えを変
えたり、それをやぶったりするのは、**ただ**
いことですか? では、**かみさま やくそく**
神様に約束をしたと
きは、**かみさま やくそく**
どうでしょう? 神様との約束はもっと
じゅうよう
重要で、きちんと守るべきではないです
か?

かようび 火曜日

アナニヤとサツピラは、自分たちの
とち う かね だし
土地を売ったお金を、弟子たちに
ささげる約束をしていました。ところが家
に帰ってよく考えると、全部ささげる約束
をしなければよかったと後悔してしまいま
した。そこで、土地を売った代金の一部
を手元に残しておきたいと思いました。で
も、もうすでに約束してしまったことです。
ふたりはどうするのでしょうか?

アナニヤとサツピラは、みんなから
りこてき じぶん りえき
利己的 [自分の利益だけ
をもとめるようす] だと
おも
思われたくなかったので、
とち う ねだん
土地を売った値段をだれ
にも言わないことにしまし
た。こうすれば、代金の
いちぶ
一部をごまかして自分のも
のにしても、だれにも知ら
れずにすみませす。弟子たち
もほかの人たちも、これま

でどおり自分たちのことを、よく思ってくれるでしょう。

弟子たちに全財産をささげた人には、困っている人たちと同じように、食べ物でも何でも、必要なものが与えられることを、アナニヤとサツピラは知っていました。こうして彼らは、援助を受けながらも、だれにも知られずに、たくさんのお金をたくわえることができると思っていました。

では、アナニヤとサツピラのこの計画は、正当なもの〔道理にかなっていて正しいこと〕でしたか？人知れずお金をもっているが、お金のないふりをして援助をもらってよいのでしょうか？もちろん、だめですね。しかもアナニヤとサツピラは、それが悪いことだと知っていました。知っていながら、結局そうすることに決めたのです。

アナニヤとサツピラは、手元に残しておく金額を決めました。それからアナニヤは、残ったお金をささげるために、ペテロのところへ行きました。**使徒 5:2。**

アナニヤを見たペテロは、それからお金に目を向け、悲しくなっていました。アナニヤとサツピラがしたことを、聖霊がペテロに教えたのです。ペテロは、イエス様も悲しんでおられることを知っていました。このあとに起こったことについては、

明日お勉強しましょう。

考えてみよう：神様は、すべての人のすべてのことについてご存じですか？はい。わたしたちは、だれかをだますことはできません、神様をだますことができるでしょうか？

すいようび 水曜日

アナニヤはペテロに、自分が売った土地の代金の全部をわたしたふりをしていました。ところが、ペテロは彼に何とたずねましたか？**使徒 5:3,4。**



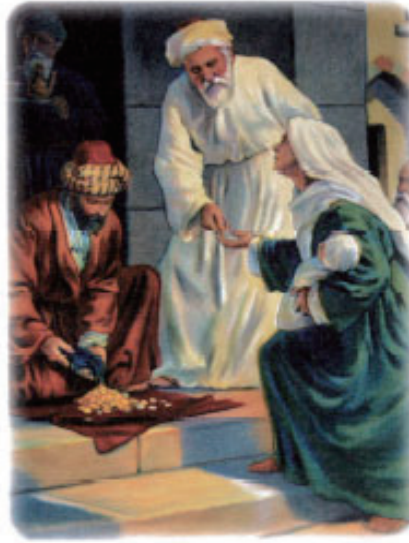
ペテロにほめられる代わりに、アナニヤは、たとえ真実でないことを話しても、神様はすべてをご存じであることを知らされました。

アナニヤとサツピラは、全財産を神様にささげる約束をしなければよかったのです。残しておくお金と、献金するお金の額をふたりで決めてもよかったのです。しかし、全財産をささげる約束してしまった以上、その約束を守るべきでした。約束を守っているふりをするのは、うそをついているのと同じことです。そのとき、そこにいた人たちみんなが、神様にうそをつくのがどれほど危険なことかを知ったのでした。その出来事に、人々は大変なショックを受けました。**5,6節。**

3時間ほどたってから、サツピラがやってきました。アナニヤがお金をいくらもってきたのか、ペテロにはわかっています。ペテロはサツピラに、何とたずねましたか？ 7,8節。

サツピラも、アナニヤのようにうそを言いました。ペテロはどんなにがっかりしたことでしょう！ペテロがサツピラと話していると、足音が聞こえました。それは、アナニヤを墓に入れてもどってきた若者たちでした。それから、何が起こりましたか？ 9,10節。

考えてみよう：おそらくアナニヤとサツピラは、神様との約束をやぶっても、大したことはないと考えていたのでしょうか。そして、うそをつきました。しかし、神様との約束をやぶっている人は、ほかにも大勢いるのではありませんか？神様はなぜ、これほどすみやかにアナニヤとサツピラを罰したのでしょうか？明日、そのことについて考えてみましょう。



様にしたがうという約束には、10分の1をささげることにもふくまれています。

だれかがわたしに1,000円をくれたとしたら、それは全部わたしのものですか？ちがいますね。では、そのうちのいくらか、神様のものですか？100円ですね。本当はすべてが神様のものですが、神様は10分の1を返すよう私たちに求めておられます。では、もし10分の1であるその100円を使ってしまったら、わたしは何をしたことになるのでしょうか？神様から盗んだことになるのです。

献金についてはどうでしょうか？ふつうの献金は、10分の1献金とはちがいますか？そうですね。ふつうの献金であれば、自分で決めた額をささげてよいのです。

もしわたしが神様に対して、ある額のお金を献金すると決めたとしたら、そのお金はまだわたしのもののでしょうか？いいえ、それは神様のお金になりました。わたしはそれを神様にささげて、約束を守るべきですか？

約束をするとき、私たちはとても注意ぶかくやるべきです。ふたりの男女が結婚をするときは、生きている間ずっと守るべき約束を、おごそかに交わしますか？

イエス様が天にもどられたあと、めざましく成長していた教会にとって、約束がどれほど重要であるかをみんなに分かってもらうことの大切さを、イエス様はよくご

もくようび 木曜日

だれかと約束していながら、気がかわったら勝手に変えてもいいのでしょうか？私たちは、勝手に約束をやぶる人を信用できますか？

神様との約束はどうでしょう？10分の1献金とは何か、あなたは覚えていますか？10分の1は、だれのものですか？イエス

ぞん
存じでした。

きんようび 金曜日

ア ナニヤとサツピラの物語を話して
みましょう。聖書のこの部分を読
んでみるのもいいでしょう。使徒 4:32-37。

この大切なお話からあなたが学んだこと
は何ですか？今からする質問に、あなたは
どう答えますか？

神様は、一人ひとりの心の中を、すべ
てご存知ですか？約束を守るのは、とて

も大事なことですか？

約束をやぶるのは、

うそをつくようなもの

ですか？それはどうし

てですか？



もしあなたが、や
るべきでない約束をしてしまい、それを
守るために十戒をやぶる必要があると
したら、その約束を守るべきですか？
いいえ、そうするべきではありません。
そのよくない約束をしてしまったことに
ついて、相手に謝るべきです。

わたしたちを利己的〔わがまま〕な
人間にしようと誘惑するのは、だれで
すか？神様のお金を返さずにとっておくこ
とは、盗んでいるのと同じですか？

アナニヤとサツピラは、うそをつきまし
たか？ふたりのやったことは、利己的でし
たか？彼らは、ペテロをだまそうとしまし
たか？自分たちが善良な人間だと、人々
に思っほしかったのですか？彼らは自分

たちのしたことを、悪
かったと思いました
か？



アナニヤとサツピラ
を罰したのと同じよう
に、神様は、約束を

やぶる人たちをいつも罰せられますか？い



いえ。しかし、アナニヤ
とサツピラの悲しい物語

は、サタンにしたがうこ

とによってもたらされる恐ろしい結末を、

信者たちにわからせてくれました。イエス

様を愛し、信頼し、彼にしたがうことが、

幸福へのただひとつの道です。わたした

ちも、その教訓を学ぶ必要があるのでは

ないでしょうか？

わたしたちの助けとなる聖書と、真実の
物語を与えて下さったイエス様に、感謝し
ようではありませんか。

まな もっと学ぼう！

しとぎょうでん
★使徒行伝 4:34-5:11

かんなん えいこう しょう
★患難から栄光へ 7章



ベルボーイ

エルシー・ルイス・ローソン

これは、インドに住むある宣教師一家に与えられた、一羽の小さな九官鳥ラージャについての、本当のお話です。神様はラージャを用いて、たくさんの幸せを人々へ届けて下さいました。



子供たちが学校に行っている間、ラージャは彼らに会いたくて仕方ありません。彼は玄関の扉のそばに何時間もすわって、聞こえる足音すべてに耳をかたむけ、それが子供たちであるようにと願います。

お客さんが玄関をノックすると、いつものように「どなたですか? ご用件は?」と叫びます。そして、「お母さん、来て! お母さん、来て!」と家中を誇らしそうなようすで歩きまわります。

訪問者がセールスマンだろうと思ったら、「その人に帰るように言って」とラージャに頼みます。するとラージャは、すぐ玄関へもどって「お帰り下さい! お帰り下さい!」と叫びます。

友人たちがわが家をたずねてきたら、

ラージャに、「お客様にごあいさつしなさい」と言います。ラージャは彼らがすわっているところへ行って、愛らしい鳴き声を出しながら、羽をふわりとふくらませて、お客の足元で深々とおじぎをするのです。ラージャはいつも、これを3回くり返してから、ゆっくりと歩いて出て行きます。この美しいあいさつを見た訪問客は、必ずほめてくれました。

おしゃべりをする鳥のほとんどは、不機嫌でがんです。どうしても芸やおしゃべりをしてほしいと思うときにかぎって、彼らはそれを拒否します。オウムは、特にそうです。ラージャは、わたしたちがお



願うことは何でも、よろこんでやってくれました。そのこともまた、ラージャが愛される大きな理由のひとつ

でした。彼がわたしたちの期待にこたえなかったことなんて、ひとつも思い出せません。お客の訪問が昼であろうと夜であろうと、ラージャはいつでもこころよく、わが家にお客を迎えてくれました。

「ラージャ、こっちに来て、お客様に『サラム [こんにちは]』ってごあいさつして」とわたしたちが言えば、ラージャはしていることをすぐにやめ、お客の足元で深々と

おじぎをしました。神様のお造りになった
この小さい、むじゃきではほえましい生き
物が、これほど礼儀正しく優しいのを見て、
うれしい誇らしい気持ちになって、わたし
の目は何度も感動の涙であふれました。

ありがとう、愛するラージャ、本当にあ
りがとう。あなたがわたしたちに教えてく
れた、服従、助け合いの精神、そして
礼儀正しさについての教訓に、わたした
ちは感謝しています。

(つづく)

だいしょう
第8章
まよなか ほうもんしゃ
真夜中の訪問者



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく
暗唱聖句

「人間に従うよりは、神に従うべきである。」

使徒行伝 5:29

にちようび
日曜日

すばらしい、わくわくするようなことが、エルサレムで起こっています。聖霊が弟子たちに大いなる力を与え、弟子たちはおどろくような奇跡を行っています。祭司と民の指導者たちは、そのことが気に入りませんでした。弟子たちはひきつづき教え、説教をしていました。毎日、大勢の群衆が弟子たちの話を聞くために神殿へやって来て、イエス様を信じる人々は、ますます増えつづけていました。使徒 5:12-15。

その知らせは広まり、まもなくあちらこちらの町々や村々からも、助けを求め大勢の人々がエルサレムへとやってきました。

16 節。

祭司と民の指導者たち

は、もう気が狂いそうです。ますます多くの人たちがイエス様を信じるようになり、さらなる奇跡が行われていることは、彼らの目にも明らかでした。弟子たちは、奇跡を行えることを自慢していたと思いませんか？いいえ、とんでもないですね。聖霊をとおしてイエス様の力が働いていたので、すばらしい奇跡が起こっていたと、彼らはみんなに話していました。

祭司たちはいまだに、毎日神殿で小羊をささげていました。一方で、ますます多くの人たちが、イエス様が真の神の小羊であると信じるようになっていました。祭司たちがささげる小羊は、イエス様が死なれるまでは、ひじょうに重要な意味がありました。ささげられる小羊は、わたしたちの身代わりとなって死なれるイエス様のことを、すべての人に思い起こさせるものだったからです。しかしもう、小羊



Daniel Task © Building Block Productions. Used by permission

を殺す必要はなくなりました。なぜなら、イエス様がすでに来られて、すべての人のために死んで下さったからです。

けれども祭司と民の指導者たちは、イエス様を真の神の小羊、またメシヤとして受け入れませんでした。彼らは、これまでつづけてきた儀式を、人々につづけてほしかったのです。そして、自分たちの作り上げた規則に、人々がしたがうように望んでいました。

かんが **考えてみよう:** 祭司と民の指導者たちは、自分たちがサタンにしがっていると思っていたでしょうか? いいえ。では、自分たちは神様にしがっていると思っていたのでしょうか? そのとおりです。このような人たちについて、イエス様は弟子たちに警告なさいましたか? **ヨハネ 16:2** を読んでみましょう。

げつようび 月曜日

つぎ 次々に行われるすばらしい奇跡をとおして、イエス様はご自身の力をあらわしておられました。ペテロが人々の横を通りすぎると、彼の影にふれただけでいやされた人たちがいたなんて、想像できますか? **使徒行伝 5:14-15** をもういちど読んでください。

しかしペテロも、ほかの弟子たちのだ



れも、力は自分たちから出ていると言って自慢する人はいませんでした。彼らは皆、聖霊をとおして奇跡を行っておられるイエス様の力をみとめていたのです。

祭司と民の指導者たちは、怒り狂いました。彼らは、イエス様が神様の真の小羊として死なれた後によみがえり、今も生きておられることを、弟子たちが人々に話すのをやめさ

せることにしました。弟子たちがこのまま活動をつづけるならば、人々が祭司と民の指導者たちに敵対するようになるのではと恐れたのです。そこで彼らは、ペテロとヨハネを牢獄に入れたのでした。 **17,18 せつ節。**

ふたりの弟子が牢獄に入れられてしまったので、ほかの弟子たちは、もうイエス様のことを伝えるのをやめようと考えたでしょうか? いいえ。そんなことは思いもせませんでした。イエス様のための働きを、祭司や民の指導者たちがやめさせようとするのは、イエス様ご自身から知らされていきました。でも、彼らは恐れませんでした。イエス様が自分たちのために苦しみを受けられたので、彼らもイエス様のためによろこんで苦しみを受けようと思おうのでした。ところが、夜の間になにが起こりましたか? **19,20 せつ節。**

かんが **考えてみよう:** あなたがこのふたりの

弟子といっしょに牢獄にいたとしたら、
天使の言ったことについて、どう感じたい
しょう？

火曜日

テロとヨハネは、牢獄に入れられて
いました。ところが、ひとりの
天使が牢屋の扉を開けて、夜が明けたら
神殿にもどるようにと彼らに告げました。
ペテロとヨハネは、言われたとおりにしま
した。使徒 5:21。

ペテロとヨハネが牢屋から出されたこと
をまるで知らなかった祭司と民の指導者ら
は、次の朝、これからどうすべきかを決め
るために、議員たちを集めました。彼らは、
弟子たちが騒ぎを起こしていて、おまけに
アナニヤとサツピラを殺した、といった罪
を着せることにしました。

祭司と民の指導者たちは、群衆をあ
おって、「イエスを十字架につけよ」と叫
ばせることができました。こんどは、同じ
ような方法で弟子たちを追いこむことがで
きたら、と思っていました。
議員たちは役人に、弟子た
ちを牢獄からただちに連れ
てくるようにとお願いしまし
た。21 節後半。

役人たちは命令にしたが
おうとしましたが、ペテロと
ヨハネをつれ出そうとして、
見張りの者に扉をあけさせ
ると、ふたりの弟子の姿は
ありませんでした。



役人たちは急いで議会にもどり、何が
起きたかを興奮しながら報告したことで
しょう。22,23 節。

議員たちは顔を見合わせました。「いっ
たい何があったのだろうか？」とあつけにと
られていました。弟子たちはどうやって、
牢獄から出たのでしょうか？

考えてみよう：議員たちはなぜ、自分
たちの戦っている相手が、到底かなわな
いほど力のあるお方であることに気づかな
かったのでしょうか？今でもサタンは、多くの
人の考えを支配していますか？

水曜日

役人たちが牢獄からもどって、そこ
に弟子たちがいなかったことを話
すと、議員たちはどうしていいかわからず、
顔を見合わせていました。使徒 5:24。

とつぜん、だれかが議会の部屋に飛び
こんできました。彼は何と言いましたか？
25 節。

隊長と役人たちは、一刻
もはやく弟子たちをつれも
どすために、そこへ向いま
した。しかし彼らは、弟子
たちを丁重に「礼儀正し
く」あつかわなければなら
ないことを、よくわきまえて
いました。そうしなければ、
弟子たちの話を聞いていた
人たちが怒って、彼らに石
を投げつけたことでしょう。
それで役人たちは、ひじよ

うに礼儀正しく弟子たちと話し、弟子たちは役人たちにつれられて行きました。26節。

まもなくペテロとヨハネは、イエス様の話を人々に教えるのをやめるようにと命令した、あの大祭司と議員たちの前に立っていました。しかしペテロは、次のように言いました。「人間に従うよりは、神に従うべきである。」27-29節。

さらにペテロは、大祭司と議員たちに向かって、臆することなく、イエス様を殺したのは彼らだと言ったのです。その言葉が、どれだけ彼らを怒らせたか、想像できますか？ローマ政府の許可を得ていないにもかかわらず、大祭司と議員たちは議会を中断して、ペテロとヨハネを殺してしまおうという勢いでした。30-33節。

考えてみよう：弟子たちは、どんな気持ちだったと思いますか？怖かったですか？怖くなかったでしょうか？

もくようび 木曜日

はげしく怒った議員たちは、ペテロとヨハネを殺したくてたまりませんでした。忠実なふたりの弟子は、まもなく自分たちは、イエス様のために死ぬことになるかもしれないと思ったはずです。たとえそういうことになっても、死ぬ覚悟はできていました。

けれども議員の中にひとりだけ、大祭司や民の指導者



たちのたくらみが賢明ではないと考えている人がいました。彼の名は、ガマリエルと言います。ガマリエルが立ちあがると、そこにいたみんなが静かになって、彼の話に聞き入りました。

まずガマリエルは、しばらくの間、弟子たちをこの部屋から出すように求めました。ペテロとヨハネが部屋から出されると、ガマリエルは議員たちに向かって、この弟子たちをどうあつかうかについては、きわめて慎重に決める必要があることを訴えました。使徒5:34,35。

ガマリエルは議員たちに、ある者たちが民衆を煽動〔演説などをして、多くの人を自分の思うように動かすこと〕したのに、結局その指導者は殺され、彼にしたがっていた人たちも散り散りになってしまったことを話しました。そして、もしこれらの弟子たちが人間の計画にしたがっているのであれば、神様が彼らを祝福することはなく、人々もじきに関心を抱かなくなるだろう、と言いました。38節。

それからガマリエルは、とても重要なあることを言いました。議員たちは、彼言うことが正しいとわかっていました。39節を読んでみましょう。

議員たちの怒りはおさまりませんでした。自分たちが神様を敵にまわしているとは思えたくありませんでした。そこで、弟子たちを殺さないことにしたのでした。

考えてみよう：今でも、神様を敵にまわしている人は

たいせい
大勢いますか?どんなことを
したときに神様を敵にして
しまうのか、具体的な例を
あげられますか?まちがって
いると知っていながら、そ
れをすることを選んでしま
うとき、わたしたちは神様を
味方にしていきますか、それ
とも敵にしていますか?



きんようび
金曜日

ガマリエルは、弟子たちを殺さないことに
決めましたが、怒りはまだおさまりませ
ん。そこで議員たちは、部屋にもどってき
た弟子たちをむちで打つように命令しま
した。彼らはその後、弟子たちに、今後
いっさいイエス様の名を使って話さないよ
うに警告〔注意〕してから解放しました。
使徒 5:40。

むち打ちによる痛みはひどいものでした
が、弟子たちはよろこんでいました。また
イエス様もよろこんでおられました。なぜ
なら、このふたりの弟子が勇敢で、イエ
ス様のためには死ぬことさえ覚悟していた
からです。彼らは神様をほめたたえながら
その場を去り、イエス様の福音を伝えるこ
とをやめませんでした。41,42節。

イエス様は前もって、彼にしたがうこと
を選ぶ人たちは、苦しみにあうであろうと
言われました。それは、イエス様がふた
たび来られる時までつづくでしょう。第2
テモテ 3:12。

かんが
考えてみよう:あの日、
弟子たちの話を聞いたガ
マリエルは、彼らの話が
真実で、神様が彼らと共
におられることがわかりま
した。ガマリエルがあれ
ほど賢明に、また勇敢に
話していたとき、聖霊が
彼を助けていたと思いま
すか?聖霊は今でも、わた
したちがイエス様のため
に勇敢でいられるように、

助けて下さいますか?あなたの知っている
人の中には、イエス様に忠実であるため
に、苦しみにあっている人がいますか?正
しいことと知っていても、そのように行動す
るのは、いつでも簡単なわけではありませ
ん。しかし、わたしたちのそばにはいつも、
聖霊をとおしてイエス様がついて下さ
ることを、決して忘れてはいけません。

まな
もっと学ぼう!

しとぎょうでん
★使徒行伝 5:12-42

かんなん えいこう しょう
★患難から栄光へ 8章



ゆうかい 誘拐

エルシー・ライス・ローソン

これは、インドに住むある宣教師一家に与えられた、一羽の小さな九官鳥ラージャについての、本当のお話です。神様はラージャを用いて、たくさんの幸せを人々へ届けて下さいました。



ラージャには、ある悪い癖がありました。その癖を直すことができなかった彼は、そのせいで大

きな災難をまねいたことがありました。

ラージャは、家の門の前を通る人たちを嫌がりました。全世界が自分のものだと、かん違いしていたのです。機会があればいつだって門のところまでびよんびよん跳ねて行き、警備員のように立って、通りがかりの一人ひとりに怒鳴りつけるのです。ラージャにはいばったところがあり、そのせいで本当に痛い目にあうこととなります。

門の前に立って、まるで人間のように話しかけてくるこの小さな鳥を、人々はおどろいて見ていました。ラージャの芸やおしゃべりを見るために、大人も子供もたくさん集まってきました。

ある日のこと、子供たちがまだ学校へ行っている間に、ラージャは家を出て、

正門へ向かいました。それを、何人かの少年たちがこっそり見ていました。ラージャを自分たちのものにしたいという思いと好奇心から、少年たちはラージャを誘拐することに決めたのです。すばやく辺りをみまわして、だれにも見られていないことがわかると、ラージャにボロ布を投げつけてかぶせ、自分たちの村へつれていってしまいました。

この古くて臭いボロ布から出されたときには、町はずれにある、小屋の中に入りました。ラージャはカンカンに怒っていま

した。そこら中を飛び回って、自分を捕まえた連中の目をつつこうとしました。それがうまくいかないと、こんどは彼らを叱り始めました。大声で、しかも長々と文句を言いました。ラージャ自身は気づきませんでした。この攻撃と説教が、彼を助けることになりました。というのは、おしゃべり鳥がどこかの小屋にいることが、近所のほとんどの

人に知れわたったからです。

ラージャがいなくなったことに気づいたわたしたちは、すぐにそのことを町中の人たちに知らせ、見つけてくれた人には謝礼をすると申し出ました。お手伝いさんたちにもあちらこちらを探してもらいまし



たが、見^みつかりませんでした。

どうしても見^みつけることができなかつたので、警察^{けいさつ}に通報^{つうほう}しました。警察^{けいさつ}は町中^{まちじゅう}をさがし、おしゃべり鳥^{どり}の^みことを見たり聞いたりした人^{ひと}がいないか、たずねて歩^{ある}きました。するとある人^{ひと}が、町^{まち}はずれのあ^ある地区^{ちく}へ行くようにと、警察官^{けいさつかん}に教^{おし}えてくれたよう^{よう}です。

「だれか、おしゃべりをする鳥^{とり}を、見^みかけませんでしたか？」

「ああ、見^みたよ、見^みた。」彼^{かれ}らはいっせいに叫^{さけ}びました。

「男^{おとこ}の子^こたちが、その鳥^{とり}を小^こ屋^やに閉^とじこめて^めているよ。」

警察官^{けいさつかん}はその小^こ屋^やへと案内^{あんない}されました。彼^{かれ}は、ラージャが監禁^{かんきん}されている小^こ屋^やの扉^{とびら}を、しばらくたたきました。

「どなたですか？ご用件^{ようけん}は？」というラー^{こえ}ジャの^き声^{こえ}が聞^きこえました。

警察官^{けいさつかん}は、扉^{とびら}を押し^おて中^{なか}へ入^{はい}りました。彼^{かれ}についてきた人^{ひと}たちも、小^こ屋^やの中^{なか}へなだれこみます。ところが、小^こ屋^やにはだれもい^いませんでした。なん^{なん}という^{いう}こと^{こと}で^でしょう！小^こ屋^やの^{すみ}には、ラー^{かな}ジャがと^とても悲^{かな}しそ^そうに、さびしそ^そうにすわりこ^こんで^でいま^{いま}した。ま^まもなくラー^{うで}ジャは、警察官^{けいさつかん}の^{おお}大^{うで}きな腕^{うで}にだ^{たす}かれて、助^{たす}け出^だされ^だました。

そして数^{すう}分^{ぶん}の間^{あいだ}に、大^{だい}好^すきな仲^{なか}間^またち^{たち}の^いるわが家^{いえ}へ帰^{かえ}って^{あそ}き^{とも}ました。遊^{あそ}び友^{とも}だちとふたたび会^あえて、ラー^あジャはど^あんなにうれ^あしかったこと^{こと}で^でしょう！

この経^{けい}験^{けん}は、わたしたちの九^{きゅう}官^{くわん}鳥^{ちよう}に、よ^きい教^{きょう}訓^{くん}を^{あた}与^{あた}え^えました。ラー^あジャはも^あう、だ^あれに^あでも自^あ分^{ぶん}を見^あせ^あび^あら^あかさ^あないで、

少^{すこ}しはおと^あな^あしく^あして^あいる^あほう^あが^あよ^あい、と^あいう^あこと^あが^あ身^あにし^あみ^あて^あわ^あか^あつ^あた^あよう^あです。

(つづく)

だい しょう 第9章 にん とくべつ はたら びと 7人の特別な働き人



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

「しかし、すべてのことを適宜に、
かつ秩序を正して行うがよい。」
だい 第1コリント 14:40

にちようび 日曜日

サタンは、弟子たちがイエス様のことを人々に伝えるのをやめさせようと、あらゆる手をつくしていました。しかし聖霊は、さらに多くの人々がイエス様にしたがうようにと、助けておられました。

そこでサタンは、教会を成長させないために、別の方法を試すことにしました。その学びをする前に、あなたは次の質問に答えられるでしょうか？

あなたとあなたのご両親は、どこの国で生まれましたか？

知り合いの中に、外国からやって来て、



あなたが今住んでいる国で生活している人がいますか？その人たちがどの国から来たか、わかりますか？

あなたの通う教会には、外国の人がいますか？

あなたの通っている学校には、外国から来た子供たちがいますか？その子供たちは、どこの国から来ましたか？

こういった人たちについて考えてみましょう。彼らの話しかたは、あなたの話しかたとはちがいますか？彼らの好きな食べ物、あなたの好きな食べ物とはちがいますか？

身近な人の中に、外国人よりも自分たちのほうがすぐれていると思っている人はいませんか？そのように思っている人たちは、本当に外国から来た人たちよりもすぐれていますか？イエス様は、わたしたちがそのような考えかたをするのを望んでおられますか？いいえ。

イエス様は、この世界の創造主です。あなたも、世界中の国々の人たちも、イエス様によって造られたのです。

この地上におられたとき、イエス様はすべての人を同じように愛されました。そして、どの国から来た人も、同じようにあつかわれました。彼は、わたしたちもそうするように望んでおられますか？使徒



子供] もいました。

これらの人たちは、イエス様を愛していました。そしてイエス様の愛が彼らの心にとどまっていたので、彼らは皆、互いに愛し合っていました。その中のだれひとりとし

17:26。

考えてみよう: イエス様は、すべての人のために死んで下さいました。彼は、ご自分が人々を愛されたのと同じように、私たちが他の人々を愛することを望んでおられますか？わたしたちがそうすることを、サタンは望んでいるのでしょうか？彼は2000年前、エルサレムの教会の人たちが互いに愛し合うことを望んでいましたか？いいえ。サタンは、教会がどうなることを望んでいたと思いますか？

げつようび 月曜日

工エルサレムの教会は、成長しつづけていました。様々な人たちがイエス様にしがうことを選び、その中の多くは外国人でした。使徒 2:5。

聖霊は弟子たちに、あらゆる国の言葉を話す能力をお与えになりました。ペテロがイエス様について説教すると、一日に何千人もイエス様を信じたことがありました。41 節。

その中には、多くの国々からやってきた、実にさまざまな人たちがいました。老人、若者、裕福な人、貧しい人、未亡人〔夫を亡くした夫人〕や孤児〔両親のいない

て、自分がほかの人よりもまざっているとか、えらいなどは思いませんでした。彼らは持ち物のすべてを分け合って、すべてのことにおいて、できるかぎり助け合っていました。44-46 節。

当然、サタンは怒りました！愛は憎しみよりも強いので、人々がイエス様を愛して、その愛を互いに分かち合っているかぎり、教会が成長しつづけることをサタンは知っていました。彼は、教会内の平和とよろこびを奪いたかったのです。明日のお勉強では、サタンがどのようにして教会を破壊しようとしたかを学びます。

考えてみよう: サタンはどうやって、教会内の平和をうばうことができたと思いますか？

かようび 火曜日

信者たちは、エルサレムにおいて成長するこの教会で、よろこびにあふれつつ、忙しく活動していました。しかし、サタンはおもしろくありません。人々がイエス様の愛を心にもっているかぎり、教会は成長しつづけるのを知っていました。サタンは、教会がさらに成長しつづけることを望んでいましたか？いいえ。

エルサレムの教会には、ギリシャ語が話されている地域で育ったユダヤ人たちもいました。彼らはギリシャ語を話し、生まれ育った国にいる人たちのような生活習慣をもっていました。

始めのうち、これらのギリシャ語を話すユダヤ人とヘブル語を話すユダヤ人は、エルサレムの教会でいっしょにすることをよろこんでいました。みんながイエス様を愛し、イエス様の愛が彼らの心をもたしていました。ただ、イエス様を信じるようになる前は、どちらの側のユダヤ人も、もう一方のユダヤ人のことを信用していませんでした。そして今、サタンは、彼らが以前のようにお互いを信用しなくなるように誘惑したのです。

ギリシャ語を話すユダヤ人たちは、自分たちよりもヘブル語を話すユダヤ人たちのほうが大切にあつかわれているのではないかと思います。そして彼らは、ギリシャ語を話す未亡人たちが教会から受ける援助が、ヘブル語を話す未亡人たちよりも少ないと、苦情を言い始めたのです。使徒 6:1。

この苦情を聞いた弟子たちは、どんな気持ちだったと思いますか？

考えてみよう！「疑い」という言葉の意味を知っていますか？ある事柄について、それが真実かどうかはつきりは分からないけれども、真実かもしれない、というふうに



かんが 考えるならば、じつは疑っ ているということです。それは、ひとびと たが あい は、人々を互いに愛することも信頼することもできなく させる、サタンの手段のひ とつです。

すいようび 水曜日

工エルサレムの教会に 加わったギリシャ語を話すユダヤ人たちは、以前のように、ヘブル語を話すユダヤ人たちを疑っていました。彼らは、ヘブル語を話すユダヤ人の未亡人たちのほうが、自分たちの仲間の未亡人たちよりも、よいあつかいを受けているのではないかと思います。このことは12弟子を悲しませました。サタンが、よろこびと平和にみちたエルサレムの教会を、だめにしようとしていました。このサタンの働きをとめるために、ただちに手を打たなくてはならないことが、弟子たちには分かりました。

12弟子は、やるべきことを示してくれるよう、聖霊に願いました。それまで彼らは、自分たちで何とかしようとしてきましたが、うまくいきませんでした。最も大切な働きは「説教」と「人々を教えること」のはずでしたが、



まず ひと た もの き い
貧しい人たちに食べ物と着るものが行き
わたっているかどうかを確かめるのに忙し
すぎました。

12 使徒が祈っていると、彼らがどうす
るべきかを聖霊が示して下さいました。
食べ物と着るものを配る役割の人たちを
選ぶ必要がありました。そうすれば使徒
は、祈り、研究し、説教し、教えるために、
より多くの時間をもつことができます。そ
こで、彼らは信者たちを呼び集めて、何
をするべきかを話しました。使徒 6:2-4。

信者たちは、この考えをどう思ったでしょ
う? 何人の男が選び出されましたか? 5
節。

選び出された男たちは「執事」と呼ば
れました。執事は、いろいろな任務を受
けもって、みんなの必要が確実にみたさ
れているようにするのです。

考えてみよう: 公平であることは大切で
すか? わたしたちは、ある人をほかの人よ
りも優先的にあつかってしまうことはない
でしょうか? イエス様はいつも、人々をど
のようにあつかっておられましたか?

もくようび 木曜日

聖霊が 12 使徒を助けて、よい計画
を立てられるようにして下さいました
ので、エルサレムの教会にいる貧しい人
たちは皆、必要なものを受けとることがで
きるようになりました。この計画は、使徒
たちにとっても、どのような助けになりました
か?

7 人の執事が選ばれたあと、使徒たち
は献身式を行いました。おそらく、7 人
の執事たちはひざまずいて、使徒たちが
彼らの上に手を置いたのでしょうか。これら
の執事たちが神様のためのよい働き人と
なれるように、また神様が祝福し助けて
下さるように祈りました。使徒 6:6。

そして、神様は彼らを祝福してください
ました。聖霊は、これまで以上に力強く
働いていました。多くの祭司たちまでもが、
イエス様にしたがうことを選んだのです!
7 節。

サタンは、人々に疑いの思いをいだか
せることによって、よろこびと活気にあふ
れているエルサレムの教会をだめにしよう
と考えていました。しかしそれどころか、
これまでになかったほどさらに多くの人た
ちが、イエス様の弟子になっていました。

執事にとって、3 つの資質〔性質や
才能〕が大切であることに、あなたは気
づきましたか? 3 節をもういちど読んで、
その 3 つが何だったかを話してみましょ
う。

評判がよい、とはどういう意味でしょう?
評判のよい人は、誠実で親切で、頼りに
なる人でしょうか? ほかに何か、思いつ
く資質はありますか?

聖霊にみたされることによって、人間は
イエス様に似る者となるのではありません
か? また、知恵をもっていることも大切で
す。聖霊がわたしたちに下さる知恵とは、
どのようなものですか? ヤコブ 3:17。

考えてみよう: 聖霊は、あなたがよい
評判を得るのを助けることができますか?

イエス様に似る者となるための手助けをすることができますか？イエス様の持つておられたような知恵を、身につけさせることができますか？



とても重要な役割をになっています。執事とは、教会内ですべてのことがスムーズになされるように、お手伝いをする人たちのことです。彼らの働きも、イエス様のご計画にふくまれているのです。

中には、年少の執事をたてている教会もあります。彼らは、りっぱなおとなの執事になるための

訓練を受けているのです。あなたもいつか、少年少女の執事に選ばれるかもしれませんね。

考えてみよう：疑いの気持ちをいだかせ、騒ぎを引き起こすことによって、サタンは教会をつぶそうとしました。イエス様に似る者となることについて学んでいる私たちは、ほかの人たちに疑いの思いをいだくべきでしょうか？イエス様は聖霊をとおして、ご自分の教会をさらに強める計画をお立てになりました。そのおかげで、教会は急速に成長することになったのです。

きんようび
金曜日

今日は、エルサレムの教会を成長

させないために、サタンがやろうとしたことについて学びましょう。不服〔不満〕に思っていたのは、どの人たちでしたか？彼らはなぜ、不服だったのですか？

サタンの計画がうまくいかなかったのは、なぜですか？聖霊の助けによって12使徒が立てた計画とは、どのようなものでしたか？

わたしたちの教会にも、執事がいますね。そう、男執事と女執事がいますね。あなたの教会の男執事長はだれですか？女執事長はだれですか？彼らは、どのような働きをしていますか？もし知らないのであれば、彼らにたずねてみませんか？



教会の男執事と女執事は、

もっとまな
学ぼう！

★使徒行伝 6:1-7

★患難から栄光へ 9章



はなし 3つのお話

エルシー・ルイス・ローソン

これは、インドに住むある宣教師一家に与えられた、一羽の小さな九官鳥ラージャについての、本当のお話です。神様はラージャを用いて、たくさんの幸せを人々へ届けて下さいました。



インドでは、1年のあいだに降る雨のほとんどが、ある時期に集中しています。2、3か月のあいだは、毎日雨が降ります。この季節は、モンスーンと呼ばれています。

モンスーンのあいだは、ニシキヘビをはじめとするへびや、は虫類のすべてが、隠れていたところから出て、避難場所を求めて、人家の屋根裏やベランダの隅などにやってくるのです。

ある日、事務所へもどる前に少し休んでいると、寝室の外のベランダからひどく大騒ぎする音が聞こえて、わたしは目を覚ましました。野生動物にラージャが捕まったのではないかと心配になり、とび起きて窓のところへ走って行きました。なんとベランダでは、1匹のニシキヘビが、シューシューと音をたてながらラージャを攻撃していました。勇敢な鳥は、一歩もしりぞくことなくニシキヘビに向かって飛んで行き、鳥語で叫んだり、説教したり、

助けを求めたりしていました。ニシキヘビは逃げようとしたのですが、ラージャが行く手をさえぎっていました。

わたしが叫んで助けを呼ぶと、宣教師や召使いたちがあちらこちらからやってきました。結局ニシキヘビは殺されたので、わたしは安心して、ラージャは満足そうでした。このニシキヘビをベランダで伸ばしてみると、2メートルもありました。ラージャがわたしたちの命を救ったのです。とても勇敢だったので、わたしたちはラージャをなでて、いつもよりもたくさん、おいしいものを食べさせました。

ラージャは日中、自分の鳥かごに何の関心も示しませんでした。夕方になるときまって居心地のよい巣にもどってきました。明るい光が入らないように、1枚の布を鳥かごにかぶせます。するとそのあとは、朝までラージャの鳥かごから物音ひとつ聞こえません。猫や、えさを求めてやってくるほかの動物たちからラージャを守るために、鳥かごの中に1つの掛け金をとりつけました。わたしたちは毎晩、この掛け金をしめました。ラージャも、鳥かごに鍵がかけられていることはわかっています。奇妙にも思えるのですが、ラージャは朝が来るまで、その鍵をはずそうとしたこ

とはいちどもありませんでした。

ところが、毎朝早く、太陽が窓に姿をあらわし始めるころになると、ラージャはその掛け金を持ち上げて、子供たちの寝室へまっすぐ飛んで行きます。笑ったり、舌を鳴らしたり、おしゃべりをしながら、アーキー・クレイグのベッドに来て「アーキー！アーキー！」と呼びます。それからくちばしで、おはようのキスをするかのように、アーキーのほっぺを優しくさわるのです。

アーキーはできるだけ長くベッドにとどまろうとしますが、ラージャはおかまいなしに、こんどはベティのベッドへ行き、同じように彼女を起こします。

子供たちがふたりとも目を覚ましたことがわかると、ラージャはベッドの下において、心に響くような最高のメロディーを口笛で吹くのです。最高の1日の始めかただとは思いませんか？

インドの子供たちは、『コーエ』と呼ばれるゲームをして遊びます。このゲームでは、「おに」をひとり選んで、地面に描いた円の真ん中に立たせ、10まで数えてもらいます。数えている間に、ほかの子供たちは逃げて隠れます。隠れている子供たちが、「コーエ」と言うと、「おに」役の子が隠れた子供たちをさがし始めます。ひとり見つかると、「おに」役の子と見つかった子はふたりで円のところへ走って行きます。「おに」役の子は、全員が円の

中にそろうまで、さがしつづけます。

これは、子供たちのお気に入りのゲームです。ですから、ラージャもすぐ彼らにまじって、その遊びをするようになりました。

しばらくすると、ラージャは「おに」の役もこなせるようになりました。数えかたなどまるで知らないのですが、円の中で警備員のように立って、子供たちが「コーエ」というまで待ちます。子供たちの声

が聞こえるとすぐに、声のした方向へ急ぎます。隠れている子供のひとりを見つけると、ラージャはうれしそうに「コーエ！コーエ！」と言って、円へまっすぐ飛んで行きます。円にたどりつくとき、ラージャは子供たちといっしょに笑います。わたしはいちど、ラージャが笑いすぎて地面に落ち

そうになったのを見たことがあります。男の子、女の子がこんなに楽しそうに、よいスポーツマン精神をもっていっしょに遊べるなんて、素晴らしいですね！1羽の小さい鳥でさえ、ゲームの中で協力の精神とよいスポーツマン精神を示すことができるのですから、人間の男の子と女の子は、もっと協力して生活したり、楽しく遊んだりできるはずですよ！

(つづく)



Line Art From Rajaji, Lester Guado

だい しょう 第 10 章 ちゅうじつ しつじ 忠実な執事



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

「死に至るまで忠実であれ。
そうすれば、いのちの冠を与えよう。」
ヨハネの黙示録 2:10

にちようび
日曜日

サタンは、エルサレムの教会をつぶしたくてしかたがありませんでした。信者たちが互いに疑い合うように誘惑しましたが、教会は、ますます成長するばかりです。これまでよりもさらに多くの人々が、イエス様の信者になっています。

7人の執事たちは、12使徒を助ける働きをしていました。彼らのおかげで、使徒たちはどれだけ助かったことでしょう！ヘブル語を話すユダヤ人たちに疑いをいだき始めていた、あのギリシャ語を話すユダヤ人たちからは、疑いの思いがすっかり消えていました。みんなが、公平にあつかわれていました。

執事に選ばれた人たちは、まさに、そ



の働きにふさわしい人物でした。全員が、イエス様を心から愛する善良な人たちでした。聖霊は彼らに、伝道して教える力ばかりでなく、すばらしい奇跡を行う力もお与えになりました。執事たちには、問題を解決する方法も示されました。使徒 6:3。

そういうわけで、サタンの計画はまたも失敗しました。ですから今、これまで以上にはげしく怒っています。彼は執事全員を嫌っていましたが、特にその中のひとりをととても憎んでいました。その人の名前はステパノといって、執事の中でも最もすぐれた人物でした。8節。

イエス様のことを話すのをやめさせるために、祭司や民の指導者たちが手段を選ばないことを、ステパノは知っていました。しかし、イエス様が聖霊をおして彼とともにいて下さることも知っていました。ですから何も恐れはしていませんでした。ルカ

21:15 に書かれているイエス様の約束に、信頼していたからです。

かんが 考えてみよう: イエス様は今でも、ご自分のために働くことを恐れない人々を必要としておられます。あなたもそのような人物のひとりになりたいですか？



のたびに、ステパノは、彼らのまちがいを証明したのです。それは、ステパノがこれらの教師たちに対して勇敢で、正しい言葉を語ることができるように、聖霊が力を与えて下さっていたからです。使徒 6:10。

けれども、祭司と民の指導者たちはあきらめませ

んでした。自分たちがまちがっていることを認めるところか、これまでよりもさらにはげしく怒っていました。彼らは、ステパノを殺す方法を考えることにしました。そこで悪い男たちを金でやとい、ステパノについてうそを言わせることにしました。それはまさに、イエス様を十字架につけたときと同じやり方でした。

かんが 考えてみよう: ステパノを勇敢にして下さったように、イエス様は、わたしたちが彼のために勇敢になれるように助けることがおできになりますか？

げつようび 月曜日

ステパノは、エルサレムにある教会の、執事のひとりでした。彼はギリシャ語を話し、理解していたので、ギリシャ人たちにイエス様のことを教えることができました。

ステパノは、ギリシャ人たちが礼拝をするユダヤの会堂へ行き、旧約聖書を用いて、イエス様が神のみ子、偉大なるメシヤであることを彼らに示しました。彼は、預言されていたイエス様の死が、そのとおりになったことを証明しました。ステパノはおそらく、イエス様がよみがえって、天にお帰りになったことを彼らに話したでしょう。それから、イエス様がいつの日かふたたびもどってこれられ、彼を信じる人々を迎え入れ、彼らのために用意されている天の住まいへつれていってくださることも話したかもしれません。

ステパノが説教していることを耳にした祭司と民の指導者たちは、彼らの中でも最も知恵のある教師をステパノのところへつかわして、議論をさせました。ところがそ

かようび 火曜日

祭司と民の指導者たちは、ステパノに伝道をやめさせる方法をさがしていました。そこで彼らは、ある者たちにお金を払って、ステパノが神殿を呪い、神様の律法にしたがわないように教えたいと言わせることにしました。

もちろん全くのうそでしたが、やとわれた連中は、あたかもそれが真実であるかのように話したのです。そのために、ス

テパノは無罪であったにもかかわらず、とらえられ、議会につれていかれてしまいました。使徒 6:12。

ステパノを見た偉い人たちの多くは、ふるえ始めました。中には、手で顔をおおっている者もいました。怖くなってしまったのです。なぜでしょう？それは、ステパノの顔がかがやいて見えたからです。15 節。

彼を見た議員たちも、ほかのすべての人たちも、神様がステパノとともにおられることを知るべきでした。しかし彼らの心は、あまりにも高慢〔思いあがって人を見下すこと〕でがんこだったため、心を入れかえることができませんでした。大祭司はステパノに、何とたずねましたか？使徒 7:1。

質問に答えたステパノの声には、これっぽっちの恐れもありませんでした。彼は、アブラハムへの神様の約束と、神様がどのようにしてイスラエルを大いなる国民とらせて下さったかについて話しました。それは、だれもが知っていて親しんでいる物語でした。みんなが、熱心に耳をかたむけていました。しかしとつぜん、すべてが変わってしまいました。いったい、何が起きたのでしょうか？それを明日、お勉強しましょう。

かんが 考えてみよう：ステパノが恐れていなかったのはなぜですか？

すいようび 水曜日

ス テパノは議会の前に立ち、みんなから親しまれている物語を話していました。ところが急に、聞いていた人たちが怒りだしたのです。彼らはステパノに向かって叫び、どなり始めました。そしてステパノをつかみ、議会から引きずり出したのです。ステパノは、彼らが自分を殺すつもりであることを知っていました。とつぜんみんなをこんなに怒らせたステパノの言葉とは、いったい何だったのでしょうか？

ステパノは、人々が誇りにしている神殿に、もう神様は住んでおられないと言ったのでした。また、イエス様の来られることが、預言者たちによってすでに告げられていたことも話しました。

大祭司は、恐怖におののいたふりをしてとび上がり、着ていた美しい衣をやぶりました。それでも、ステパノは恐れませんでした。彼はそこにいた人々に向かって、彼らは聖霊を敵にまわして戦っているのだと言いました。彼らの先祖たちも、神様からつかわされた預言者たちの警告を聞くことを、つねに拒んでいたことを思い起こさせました。彼らは預言者たちの多くを殺してきたのです。そして何よりも悪いことに、神のみ子であるイエス様を殺してしまったのでした。使徒 7:51,52。

議員たちは、自分たちがこれまでしてきた数々の恐ろしいことを悔やむどころか、ますます怒り狂いました。まるで、今にも

ステパノにおそいかかって八つ裂きにしようとする、野獣のようでした。しかしそれでも、ステパノはまったく恐れませんでした。

54節。

かんが **考えてみよう**：議員たちは、ステパノの言うことが真実であることを認めていたと思えますか？いいえ。先生や両親が、あなたの言ったまちがったことや、あなたがしてしまったまちがったことを認めさせようとしたときに、腹を立てたりしたことはありませんか？イエス様は、わたしたちのまちがった感情も変えられるように、助けることがおできになりますか？

もくようび 木曜日

い **怒**り狂った議員たちは、今にもステパノを殺そうという勢いです。ところがそれでも、ステパノは恐れませんでした。彼は、イエス様が共にいて下さるという約束を、知っていたのです。

とつぜん、ステパノは上を見あげて何かを指さしました。彼が何かを見つめていたことは、まわりの人たちにも分かりました。いったい、何を見つめていたのでしょうか？使徒 7:54-56。

まわりにいた人々には、ステパノが見ているものが見えませんでした。彼の言っていることは聞かれました。それは、彼らが聞きたくなかった言葉でした。人々は野獣のようにス



テパノにおそいかかり、彼を部屋から引きずり出して、町の外までつれて行きました。彼らは着ていた上着をすばやく脱いで、ひとりの若者にそれを見張っておくように言いつけました。57,58節。

ステパノは、次に何が起こるのか知っていました。けれども、彼は恐れませんでした。天におられるイエス様を見たからです。地面にひざまずき、自分が死ぬとわかったときでさえ、イエス様に完全に信頼していました。心は、人々への愛でみちっていました。ステパノは、自分を殺そうとして石を投げつける人たちのためにも、祈りをささげていたのです。59,60節。

イエス様の信者たちが、どれほど悲しんだか想像できますか？勇敢で優秀な執事が死んだのです。そして今や、イエス様を信じる人、特にイエス様のことを伝える人は、だれであっても殺されるかもしれないことが分かりました。

葬式では、みんなが泣いたことでしょう。ステパノはみんなから好かれ、慕われていましたから。彼らが泣いていた理由は、ほかにもありました。だれひとりとして、安全な者はいなくなったことが分かったからでした。使徒 8:2。

かんが **考えてみよう**：もしあなたがステパノの葬式にいたら、悲しんだと思えますか？また、恐ろしくなったりと思えますか？イエス様への忠誠を捨てるようにと、誘惑されたことはありますか？

か?誘惑されたら、あなたはどんな決心を
しますか?

きんようび 金曜日

サタンがついに、人々をイエス様に
したがわず、エルサレムにある
教会の成長を止める方法をさがし出した
かのように思われました。

サタンはおそらく、ステパノ
が殺されるのを見た人たちが、
イエス様を受け入れる
のをこわがるようになるだろ
うと考えたのでしょう。

ステパノが石で打ち殺
されるのを見ていたひとり
は、成長するエルサレム
の教会をつぶそうとする、
祭司や民の指導者たちを
助ける決心をしました。彼
は若くて勇敢で、怖いもの
知らずでした。人間が作り上げた律法を
学び、それらに注意ぶかくしたがう努力
をしていました。また自分だけでなく、み
んながしたがうべきだと思い、人々を
強制的にそれらの律法にしたがわせたり、
イエス様に従うのをやめさせたりすること
に熱心でした。彼は、まさか自分がサ
タンの手先になっているとは、夢にも
思いませんでした。自分は神様を助け
ているのだと、本気で思っていたので
す。彼のように強力な働き人を得たサ
タンがどれだけよろこんでいたか、あ
なたは想像できますか?



サタンは、自分の手先となったこの
強力な働き人の心を変えることは、だれ
にもできるはずがないと考えていたにちが
いありません。

このサタンの働き人がだれだか、わか
りますか?それは、ステパノを石で打ち
殺した人たちが脱いだ上着を見張ってい
た、あの青年です。彼の名前は何かですか?

使徒 7:58。

サウロは、イエス様のこ
とを聞いたことがありませ
んでした。ただ、祭司や民
の指導者たちから、イエス
様についてのうその話を聞
いたことはありました。ま
た、指導者を信頼するよう
に教育されていたので、サ
ウロは彼らの言うことを信
じてしまったのでした。今
やサウロは、イエス様を信
じる者たちをひとり残らずと

らえようと意気こんでいました。

かんが
考えてみよう: サウロが人々を力づくで
人間の作り上げた律法に従わせようとした
ように、だれかがあなたを、教会の作り
上げた律法に無理やりしたがわせようとし
たら、あなたはどうしますか?

まな もっと学ぼう!

しとぎょうでん
★使徒行伝 6:8-8:2

かんなん えいこう しょう
★患難から栄光へ 10章



りょこう ラージャの旅行その1

エルシー・ルイス・ローソン

これは、インドに住むある宣教師一家
に与えられた、一羽の小さな九官鳥ラー
ジャについての、本当のお話です。神様
はラージャを用いて、たくさんの幸せを
人々へ届けて下さいました。



ラージャがわたしたち
と暮らしたこと、ま
た何百何千万人もインド
の人々に福音の物語を伝え

るために、ラージャといっしょに小さな村々
をめぐる旅ができたことは、わたしたちに
とってよこばしい特権でした。

中でも決して忘れられない経験が、
旅行のあいだに起こりました。ある美しい
朝のことでした。まわりの
すばらしい自然が、神様を
思い起こさせました。古い
でこぼこ道を走る車がはね
上がるたびに、子供たちと
ラージャの楽しそうな笑い声が後部座席
から聞こえてきます。

目的地まであと半分のところに差しか
かったころ、給油をするために、道沿い
の小さなガソリンスタンドに立ち寄りまし
た。車を止めるやいなや、あっという間に
現地の人たちにとり囲まれてしまいました。
人々は、車の中にいる目の青い、



金髪の子供たちをめずらしそうに眺めてい
ます。

白人の顔を見たのが初めてだったのか、
ひとりの赤ちゃんがものすごい叫び声をあ
げました。でこぼこ道の旅で気分があまり
すぐれなかったラージャが、急に生き生
きとしてきました。浅黒い肌の人たち、笑
い声をあげる少年少女たち、泣いている
赤ちゃん。そう、彼らはラージャにとって、
かつて住んでいた病院で見慣れた仲間た
ちではありませんか。なつかしい人たちに
会えて、ラージャはとてもうれしそうでした!
さあ、芸を見てもらうチャンスです。赤ちゃん
の泣き声に反応して、ラージャも大声で
叫びました。

まわりの人たちは、わた
したちが車のトランクに赤
ちゃんを隠していると思っ
て、その赤ちゃんを見よう
と押し合いながら近づいて
きました。でも聞こえるのは、ふざけた笑
い声だけです。鳥かごに入ったごくふつう
の九官鳥を見たときの、彼らのおどろきよ
うは、今でも忘れられません!しかし、そ
れから15分もの間、この一見ふつうの鳥
が、彼らを大いに楽しませたのです。ラー
ジャは最高の芸と、次々と思いつく面白い
ことを話して、人々を笑わせつづけました。

ラージャが人々をもてなしている間に、
車のうしろではある事が起きていました。
泥棒が車の下にもぐりこみ、荷台にしっかりとくくりつけてあった寝袋を盗んでいたのです。

寝袋がひとつなくなっていることに子供たちが気づいたときには、目的地まであと5キロほどのところにきていました。すぐに車をわきに寄せて、確かめるために車をおりました。たしかに、寝袋がひとつなくなっていました。もうひとつの寝袋は、ロープが糸のような状態になってぶらさがっていました。ロープは、わざと切られていました。立ち寄ったあのガソリンスタンドで盗まれたにちがいありません。わたしたちはただちに、来た道を急いで引き返しました。

(つづく)

だい しょう 第 11 章

でんどうしゃ 伝道者ピリポ



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

「ただ、^{せいれい}聖霊があなたがたに^{くだ}下る時、あなたがたは^{ちから}力を
受けて…^ち地のはてまで、わたしの^{しょうにん}証人となるであろう。」
使徒 1:8

にちようび 日曜日

イエスは使徒たちに、まずエルサレムで教え、説教をしてから、ほかのところへ行くようにとお命じになりました。そして聖霊は、イエスが約束なさったとおり、彼らとともにいて下さいました。聖霊の力が使徒たちの働きを大いに助けたので、まもなくエルサレムでは、大勢の人々がイエスを信じるようになりました。

サタンは、そのことに腹を立てていました。民の指導者たちも、弟子たちや執事たちが説教をしたり教えたりするのを止めようとしたのですが、できませんでした。

エルサレムでの働きがあまりにもうまくいったので、使徒たちや執事たちは、



ずっとそこにとどまらなかったかもしれません。イエスは彼らに、聖霊を受けるまではエルサレムにとどまっているようにとおっしゃいました（ルカ 24:49）。しかし、聖霊はすでに下っていて、民の指導者たちがイエスの福音を最終的に拒むまでは、ヘブル人だけに伝えることになっていました（マタイ 10:5-7）。ところがそれさえも、すでに起こっていました。民の指導者たちが、自分たちの耳をふさいでステパノの話^{はなし}を聞こうとせず、石^{いし}を投げ^なげて彼^{かれ}を殺^{ころ}したときに、それは起こったのでした。

ですから、イエスの福音をほかの場所へ行って伝えるべき時が、すでに来ていました。しかもこれからは、使徒たちだけが福音を伝えるのではありません。イエスは、ご自分を信じるすべての者が、伝道者となることを望んでおられました。ほかのさまざまな場所で福音を伝える

ことができるようになるため、エルサレムの教会から彼らを散り散りにする、どんな出来事がありましたか？使徒 8:1。

考えてみよう：教会の一人ひとりの信者が、隣人や友人や町にいるほかの人々に福音を伝えるお手伝いをするのを、イエス様は今でも望んでおられますか？はい。イエス様は私たちが、外国にいる人たちにもイエス様のことを伝えるのを望んでおられますか？もちろんです。あなたの教会は、その活動をしていますか？あなたは、どのように伝道のお手伝いをしていますか？

げつようび 月曜日

ステパノが殺される前に、イエス様は民の指導者たちに、心を入れかえてイエス様を信じる最後のチャンスをお与えになりました。彼は、ご自分が神のみ子であり、ユダヤの国とその国民が長いあいだ待ち望んでいたメシヤであることを、彼らに信じてほしかったのでした。ところが彼らは、イエス様を殺し、最終的にステパノを殺したことで、イエス様の福音を拒んだのです。

イエス様はユダヤ国民に、彼を選ぶ機会をなんどもお与えになりました。イエス様は、彼らが伝道する国民となり、世界中に福音を伝えることを望んでおられたのです。しかしそれどころか、彼らはイエス様を拒んでしまいました。何と悲しいことでしょう！

ステパノの死後、エルサレムの教会の

人たちは、とてもひどい仕打ちを受けました。民の指導者たちは、イエス様の信者をひとり残らずなき者にしたかったので

す。サタンは、ステパノが殺されるのを見ていたサウロという名の強力な人物を、味方につけていました。サウロは、残っているイエス様の信者を、ことごとくやっつけてやろうと決心したのでした。彼は何をしましたか？使徒 8:1,3。

考えてみよう：信者たちは散らされて、それぞれ、より安全な別の地域へ移って行きました。彼らはその行った先々で、何をしましたか？もしあなたが、信者のひとりだったとしたら、何をしていたか？

かようび 火曜日

エルサレムにある教会の信者の多くは、急いで、より安全な別の場所へと移動しなくてはなりません。彼らは、イエス様についてこれ以上語ることを恐れていたか？使徒 8:4。

人々がイエス様について学ぶのをやめさせることが、サタンの計画でした。それはうまくいっていませんか？いいえ。それどころか、イエス様の物語は多くの地域にまで広まっていた。それは、種をひとつの場所だけでなく、いろんな場所に植えるようなものでした。

エルサレムの教会を離れた執事のひとりに、ピリポがいました。彼は、力強い

説教者でもありました。彼は、どこへ行きましたか？
5節。

聖霊がピリポと共におられたので、サマリアでは、あるすばらしいことが起きました。それは何でしたか？
6-8節。

サマリアに、ピリポのようすをうかがっている、シモンという人物がいました。サマリアのだれもが、子供も大人も、シモンが行う不思議なわざのことを知っていました。彼らは、神様がシモンを助けておられるのだと思い込んでいました。シモンの不思議なわざを助けているのが、実はサタンだということを知らなかったのです。9-11節。

ピリポが聖霊の力をおして行う数々のすばらしい奇跡を見て、シモンもイエスを信じ、バプテスマを受けました。13節。

ピリポを手伝うためにペテロとヨハネがやって来たときも、シモンは彼らに注意して見ていました。このシモンという男、本当は神様が彼らにお与えになった力を、自分も欲しかったのです！そこで彼は、何をしましたか？ 18,19節。

ペテロは、あきれはててしまいました。聖霊の力を、お金で買おうとする人がいるなんて！ペテロとヨハネとピリポはただちに、シモンがただ、おどろくような奇跡を行えるようになりたかったのだと見ぬきました。ペテロはシモンに、どのように答



えましたか？ 20-22節。

考えてみよう：もしだれか

が、世界中にあるだけのお金を払うことができたなら、神様の祝福をお金で買うことができますか？いいえ、当然できるはずがありません。わたしたちがイエスを信じる時、イエスはわたしたちに何をささげるように求められますか？

すいようび 水曜日

ピリポがまだサマリアにいたある日のこと。神様はひとりの天使をつかわして、特別なメッセージを彼に告げられました。使徒 8:26。

ピリポは、なぜひとりでこれほど長い砂漠の道を歩かなくてはならないのかを、神様にたずねませんでした。むしろイエス様に信頼していたので、すぐにしがいました。ピリポは、イエス様から頼まれたことならば、どんなことでも喜んでやりたいと思っていました。天使がピリポに進むように指示したのは、ほこりまみれの砂漠へとつづく、長い道でした。

ピリポが、ガザに向かってそのほこりだらけの道を歩いていると、前方に1台の馬車が見えました。おそらく彼は、この馬車に乗っているのがとても偉い人だと気づいていたはずですが、はたして、馬車に乗っていたのは、地位の高い人物でした。

その男は、エチオピアのキャンダケ女王に仕える高官でした。彼は、女王の財産のすべてを管理していました。真の神様を信じており、神様を礼拝するためにエルサレムの神殿を訪れていました。そして、自分の故郷へ帰る途中でした。

馬車に乗っているあいだ、このエチオピアの高官は、イザヤ書に記されている、人類のために命をお与えになる神様の小羊について読んでいました。27,28 節。

聖霊は、この高官が読んでいるところの意味を理解できないでいるのを、ピリポに知らせました。高官は、聖書のこの部分をだれかに教えてもらう必要がありました。そこでピリポは、走ってその馬車に追いつきました。29 節。

かんが **考えてみよう:** **いま** 今やピリポは、なぜ**じぶん** **自分** **が** **あの** 砂漠の道につかわされたのかを **りかい** **理解** **していた** **と** **おも** **いますか?**

もくようび 木曜日

ピリポは、馬車に乗ったエチオピアの高官に追いつこうと走っていました。高官は、聖書を声に出して読んでいました。馬車に追いついたピリポは、彼に何とたずねましたか? **使徒 8:30**。

高官はおどろいたにちがいありません。彼はピリポに、何と答えましたか? 31



せつ 節。

じきにピリポと高官は、いっしょに馬車に乗っていました。高官は、イザヤ書のこの美しい聖句に書かれている人物は、イザヤ本人のことなのか、それともだれかほかの人のことなのかを知りたいと思っていました。32-34 節。

イエス様のことを伝えるための不思議なめぐりあい、そして、わたしたちを救うご計画のすばらしさは、はかりしれません! ピリポはまず、人々が神様の預言者たちを殺したことを話して聞かせました。そしてイエス様が来られたときも、人々が彼を憎んだことを話しました。そしてイエス様は、まさに、高官が読んでいるイザヤ書の小羊のように、人々に殺されたのでした。35 節。

高官がどれほどの感動にみたされたか、想像できますか? 彼は話を聞くうちに、ピリポの語っていることが真実であると知りました。預言は、イエス様のことを述べていたのです。高官は、読んでいたイザヤの預言書に記されている真の小羊が、イエス様であったことが理解できました。

高官がエルサレムを訪れたときには、おそらく神殿に一匹の小羊をたずさえて行ったはずですが、しかし今や、これらの小羊は、イエス様が死なれるために地上へ来られることを、人々に思い起こさせるため

のものであったことを知りま
した。しかも、あの真の神
の小羊であられるお方は、
すでに来られたのでした。
イエス様はすでに苦しみを
受けられ、すべての人のた
めに、死んで下さったので
す。

**かんが
考えてみよう:**エルサレム
へ向かうときの高官の考え
かたと、ピリポと話したあと
の考えかたとでは、どのよう
なちがひがありましたか？



ポの姿が見えなくなりま
した。彼はもう、そこには
いませんでした。神様
はピリポに、別の場所で
福音を伝えさせるご計画
があったからです。エチ
オピアの高官は自分の国
へ帰って、多くの人々に
イエス様のことを伝えたこ
とでしょう。39,40節。

**かんが
考えてみよう:**サタンは
おそらく、エルサレムの
教会の信者を痛めつければ、イエス様の
ことを伝えるのをやめるだろうと考えてい
たのでしょうか。その計画は、うまくいきまし
たか？いいえ。では、何が起こったかを話
してみましょう。

きんようび 金曜日

工チオピアの女王の高官とピリポ
は、いっしょに馬車に乗っていま
す。ピリポは高官にイエス様のことを話し、
高官は、イエス様が真の神のみ子、メシ
ヤであられることを、胸をおどらせながら
聞きました。彼のよろこびは、どれほど大
きかったことでしょうか！水のある場所に来
ると、高官はピリポに、「今ここで、私がバ
プテスマを受けられない理由があるでしょ
うか？」とたずねました。使徒 8:36,37。

ふたりが水に入ったとき、ピリポは高官
に、水をふりかけただけでしたか？ピリポ
は手で水をすくって、高官の頭に注いだ
だけでしたか？いいえ。ピリポは高官と
いっしょに水に入り、イエス様が受けられ
たのと同じバプテスマを授けたのでした。
38節。

ふたりが水からあがると、とつぜんピリ

まな もっと学ぼう！

しとぎょうでん しょう
★使徒行伝 8章

かんなん えいこう しょう
★患難から栄光へ 11章



ラージャの旅行その2

エルシー・ルイス・ローソン

これは、インドに住むある宣教師一家に与えられた、一羽の小さな九官鳥ラージャについての、本当のお話です。神様はラージャを用いて、たくさんの幸せを人々へ届けて下さいました。



わたしたちがガソリンスタンドに着いた

ころには、だれもいなくなっていました。その店員は木の下にすわり、何事もなかったかのように、うとうとと過ごしています。彼に通じる言葉で何が起きたのかを説明し、わたしたちの寝袋を見なかったかとたずねました。すると、彼はひどく怒り出しました。それでわたしたちは、この男が犯人ではないかと思ったのです！しかし彼は、寝袋をとっていないと言いはりました。

わたしたちは、彼の小屋に入って自分たちでさがすことにしました。すると思ったとおり、彼の古い寝具にまぎれて、わたしたちの寝袋がありました。わたしたちがそれをもつて来て見せると、店員はおどろいたふりをしました。

そして、その寝袋のことは何も知らないとくり返し言うばかりです。わたしたちは寝袋をとりもどせただけで満足だったの



で、この泥棒を警察につき出すことはせず、そこを去ることにしました。

まもなくわたしたちは再び、延々とつづく牛車の列を出たり入ったりしながら、くねくね道を進んでいました。

道ばたの猿を見て子供たちはうれしそうに笑い、また美しい風景に心をすっかりうばわれて、わたしたちは、カーヴィリ川の支流に近づいていたことに気がつきませんでした。ところが不意に、川のあちらこちらで水位が高くなり、水が岸を超えようとしていることに気がついたのです。

ああ、どうしよう？どうしたら向こう岸にわたれるのかしら？わたしたちは、どうしても向こう側の村に行かなくてははいけません。川の水が下がるのを待つのは無理です。川岸で、ひじょうに長い時間待つことになってしまうからです。

主人は車をバックさせながら3メートル

ほど道路の上り、それからアクセルを踏んで、向こう岸に着けるようにと願いつつ、一気に川の中へと車を走らせました。ヒュウ、ヒュウ、バシヤン！と、車は川のど真ん中で、完全に止まっ

てしまいました。またたく間に、水がわたしたちの足まであがってきました。わたしたちの寝袋はぬれ、水は今や、横にしば

りつけてあるスーツケースを超えて入ってきます。そして、車を前に進ませようとするほど、砂地の川底に沈んでいくのです。

わたしたちは全員すばやく這い出て、車の上に登りました。この混乱の中で、かわいそうなラージャのかごは川に落ちてしまいました。わたしたちは恐ろしくなって、大声で叫びました。しかしすぐに主人が川に手をのぼし、ラージャを助きました。川に浮いた鳥かごの中でずぶぬれになり、身を守るためにつかまっていた止まり木まで水があがってくるのに気づいたラージャは、怒り狂って文句を言っていました。この興奮の中で、ラージャは話すのをやめるどころか、タミル語、カラニース語、さらには英語でぺちゃくちゃと話していました。わたしたちは車の上にすわって、脇腹が痛くなるまで笑い、おかげで楽しいひと時が過ごせました。まあ、ラージャにとっては、少しもおかしくなかったのでしょうか。

まもなくしてわたしたちは、いくつかの牛車と長いロープで、安全に助け出されました。ロープは車にしっかりと結びつけられ、牛車が川に入って来ます。前へ進むことを牛にわからせるために、しっぽをかなりねじらなくてはなりませんでしたが、どうにかして、わたしたちは向こう岸に着くことができました。

初任地の伝道地区へ車がさしかかったころには、ちょうど、熱帯地方の光り輝く太陽が沈み、視界から消えるところでした。よろこびあふれる村の人々の歓迎の笑顔

は、この旅の間に起きたすべての苦勞をすっかり忘れさせるほどすばらしいものでした。

一方、ラージャはというと、泥だらけになった車の天井からしっかりとつり下げられた鳥かごに、大満足のようにすです。なにせ、何年分もの動揺と興奮を、いちどに十分すぎるほど味わったあとでしたから。

(つづく)



め 召しにこたえるサウロ

あんしょうせいく 暗唱聖句

「主よ、わたしは何をしたらよいでしょうか」
使徒 22:10

にちようび 日曜日

ステパノを石で打ち殺した、あの怒り狂った人々の上着の見張りをしていた若い青年、それがサウロでした。彼はローマ市民でしたが、ユダヤ人でもありました。両親は、サウロをエルサレムの学校に送ったのです。

サウロは、ユダヤ教徒の優秀な教師たちから教えを受けました。彼は教師たちを信頼していましたし、教師たちもすぐに、サウロがひじょうに賢い生徒であることに気づきました。彼らはサウロに、自分たちの作り上げた規則が重要だと教えこみました。サウロは彼らの言うことを信じたので、それらの規則を学び、したがっていました。サウロはいずれ有力な指導者になるだろうと、だれもが思っていました。

サンヒドリンの議会で呼ばれたステパノと議論する



ため、サウロもその場にきていました。ところが、ステパノと論じ合ってみると、彼が聖書をひじょうによく知っていることがわかりました。

サウロはイエス様会遇到、話を聞いたことはありませんでした。ただ教師たちから教わった神の国やメシヤは、イエス様が人々に教えられたものとはずいぶんちがっていました。「あのイエスがメシヤであるはずはない」という教師たちの言葉を、サウロは信じたのです。

ステパノの顔が輝いているのを見たサウロは、ほかの人たちと同じように恐怖を

おぼえました。もしかしたら、神がステパノと共におられたのだろうか？ステパノの顔を見たサウロは、そんな思いにかられました。また彼は、ステパノが天を見上げて「イエス様が見える」と言ったのも聞きました。さらにサウロは、ステパノが死ぬ直前に語った言葉を忘れることができず、思っていました。もしかしたら、ス

テパノの言ったことのほうが正しいのだろうか？

考えてみよう：サウロは正しいことをしたいと思っていましたか？彼の心に語りかけていたのは、だれでしたか？サタンがサウロにしてほしかったことは何ですか？



げつようび 月曜日

サウロが祭司や教師たちにステパノのことを話すと、彼らは、ステパノの語ったことが本当であるわけがない、と言いました。サウロがこれまで教えられてきたことのゆえに、また祭司や教師たちを知恵のある人たちと思いこんでいたために、彼らを信じてしまいました。そして、ステパノは死ぬべき人物であったという考えに賛同したのです。しかし、ステパノが死んだときのことが、いつまでたってもサウロの頭から離れませんでした。

サウロは、もしイエス様の信者たちがまちがっているのなら、彼らにイエス様のことを伝えさせないために、できるだけ祭司や民の指導者たちの力になろうと決心していました。

まもなく祭司や民の指導者たちは、サウロが彼らにとって強力な助け手であることが分かりました。ステパノの死後、彼らはサウロを議会の一員にしたほどです。**使徒 8:1,3。**

もしも、この強力な祭司たちの助け手であるサウロがあなたの家にやってきて、イ

エス様を信じているからという理由で、あなたを牢獄につれて行ったとしたら、あなたは どう思うでしょう？実際にこのようなことが、多くの信者たちに起こりました。当然、大勢の信者たちは、エルサレムを離れたはずです！ところが、ダマスコへ行った人たちは、そこも安全でないことに気づきました。なぜですか？**使徒**

9:1,2。

ダマスコは、どこにありますか？それは、エルサレムから遠く離れていました。そこへ行った信者たちは、人々にイエス様のことを教えていました。そして今ではダマスコで、さらに多くの新しい信者が加わっていました。そこでサウロはダマスコへ向かい、できるだけ多くの信者たちをさがし出してエルサレムへつれ帰り、彼らをこらしめようと決心しました。**使徒 22:4,5。**

考えてみよう：イエス様は弟子たちに、彼らは迫害を受けるだろうと警告なさいましたか？**マタイ 10:17,18。**これらの信者たちは、自分たちにどんなことが起ころうとも、イエス様に忠実であることを選びました。あなたならどうしますか？

かようび 火曜日

サウロと供の兵士らは、信者たちをさがし出してエルサレムへつれ帰り、処罰するために、ダマスコへ向かっていました。彼らは、木や草の生えていない、砂漠を旅していました。しかしダマス

ちか けしき いっぺん
コが近くなってくると、景色は一変します。
こくもつばたけ かじゆえん さいえん
穀物畑や果樹園や菜園がひろがって
おがわ なが うつく
て、小川も流れています。それは美しい
こうけい なが たび お
光景でした。長い旅がようやく終わりに
ちか みな
近づいたことを、皆よろこんでいました。

サウロと同伴者たちが目の前の光景を
ながめてみると、とつぜん、明るくまぶし
ひかり かれ て
い光が彼らを照らしました。その光がまぶ
しすぎて、ほとんど何も見えません。サウ
ロは、地面に倒れ伏しました。みんなが、
じめん たお ふ
恐怖におののきました。すると、声が聞こ
えてきて、サウロに話しかけました。その
こえ なん い
声は何と言いましたか？使徒 9:3,4。

サウロはおどろきのあまり、何もできま
せん。その声の主を見ようとして目を上げ
ると、天使のような姿の人が見えました。
サウロは何とたずねましたか？またその人
は、何と答えましたか？ 5 節。

わたしたちは時々、良心がとがめるとか、
こころ いた
心が痛むという言葉を耳にします。それ
は、聖霊が話しかけているということです。
その時、いやな気持ちになったり、おつ
かないきぶん
かかない気分になったりするのは、聖霊の
こえ き
声を聞かないようにしてい
るからです。ステパノが殺
されて以来、サウロはその
ようにしてきたのでした。
あの日、目にしたこと、みみ
にしたことが、彼をずっと
なや
悩ませていました。

かんが
考えてみよう：そんなサウ
ロの前にあらわれたのは、
イエス様ご自身でした。イ
エス様が直接、サウロとお



はなし
話なされたのです。サウロは、そのことを
かん
どう感じたのでしょうか？あなただったら、ど
う感じたと思いますか？

すいようび 水曜日

サウロは恐れおののいて、地面に倒
れてしまいました。たった今、イ
エス様から話しかけられ、これまで自分
のしてきたことが、すべてまちがだった
ことを知ったのです。イエス様について
かた ことば
語ったステパノの言葉が、ずっと彼を悩ま
せていたのは、せいれい はたら
でした。ふいに、じぶん
自分がこれまで助けて
いたのが神様ではなく、サタンであったこ
とを理解しました。なんと恐ろしいこと
でしょう！恐怖にふるえる声で、サウロはイ
エス様に何とたずねましたか？使徒 9:5。

いっしょにいた者たちも、すっかりふる
え上がってしまいました。強い光のため
に、ほとんど何も見えませんでした。サウ
ロだけはイエス様のお姿が見えて、その
ことば りかい
お言葉を理解しました。7 節。

サウロは、よろよろと立
ち上がりました。辺りを
見回そうとしましたが、あ
の強い光のために、目が
見えなくなっていました。
何も見えません。サウロは
まち
町へ着くまで、だれかに手
を引いてもらわなくてはな
りませんでした。8 節。

サウロの心は、かなり
こんわく
困惑していたはずです。ま

さに、^{さいあく}最悪の^{きぶん}気分でした。
 自分はこれまで、^{おそ}なんと恐ろしいことをしてきたのだろう!
 こんな自分を、^{かみさま}神様はゆるしてくださるのだろうか?これからどうなるのだろう?サウロは、自分が生きている価値のない人間であることを知りました。けれどもイエス様は、ダマスコに行けば、これからするべきことが告げられるだろうと言われたのでした。



ダマスコに着いたサウロは、「まっすぐ」という通りに住んでいる、ある人の家に行きました。しかしそこでも、^{かれ}彼はひとりになりたいと思いました。ひとりで考え、祈る必要があったのです。ただ確かなのは、途中でイエス様ご自身があらわれて、^{かれ}彼に話しかけられた、ということだけでした。

かんが **考えてみよう:** サウロはこの時、^{なに}何を思^{おも}い出していたのでしょうか?そのことについて、^{はな}話し合ってみましょう。

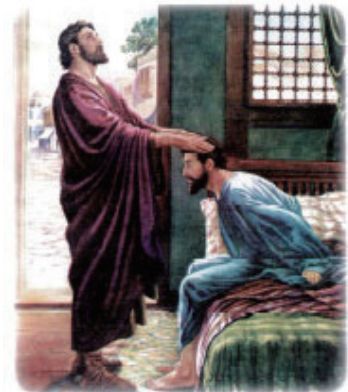
もくようび 木曜日

3 ^{かかん}日間、サウロは目も見えず、^{なに}何もできず、ひとりですわってすごしました。いろいろなことが思^{おも}い出されました。あまりにもつらくて、^{なに}何も口にしたくありませんでした。水さえも、^{のみ}飲む気になれませんでした。彼はただ、自分の犯してしまった恐ろしい過ちのことばかりを考えていました。^{いま}今や、自分が完全に^{まちが}まちがっていたことを理解したのでした。使徒 9:9。

イエス様はサウロに、次にするべきことが告げられるだろうと約束しておられました。どのように示されるのか、サウロはあれこれと思^{おも}いめぐらしたことでしよう。彼に告げるため次にあらわれたのは、イエス様ではありませんでした。サウロを助けるために、イエス様はある人^{ひと}をダマスコの教会^{きょうかい}からつかわされました。10-12 節。

サウロのことは信者^{しんじや}の^しだれもが知っており、^{おそ}恐れていました。それなのにイエス様は、アナニヤという人^{ひと}に、サウロを伝道者として選んだから、とにかく彼のところへ行くようにと言われたのです。13-16 節。

アナニヤは、おどろいたにちがいありません。それでもイエス様に信^{しん}頼していたので、^{かれ}彼はサウロのいる家へ行きました。サウロには話しかけたアナニヤは、^{かれ}彼を「兄弟」と呼びました。17 節。



かんが **考えてみよう:** ^{かみさま}神様は今でも、^{いま}まちがった考え^{かんが}の人^{ひと}を助けて下さいますか?あなたは、^{ひと}そのような人^{ひと}を知っていますか?

きんようび 金曜日

アナニヤは、サウロが泊まっている家へ行きました。サウロの心は、感謝の気持ちでいっぱいだったことでしょう！神様は彼をおゆるしになり、彼を助けるために人をつかわされたのでした。アナニヤがサウロの上に手をおくと、何が起こりましたか？使徒 9:18。

サウロはふたたび、目が見えるようになりました。そしてその夜、真にイエス様にしがう者として、バプテスマを受けました。「父と子と聖霊の名によって、あなたにバプテスマを授ける」という言葉を聞いたサウロは、感動にふるえたことでしょう。バプテスマを受けさせないよう人々を迫害していたサウロが、イエス様を心から信じる者となったのです。

少しの食事をとったあと、サウロはダマスコの信者たちと話をしました。自分が変えられたことを、信者たちに知ってほしかったのです。そこで、サウロは何をしましたか？ 19,20 節。

ダマスコの信者たちのだれもが、サウロの名を聞いたことがあり、当然、彼のことを恐れていました。信者たちは、サウロが本当に変わったのか、それとも変わったふりをしているのか、疑っていました。もしかすると、祭司や民の指導者たちからつかわされたスパイかもしれない、と思

いました。しかしまもなく、サウロが実際に変えられたことを知ります。22 節。

後になって、ダマスコのある者たちがサウロを殺そうと企んだとき、信者たちは彼を逃がしてあげました。大きなかごにサウロを入れて、城壁の上から地面におろしました。23-25 節。

考えてみよう：サウロはおそらく、ダマスコへ向かう道中の出来事を、いろいろな人たちになんども話したことでしょう。使徒行伝 22:6-21 を、家庭礼拝の時間に、

もういちど読んでみてください。サウロの人生は、ひとつの方向にまっすぐ進んでいたのに、とつぜん向きを変えて、反対方向に進み始めるのに似ています。祭司と民の指導者たちの強力な手先になると思われたその男は、彼らが心から憎んでいるイエス様の力強い働き人のひとりに変えられ

たのでした。ステパノは、自分がイエス様のために命を捨てたことによって、サウロが力強い伝道者になるとは、思いもしなかったことでしょう。天国で再会するときの、ステパノとサウロのうれしそうなお話を、あなたは想像できますか？

まほ もっと学ぼう！

しとぎょうでん
★使徒行伝 9 : 1-22

かんなん えいこう しょう
★患難から栄光へ 12 章



どろぼう どろぼう 泥棒！泥棒！

エルシー・ルイス・ローソン

これは、インドに住むある宣教師一家
に与えられた、一羽の小さな九官鳥ラ
ージャについての、本当のお話です。神様
はラージャを用いて、たくさんの幸せを
人々へ届けて下さいました。



わたしたちは、都会の
住み慣れた心地よ
い家を出て、インドの村に
ある原住民の家でくらし

ておりました。この家は、美しい川の
岸辺に建てられていました。毎夕、日が
暮れるころになると、子供たちは急いで川
へおりていき、冷たい水の中を歩きます。
特に、蒸し暑かった日などはそうでした。

ある日の夕方、子供たちは川にいて、
主人とわたしはある村をたずねていまし
た。家を出る前に、わたしたちはペットの
ラージャが鳥かごの中にいるか、また鳥
かごが垂木にしっかりとつり下げられてい
るかを確認しました。ラージャを猫やその
他の動物から守るためには、こうしなくて
はなりません。

子供たちが叫び声を聞いたのは、砂浜
に家を作ろうと夢中になっていた時のこと
です。彼らは耳をすませました。叫び声
はつづいています。聞き覚えのある声で
す。それはラージャの声でした。ラージャ
に何かあったのです。

彼らは家作りをやめて、走って家へもど
りました。玄関を開けると、それはもう、
ひどい光景です！猿の群れがどこからか家
に入って、そこにあるものすべてがめちゃ
くちやにされていました。トマトジュース、
むかれたバナナ、割れた卵が散乱してい
ます。子供たちが家に入ってくると、猿た
ちは窓へ向かって猛スピードで走り、そこ
からすべての猿がいちどに飛び出ようとし
ました。手には果物をにぎったまま、猿た
ちは、最後の一匹が出るまで押し合いな
がら大急ぎで出て行ったのでした。

ラージャは？鳥かごの扉は大きく開き、
ラージャの姿は見えません。きっと、恐ろ
しい戦いだったにちがいありません。な
ぜなら、ほかの物に混ざって床には羽が
散らばっていましたし、産毛は、まだそこ
ら中を舞っていたからです。

子供たちは悲しくなりました。彼らのか
わいいペットは、殺されてしまったのでしょ
うか？部屋中をさがしましたが、ラージャ
は見当たりません。返事がかえってくる
のを願いながら名前を呼びましたが、聞
こえるのは自分たちの声のこだまばかりで
す。子供たちは寝室へ行ってみました。ベッ
ドの下もさがしました。しかしラージャは
まだ見つかりません。子供たちはもういち
ど、呼びかけてみました。「ラージャ、ラー
ジャ、どこにいるの？」すると、かすか

な声が聞こえてきました。「ベティ、アーキー！」子供たちが声のするほうへ進んでいくと、洋服ダンスのところへ来ました。一番上の棚の片すみに、ラージャは体を丸くしてすわっていました。かわいそうに！彼の羽はひどく折れて乱れ、とても具合が悪そうです。しかし子供たちは、愛するペットがまだ生きていたことが本当にうれしくて、あわれな姿は気になりませんでした。

わたしたちが家に帰ってくると、子供たちは興奮したようすで、一部始終を話してくれました。わたしたちの大事なペットがあの泥棒たちに殺されなかったことを、心から感謝しました。

もちろん、実際に何が起こったのかを詳しく知ることはできません。ただ、もしラージャが話せたなら、きっと次のように報告したのではないかと思います。

「僕がかごの中の止まり木につかまって、ゆらゆら揺れていたら、窓の外からおかしな音が聞こえたんだ。見てみると、窓越しに、今まで見たことのない、おかしな顔があったんだよ。そしたらその顔が、急に2つ、3つ、4つに増えて、それはもう怖かったよ。この変わった人たち、いったいだれだったのかな？うちの犬のキミーには似てないし、猫のタビヤや遊び仲間たちともちがうんだよな。僕、彼らに誰なのか聞いたんだけど、答えないから、もう頭にきちゃったんだ。失礼なやつらだなんて！お父さんお母さんから、

礼儀というものを教えてもらわなかったのかい？話しかけられても、返事ができないのかい？

それで僕は、彼らに帰ってくれって言っただけど、まるで聞かないんだ。そしたらおどろいたことに、家に入って来たんだよ。僕はかごの中でおとなしくしてたんだけど、彼らが食糧棚から食べ物を盗むのを見て、もうそれ以上がまんがでなくなってるね。鳥かごの扉を開けて、彼らのところへ飛んで行って、くちばしで思

いっきりつついてやったんだ。そしたら皆でいっせいに飛びかかって来て、僕を捕まえようとしたんだ。もし僕がのろまでけんかに弱かったら、今ごろ、きっと殺されていたはずさ。まあ、たしかに羽は何本か抜きとられたし、パンチも数発は当たったけどさ。僕は口ばしでかなり強くつついてやったから、かなりこたえたと思うよ。そのあとやつらは、う

なりながら僕をつかまえようと必死だったからね。それで洋服ダンスにかく隠れたってわけ。遊び仲間の呼ぶ声が聞こえたときは、もううれしくてたまらなかった！とにかく、あの恐ろしい連中が、二度と我が家に入らないことを願うよ。」

(つづく)



Line Art From Right, Lester Quade

だい しょう 第 13 章



子供のための日々の
聖書研究ガイド

イエス様の愛を分かち合う

あんしょうせいく 暗唱聖句

かみ ひと
「神は人をかたよりみないかたで、神を敬い義を行う者
はどの国民でも受け入れて下さることが、ほんとうによ
くわかってきました。」使徒行伝 10:34, 35

にちようび 日曜日

エルサレム以外の多くの場所で、イエス様の福音が伝えられることになっていました。いずれ福音は、全世界に広まることでしょう。多くの信者たちは、エルサレムを去らなければなりませんでしたが、彼らは行く先々で人々に、イエス様のことを伝えました。

使徒たちは信者たちを訪問したり、彼らがイエス様のために働くことができるように教えたりと、忙しくしていました。

ペテロがおとずれた場所のひとつに、ルダという町がありました。そこで、アイネヤという名の中風をわずらっている信者に会いました。アイネヤは8年



のあいだ寝たきりで、健康な人たちのように動くことも、歩くこともできませんでした。ペテロは彼に何と言いましたか？使徒 9:32-34。

アイネヤは、どんなによろこんだことでしょうか！その時から、彼がベッドを必要としたのは、夜眠るときだけになりました。もはや彼は、寝たきりではありませんでした。

アイネヤがいやされたことは、あっという間に多くの人々に知れわたりました。ア

イネヤは、イエス様が彼にしてお下さったことを、よろこんで人々に伝えたことでしょう。これらの人々の多くは、何をされたと思いますか？ 35 節。

ルダからそれほど遠くないところに、ヨッパという町がありました。ある日のこと、ヨッパからふたりの男がペテロのところへやってきまし

た。とても重大な知らせがあるようです。「どうか今すぐに、ヨッパへいらして下さい。助けが必要なのです」と、彼らは言いました。「お願いします。できるだけ早く来て下さい。」

男たちはおそらく、ペテロといっしょにそこへ向かいながら、大切な人が亡くなったことを話したのでしょう。その亡くなった人とは、だれのことでしたか？

36-38 節。

考えてみよう：すべての病と死をわたしたちの世界にもたらしたのは、サタンですか？しかし最後には、イエス様がこれらの悲しいことを、祝福に変えて下さいますか？

ローマ 8:28。



まったのです。みんなが深く悲しんだのは言うまでもありません。

亡くなったドルカスのところへペテロがかけつけてみると、大勢の人がそこに集まって泣いていました。彼らはペテロに、ドルカスが縫ってくれたいくつもの服を見せました。彼女がみんなから慕われ、必要とされていたことがペテロにもよくわかりました。彼らがひじょうに悲しんでいたからです。使徒行伝 9:39。

ペテロは人々に、部屋から出て行くように命じました。彼は、ひとりで祈る必要がありました。イエス様のみ心であれば、彼はドルカスを簡単に生き返らせることができになるのを、ペテロは知っていたのです。

イエス様にお問い合わせしたあとで、ペテロは立ち上がりました。それから、イエス様の名によってドルカスに語りかけました。するとイエス様は、ペテロの祈りに答えて下さったのです。40,41 節。

なんとすばらしい奇跡でしょう！家中をみたしていた悲しみの声が、歓喜の声に変わりました！未亡人たちがペテロに服を見せているようすを目にしたドルカスは、きっと、にっこりほほ笑んだことでしょう。そしておそらく、だれか助けを必要としている人はいないか、すぐに聞いてまわったのでしょうか。

考えてみよう：多くの教会では、親切な女性たちが、ドルカスのように他の人たち

げつようび 月曜日

愛するドルカスが亡くなりました。ドルカスという名前は「鹿」という意味です。これらの動物は、すばやく動くことができますよね？同じようにドルカスは、人助けをすることにおいてすばやく行動する女性でした。ある家族が食べ物や着物を必要としたら、その必要なものをすぐに分け与えました。悲しんでいる人々に対しては、どのように彼らをなぐさめ、また元気にさせるかをよく心得ていました。ドルカスはいつでも、人助けの方法をよく知っているようでした。そのドルカスが、とつぜん病気になるって死んでし

たす はたら きようかい
を助ける働きをしています。あなたの教会
ではどうでしょう？

かようび 火曜日

ヨ ッパから50キロほど北にあるカ
イザリヤという町に、ローマの
有力な百卒長である、コルネリオという
人が住んでいました。百卒長というのは、
百人の兵隊をまとめる隊長のことです。

コルネリオは異教徒の家庭に生まれた
ため、当然、彼の両親は神様を信じてい
ませんでした。でもコルネリオは、神様
のことを耳にしていました。そして大人
になってから、彼自身も家族の人たちも、
真の神様を礼拝するようになりました。コ
ルネリオは毎日祈っていましたし、神様が
ともにいて、助けて下さるようお願いし
ていました。コルネリオは裕福でしたが、
自己中心ではありませんで
した。彼は多くの貧しい人
を助けたので、みんなが彼
のことを尊敬していました。
使徒 10:1,2。

コルネリオは神様を愛
し、礼拝していましたが、
ユダヤ教会の一員ではあり
ませんでした。なぜでしょ
う？それはおそらく、彼が
住んでいた地域にあるユダ
ヤ教会の指導者たちが、ユダヤ人以外の
人たちと礼拝をしたくなかったからでしょ
う。ユダヤ人指導者たちは、他民族の人々
が真の神様を信じていても、彼らのことを



いほうじん よ
異邦人と呼んでいました。

コルネリオは、メシヤが来られるという
預言者の言葉を知っていましたし、また、
その預言が実現することを心から願ってい
ました。まだイエス様についての真理を
聞いたことがなかったので、メシヤがすで
に来られたことを知りませんでした。しか
し、イエス様はコルネリオのことをご存知
で、ご自分のことをコルネリオに知らせた
いと望んでおられました。

ある日の午後、コルネリオが祈っている
と、とつぜんひとりの天使があらわれて、
彼の名前を呼びました。3節。

かんが
考えてみよう：あなたがコルネリオだっ
たら、どんな気持ちだったと思いますか？

すいようび 水曜日

あ る日コルネリオが
祈っていると、と
つぜんひとりの天使があら
われて、彼に話しかけまし
た。最初は怖がってしまし
たが、神様が祈りに答えて
下さったのだと確信しまし
た。使徒 10:4。

コルネリオは、イエス様
についての真理を知る必要
がありました。それならば、
天使が彼に教えることはできなかつたので
しょうか？もちろん、できたはずです。し
かし神様は、わたしたちを救うすばらしい
ご計画が、人から人へ伝えられることを
望んでおられるのです。天使は、コルネリ



オに何と言いま
したか？ 5,6 節。

天使は、ペ
テロがまだヨッ
パにいることを
知っていました
し、ペテロを泊
めている人の

名前も、またその家が海のそばにあること
も知っていました。そこで天使は、コルネ
リオがペテロに会うためにどこへ行けばよ
いかを教えました。

コルネリオは、とてもわくわくしたにち
がいありません。偉大なる天の神様が、
コルネリオを助けるためにひとりの天使を
つかわすほど、彼のことを気にかけてお
られたのです。コルネリオはただちに、ふ
たりのしもべとひとりの兵士を呼びました。
彼らも、神様を愛する人たちでした。コル
ネリオは彼らに天使から告げられたことを
話し、まもなく3人の男たちは、ペテロに
会うために出発しました。 7,8 節。

もしかするとコルネリオは、自分がつか
わした者たちといっしょにペテロが来てく
れるかどうか、不安に思ったかもしれませ
ん。コルネリオは、ユダヤ人ではなかつ
たからです。ペテロは、自分の家に来ること
さえも断らないだろうか？それでもコル
ネリオは、神様を信頼していました。です
から、天使の指示にしたがったのでした。

ペテロが家に来るのを待つ間、コルネ
リオは、ペテロの話聞かせるために、
親戚や友人を招待しました。

考えてみよう：ペテロのいた場所を、

神様はご存じでしたか？神様は、わたした
ちのことも、何でも知っておられるのです
か？

もくようび 木曜日

コルネリオの使者たちがペテロに会
おうと旅をしている間、彼はまだ
ヨッパにいて、信者たちを助けていました。
ペテロがコルネリオの使者たちといっしょ
に行くのをためらうであろうことを、神様
はご存じでした。神様は、ユダヤ人と同
じくらい他民族の人たちも愛しておられる
ことについて、彼は学ぶ必要がありました。
コルネリオの使者たちが到着する前に、ユ
ダヤ人以外の民族に対する自分の考えが
まちがっていることを、ペテロは理解する
必要がありました。

コルネリオの使者たちは、もうヨッパの
近くに来ていました。ペテロはどこに
いるのでしょうか？彼は何をしていましたか？使徒
10:9,10。

ペテロは、神様がどんな人でも愛してお
られることを彼に理解させるための幻を、
見せられようとしていました。神様がお示
しになったこの
幻の中で、ペ
テロは何を見ま
したか？ 11,12
節。

ペテロが 幻
で見たこの大き
な布の中には、
様々な種類の



動物が入っていました。それらの動物は清くないので、ユダヤ人は、絶対に食べてはいけな^{おし}いと教えられていました。すると声^{こえ}が聞こえました。ペテロは、イエス様が彼^{かれ}に話^{はな}しかけておられること^{こと}に気づきました。イエス様はペテロに、何^{なに}をするようにとおっしゃいましたか？ 13 節。

ペテロは、おどろいてしまいました。イエス様がお命^{めい}じになったことは、彼^{かれ}には考え^{かんが}られないようなことでした。そこでイエス様は、ペテロに何^{なん}とおっしゃいましたか？ 14,15 節。

何^{なに}が起きているのか、ペテロにはまるで理解^{りかい}できません。イエス様が、それらの清くない動物^{どうぶつ}を食べるよう^{よう}にお命^{めい}じになるはずはないと確信^{かくしん}していましたから。すると、また同じ^{おな}ことが起きました。そして、またも同じ^{おな}ことが起きました。3度もあ^あの布^ぬがお^おりてきて、3度とも、あ^あの声^{こえ}が同じ^{おな}ことを告^つげたのです。16 節。

考えてみよう：実際にイエス様は、布^ぬに入^いった清くない動物^{どうぶつ}たちを、ペテロに食^たべてほしかったのですか？いいえ。イエス様が彼^{かれ}に理解^{りかい}させようとなさ^なったのは、ほかの民族^{みんぞく}の人^{ひと}たちを「清くない者^{もの}」と呼^よぶべきではないということでした。ペテロは、コルネリオがちがう民族^{みんぞく}だからという理由^{りゆう}で、彼^{かれ}を清くない者^{もの}と見^みなすべきではありませんでした。

きんようび 金曜日

布^ぬに入^いった清くない動物^{どうぶつ}たちの奇妙^{きみょう}な幻^{まぼろし}についてペテロが考^{かんが}えて

いと、外^{そと}から声^{こえ}が聞こえてきました。だけれど、「シモン・ペテロという方^{かた}が、ここにお泊^とまりではございせんか？」とたずねています。使徒^{しと} 10:17,18。

だれが何^{なん}の用^{よう}で自分^{じぶん}に会^あいにきたのか、ペテロには見当^{けんとう}もつきませんでした。しかし、するべきことは聖霊^{せいれい}が教^{おし}えて下さ^{くだ}さいました。いつでも聖霊^{せいれい}の声^{こえ}にしたがうことを学^{まな}んでいたペテロは、急^{いそ}いで階^{かい}段^{だん}をおりて、外^{そと}の人^{ひと}たち^{はな}に話^{はな}しかけました。19-22 節。

翌日^{よくじつ}ペテロは、ヨッパの信者^{しんじや}数人^{すうにん}をつれて、コルネリオの使者^{ししや}たちといっしょに出発^{しゅつぱつ}しました。自分^{じぶん}の家^{いえ}に到^{とう}着^{ちやく}した彼^{かれ}らに、コルネリオはどのように感謝^{かんしゃ}の気持^{きもち}をあらわしましたか？コルネリオ^たいに対して、ペテロはすぐに何^{なん}と言^いいましたか？ 23-26 節。

コルネリオの家^{いえ}では、大勢^{おおぜい}の人^{ひと}たちが待^まっていました。自分^{じぶん}たち^あに会^あう目的^{もくてき}で来てくれたペテロを見て、彼^{かれ}らはおどろいたにちが^{ちが}いありません。なぜなら、他民族^{たみんぞく}の人^{ひと}たちをユダヤ人^{じん}がどう思^{おも}っていたかは、彼^{かれ}らのだれもが知^しっていたからです。そこでペテロは、なぜ自分^{じぶん}がここへ来たのかを説明^{せつめい}しました。それから彼^{かれ}らに、なぜ自分^{じぶん}に來^きてほしいと思^{おも}ったのかをたずねました。27-29 節。

コルネリオは、4日前^{かまえ}、祈^{いの}っていたとき



に、天使が彼のもとに来たことをペテロに話しました。30-33節。

この時ペテロは、本当に大切なことを、神様が教えて下さったことに気づきました。イエス様が、すべての人を同じように愛しておられることをお示しになっても、他民族に対するペテロの古い考えは、まだ心の中に残ったままでした。しかし今、ペテロはよろこんで、彼らにイエス様のことを話せます。そしてこのあと、神様がユダヤ人を愛するのと同じように、異邦人も愛しておられることを示す出来事が起こりました。44節。

そして、ペテロといっしょにヨツパから来ていたユダヤ人の信者たちも、異邦人に対する自分たちの考え方がまちがっていたことを理解したのでした。45-48節。

考えてみよう：人々は時々、ペテロが見た、布に入った清くない動物についての幻の意味について、神様がわたしたちに、どんな動物でも食べてもよいという許可を下さっているのだ、と言うことがあります。しかし、神様が幻で教えておられたのは、食べ物についてですか、それとも人々についてでしたか？使徒 10:28 を、もういちど読んでみましょう。

まな
もっと学ぼう！

しとぎょうでん しょう
★使徒行伝 9 : 32-43, 10 章

かんなん えいこう しょう
★患難から栄光へ 14 章



うた お 歌の終わり

エルシー・ルイス・ローソン

これは、インドに住むある宣教師一家
に与えられた、一羽の小さな九官鳥ラー
ジャについての、本当のお話です。神様
はラージャを用いて、たくさんの幸せを
人々へ届けて下さいました。

ラージャがわたしたちと暮らしてい
たころ、わたしは声楽の学位をと
るために勉強していました。

わたしがピアノで最初の和音をならす
と、ラージャは自分のしていることをや
めて、ピアノの上に飛んできます。そし
て、私が音階を上がったり下がったりして
発声練習するのを、ひじょうな
関心をもって聞くのでした。そ
れから、わたしの真似をしよう
とします。「ドーレーミー、ドー
レーミー」と、彼の小さな口か
ら聞こえてきます。

ラージャは、音階のすべてを
覚えることはできませんでした
が、わたしが歌ういろいろな曲
の最も美しいメロディーをよく
覚えました。時には、われを忘
れて歌っているようにも見えました。そし
て、まるでどこか別の世界から来た鳥なの
ではないかと思えるくらい、とても美しく
歌うのでした。

子供たちがいないときは、ラージャが
いつもいっしょにいてくれました。わたし
とラージャがあんなに親しくなれたのは、
おそらく音楽のおかげでしょう。わたしは
家事をしながら、いつも歌ったり、口笛を
吹いたりしていました。そのときにラージャ
は、たくさんの美しい曲を覚えました。

おなじみの曲のひとつに、「優しいまま
でいて!それがただひとつの道だから」と
いう歌がありました。ラージャは、これが
どんな時に歌われるべきかをよく心得て
いるようでした。子供たちが不平を言っ
たり、けんかをしたりしていると、ラージャ
は間に入って来て、強く
命令するような鋭い口調
で、「優しいままでいて!優
しいままでいて!ただひと
つの道!ただひとつの道!」
と叫ぶのでした。幼かっ
た子供たちは、この神様
の小さな被造物が教えよう
とした教訓を、決して忘れ
ませんでした。

ある日、イエス様のこと
をもっと学びたいというヒンダスのグルー
プから、連絡を受けました。彼らが住ん
でいたのは、寒くてじめじめしたクールグ
山地でした。わたしたちのだれもが、ラー



ジャはこの急な気候の変化に耐えられないだろうと思いました。ベティとアーキーは毛織のコートと毛織の長い靴下を身につけることができますが、小さなラージャには無理です。そう、元気に飛びまわる小さい鳥を毛糸か何かでつつむのは、むずかしくすぎました。

わたしたちの最愛のペットを、どこに住まわせたらいいのでしょうか？南インドのバンガローレから12キロほど離れたところに、わたしたちの教会の訓練学校があります。この学校の校長先生とご家族は、なんどもわが家を訪れたことがあります。彼らはラージャのことをいつも覚えていて、彼を飼ってみたいと思っていたようです。ラージャを数週間あずかってほしいと願い出ると、彼らは大よろこびしました。

そういうわけで、ラージャは学校にあずけられ、わたしたちは寒くてじめじめしたクールグ山地へ行くことになりました。

この小さなお友だちのことが、わたしたちはどんなに恋しかったことでしょう！食卓の席はひとつあき、わたしたちの心の中にもぽっかり穴があいていました。ラージャがわが家に来て、日々の生活を明るくしてくれてから、もう1年以上がたっていました。わたしたちは、彼のちょっと変わった行動と、明るく元気な気質が大好きでした。毎日、わたしたちはラージャのことを思い、新しい家でうまくやっているかなどと思いめぐらしていました。

新しいお友だちは、ラージャと数日ほど過ごしたころ、ラージャが食べていないことに気づきました。ラージャは病気になる、

すっかりおとなしくなっていました。優しくなでられ、愛情ぶかく看病してもらったにもかかわらず、病状は悪くなる一方でした。ひどく心配になったラージャの新しいお友だちは、いくつか治療を始めることにしました。しかしその努力も、ラージャの命を救うことはできませんでした。病気のラージャは最後の日、新しいお友だちの手にだかれていました。彼らはラージャにつきっきりでしたし、よくなってほしいと願いつづけていましたが、願いはかきませんでした。

最後の何時間か、ラージャはけん命に何かを言おうとしましたが、声を出すことができませんでした。それはまるで、お友だちや遊び仲間にお別れの言葉を伝えようとしているかのようでした。わたしは鳥の言葉を知りませんが、ラージャが言おうとしていたのは、きっとこうだったと思っています。「ねえ、みんな。こんなにすてきで、幸せな一生をありがとう。」彼ならきっとそのように言っただろうと、わたしは思っています。

お
(終わり)

